

小樽市観光入込調査 デジタル技術活用業務 分析結果（総括版）

2025.3.25



Pacific
Consultants

令和6年度 小樽市観光入込調査デジタル技術活用業務

【業務目的】

- 小樽市では、昭和35年度から観光入込客数調査を実施しているが、外国人の日帰り客数や観光客の移動等については把握していない。また、適時性・迅速性に欠け、調査協力施設等（観光地点）の確保が難しいといった課題がある。
- 外国人観光客が増加するなど小樽観光を取り巻く状況は変化しており、データ分析に基づく「打ち手」を検討する必要があることから、本業務においては、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準（令和5年改訂版）」の調査要領に準じ、GPS人流データを活用し多サンプルに基づく来訪者（国内・外国人）の把握を目的とする。
- また、小樽市がこれまで実施してきた観光入込客数調査をGPS人流データを使用した調査に切り替える場合の両者の結果の違いの傾向を把握するとともに、GPS人流データを用いる際の観光入込客の定義や、観光入込客の移動元・移動先分布に係るデータ取得のあり方、観光消費額算定上の観光入込客数（実人数）把握のあり方についての検討も併せて行うことを目的とする。

【調査対象地】 小樽市全域のほか、以下の8エリア

- ① **中心部エリア** : 稲穂、花園、色内1・2丁目、港町（第3ふ頭除く）、堺町、東雲町、山田町、相生町、入船1・2丁目、住之江、住吉町、若松
- ② **小樽運河** : 小樽運河周辺（運河公園～浅草橋先）
- ③ **祝津・高島・手宮エリア** : 色内3丁目、手宮、高島、祝津
- ④ **天狗山エリア** : 天狗山、最上2丁目
- ⑤ **築港エリア** : 有幌町、信香町、築港（勝納ふ頭除く）
- ⑥ **朝里川温泉エリア** : 新光5丁目、朝里川温泉
- ⑦ **銭函・張碓エリア** : 張碓町、春香町、桂岡町、銭函1～3丁目、見晴町、星野町
- ⑧ **第3ふ頭〈クルーズ〉** : 港町（第3ふ頭のみ）

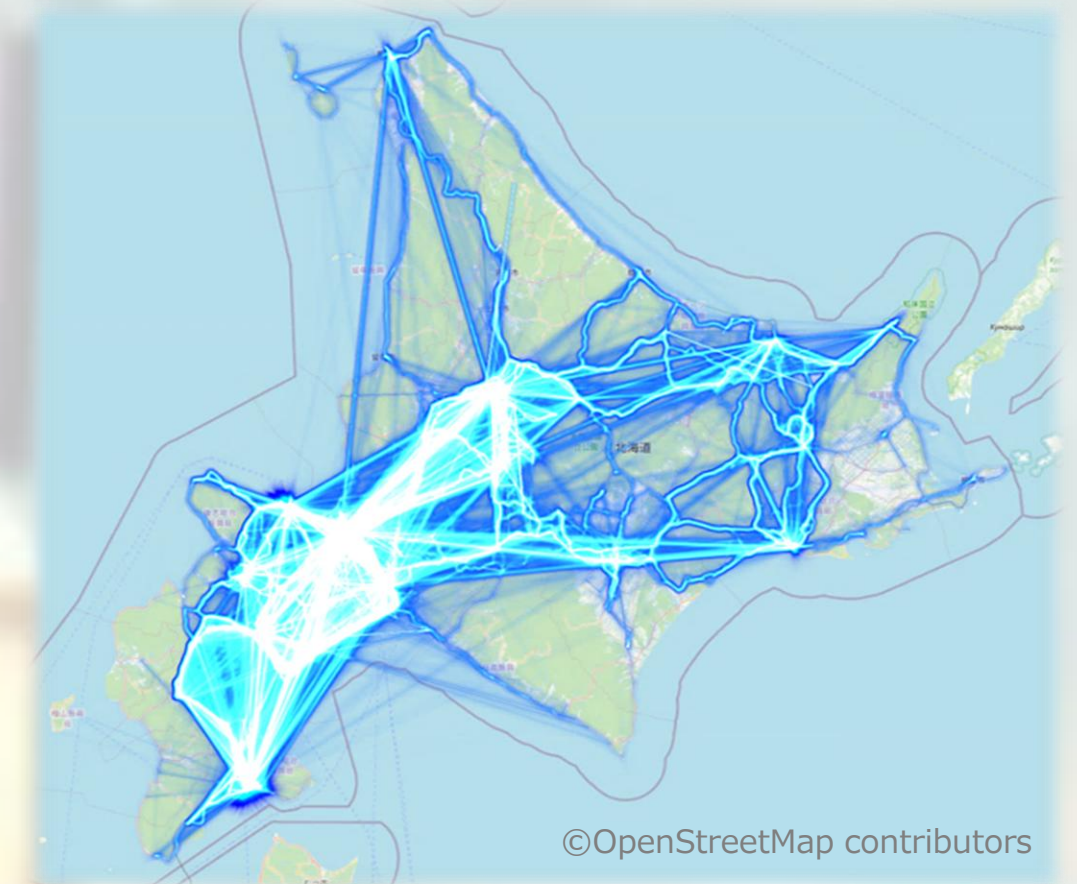


全国インバウンド統計

【網羅性】 24時間365日、全国数千万人のインバウンドの移動を高精度に把握

【機能性】 独自のロジック (特許技術) から、来訪・周遊動向を居住国別や交通手段別に分析

【有用性】 ご要望に応じ可視化・解釈や施策検討まで伴走、真に役立つアウトプットを提供

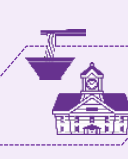


できること

インバウンド携帯端末のGPS位置情報 Powered by  **Azira**™

メニュー

施設来訪分析 

エリア来訪分析 

広域周遊分析 

分析項目

※選択内容によりお見積りいたします。

来訪人数 / 宿泊客数

滞在時間 / 宿泊日数

居住国 (中・露は除く)

交通手段・移動経路

+ オプション ・性別 ・年代 ・拡大推計(居住国別) ・消費スタイル ・集客施策案の検討

ユースケース

観光

- ・各観光地等への来訪状況の把握
- ・in-out空港や周遊ルートの把握
- ・重点ターゲット・ペルソナの検討
- ・プロモーション検討、効果検証 等



交通

- ・二次交通検討・周遊ルート造成
- ・多言語対応コンテンツによる誘客
- ・道路整備効果検討の多角化
- ・交通安全対策検討の強化

商業・不動産

- ・商品仕入・テナント誘致の最適化
- ・ライバル施設等への来客分析
- ・出店候補地への来訪客層把握
- ・開発・不動産投資の重点検討

項 目	内 容
「（日本人）観光客」の定義について	日本人全体から、小樽市民のほか、小樽市に月6回以上来訪している人※および小樽市内が通勤/通学先と判定されている人を除いたもの。 ※「観光入込客統計に関する共通基準（令和5年改訂版）」（以下「共通基準」という）の定義に基づく。
インバウンドの捕捉について	国家体制上、中国人の位置情報は捕捉することができないため、以下の方法で人数の補完を行っている。 ①新千歳空港の出入国管理統計から、「中国人」と「台湾人＋香港人＋韓国人」の比率を算出。 ②人流データにおける「台湾人＋香港人＋韓国人」の合算値に上記比率を掛け合わせ、「中国人」の人数を補完。 ※中国人のほかロシア人の位置情報も捕捉することができないが、統計上無視できる状況にある（新千歳空港の入管統計で約2.5人/日）。
拡大推計について	主に、国別のサンプル率（日本人・インバウンド）、人口統計（日本人）、出入国管理統計（インバウンド）により、国別の拡大推計を実施している（いずれも詳細は非公開）。 なお、拡大推計も含め本頁記載の各種ロジックは、同一業務内で変更されるものではなく、安定性を確保している。
滞在判定について	エリア内に一定の時間以上滞在することにより、入込客としてカウントしている。 滞在判定の閾値は原則として「15分」としているが、エリアの面積や性質をふまえ、②小樽運河エリアは「0分」、⑥朝里川温泉エリア/⑦銭函・張碓エリアは「30分」に設定している。
宿泊地/居住地判定について	午前2-3時台に最も多く滞在していた地点を宿泊地、数か月間に最も多く滞在していた宿泊地を居住地と判定している。 ※共通基準では「午前4時に滞在していた地点を宿泊地とみなす」としているが、午前4時ちょうどに位置情報を捕捉できるとは限らないため。
交通手段判定について	位置情報の「移動ルート」と「移動速度」により判定を行っており、JR/クルーズ/自動車/徒歩 の4つに分類される。 なお、自転車については走行速度に幅があることから、10km/hを閾値として自動車または徒歩に振り分けている。
個人情報保護について	位置情報から個人が特定されないよう、緯度経度がずらされて記録されることがある。 また、同様の観点から一定の閾値を下回ったデータは秘匿されるが、その可能性は分析項目により異なる。 インバウンドの一例として、「居住地」は国のみで細分化されており秘匿可能性が比較的低いが、「来訪時間帯×周遊先分布」は、国・時間帯・周遊先の掛け合わせとなるため秘匿可能性が高くなる。

入込客数等

小樽市の観光入込客数等（2024年）

● 居住地別の入込客数・宿泊客数

エリア	項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
小樽市全域	観光入込客数	542,500	614,100	495,900	379,500	468,300	579,700	685,200	738,300	584,300	636,200	458,000	735,000	6,917,100
小樽市全域	うち道内	416,700	497,800	380,700	293,200	367,600	480,100	533,200	566,500	456,700	472,700	343,900	544,000	5,353,200
小樽市全域	うち道外(外国人含む)	125,800	116,300	115,100	86,300	100,700	99,700	151,900	171,800	127,600	163,500	114,200	191,000	1,563,900
小樽市全域	うち外国人	56,900	53,900	53,600	30,900	30,200	19,800	73,000	85,900	54,100	74,900	60,400	112,700	706,200

エリア	項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
小樽市全域	宿泊客数	73,200	80,300	67,700	52,200	59,600	84,200	102,300	111,600	85,800	86,200	71,200	87,000	961,100
小樽市全域	うち道内	32,500	34,900	33,000	25,200	31,200	44,100	42,600	46,800	36,500	35,700	30,300	33,700	426,500
小樽市全域	うち道外	22,500	19,600	23,400	18,200	20,800	27,100	30,400	35,900	27,600	25,200	19,900	22,100	292,700
小樽市全域	うち外国人	18,200	25,800	11,400	8,800	7,500	13,000	29,200	28,900	21,700	25,300	21,000	31,200	241,900

● エリア別の入込客数

人流データによる入込客数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
来訪判定エリア：小樽市全域	542,500	614,100	495,900	379,500	468,300	579,700	685,200	738,300	584,300	636,200	458,000	735,000	6,917,100
来訪判定エリア：中心部	196,600	214,800	178,700	143,700	170,500	182,900	244,900	261,600	207,800	240,700	166,700	273,900	2,482,700
来訪判定エリア：運河	171,200	191,600	164,500	124,500	148,400	153,300	225,400	233,600	187,500	212,900	151,000	245,400	2,209,400
来訪判定エリア：祝津・高島・手宮	25,600	28,800	23,100	17,800	23,900	24,600	35,700	38,500	29,100	30,700	20,500	37,600	335,800
来訪判定エリア：天狗山	4,800	5,700	4,700	3,000	4,000	5,700	6,500	7,500	5,900	6,600	3,600	9,000	67,200
来訪判定エリア：築港	41,000	47,300	40,400	29,400	36,700	45,200	57,300	63,300	49,000	51,400	35,600	59,400	556,200
来訪判定エリア：朝里川温泉	12,800	15,400	10,400	8,900	10,300	10,600	14,400	15,400	13,500	13,400	9,500	16,200	150,800
来訪判定エリア：銭函・張碓	51,900	59,000	44,500	34,100	45,100	62,900	61,700	65,700	51,700	58,100	40,100	65,100	639,900

小樽市の観光入込客数等（2024年）

● 入込客数 道内客 ※上位20市町村

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
道内（小樽市除く）	416,700	497,800	380,700	293,200	367,600	480,100	533,200	566,500	456,700	472,700	343,900	544,000	5,353,200
札幌市	304,570	368,500	278,310	214,450	265,280	340,210	382,770	406,060	327,910	338,700	245,360	391,790	3,863,890
石狩市	10,930	12,210	9,530	7,300	9,430	14,650	13,850	14,810	11,480	11,500	9,140	14,760	139,600
余市町	7,780	9,320	7,180	5,690	7,010	24,110	9,960	11,350	9,360	10,360	7,120	11,640	120,880
江別市	9,250	9,910	8,440	6,370	8,130	8,440	11,460	11,950	10,300	10,740	7,970	12,320	115,280
旭川市	7,830	8,790	7,180	5,130	7,230	7,100	9,850	10,850	8,080	8,460	6,440	9,620	96,560
苫小牧市	7,780	9,510	6,630	5,510	6,530	6,930	10,000	10,400	8,600	8,130	6,240	9,330	95,590
函館市	6,320	7,640	6,090	4,090	5,970	6,950	9,670	10,500	8,210	7,660	5,850	9,580	88,500
千歳市	6,440	6,450	5,820	4,090	5,840	5,740	8,580	8,900	6,500	6,820	5,280	7,700	78,160
北広島市	4,840	5,330	4,310	3,090	4,070	5,120	5,840	6,530	5,210	5,260	3,730	6,260	59,600
倶知安町	4,050	5,300	3,550	3,400	3,970	6,010	5,900	5,560	5,680	5,120	3,720	6,480	58,730
恵庭市	4,240	4,530	3,130	2,530	3,280	3,510	5,270	4,940	4,670	4,210	3,300	4,830	48,440
岩見沢市	3,660	4,400	3,030	2,560	3,010	3,720	4,740	5,730	3,870	4,400	3,170	5,140	47,440
帯広市	2,900	3,570	2,610	2,100	2,910	2,730	4,080	4,700	2,720	4,090	2,610	4,180	39,190
釧路市	2,230	2,710	2,040	1,480	2,150	2,440	3,140	3,690	2,600	2,900	2,060	2,970	30,420
岩内町	1,770	2,360	1,610	1,360	1,710	3,120	2,760	2,650	2,280	2,720	1,850	2,670	26,860
室蘭市	1,880	1,900	1,480	1,480	1,870	2,120	2,530	2,430	1,740	2,360	1,590	2,470	23,860
北見市	1,630	1,920	1,410	1,010	1,400	1,490	1,960	2,580	1,910	1,800	1,330	1,980	20,410
登別市	1,570	1,810	1,340	1,120	1,340	1,700	1,820	2,130	1,880	2,010	1,330	2,080	20,130
共和町	1,000	1,390	1,340	980	1,000	2,080	1,720	1,920	1,700	1,770	1,240	1,790	17,930
伊達市	1,420	1,710	1,310	940	1,180	1,720	1,930	1,680	1,250	1,480	1,170	1,330	17,100

小樽市の観光入込客数等（2024年）

● 入込客数 道外客 ※上位20都府県

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
道外（外国人除く）	68,900	62,500	61,600	55,300	70,500	79,900	79,000	85,900	73,500	88,700	53,700	78,300	857,800
東京都	17,380	15,530	15,230	13,590	17,420	20,300	18,670	21,150	17,300	21,430	12,570	18,720	209,290
神奈川県	7,800	6,990	6,780	6,440	8,080	9,280	8,560	9,920	8,690	10,700	6,210	9,100	98,540
大阪府	7,640	7,250	7,290	6,190	7,440	7,520	8,340	9,000	8,670	9,470	5,840	8,520	93,160
埼玉県	5,780	4,980	4,860	4,440	5,820	6,510	6,730	6,850	5,770	6,790	4,350	6,240	69,120
千葉県	5,400	4,780	4,850	4,670	6,110	6,630	6,150	7,120	5,710	7,080	4,080	6,240	68,820
兵庫県	3,820	3,250	3,270	2,680	3,370	3,910	3,990	4,350	3,930	4,330	2,860	4,160	43,930
愛知県	3,350	2,910	3,020	2,870	3,420	3,910	4,300	4,280	3,340	4,600	2,940	3,950	42,880
宮城県	1,550	1,400	1,330	1,250	1,680	1,910	1,880	2,000	1,630	2,030	1,190	1,790	19,620
福岡県	1,360	1,230	1,310	1,110	1,510	1,580	1,480	1,680	1,580	1,810	1,160	1,580	17,400
茨城県	1,220	1,030	1,060	820	1,190	1,410	1,530	1,350	1,190	1,400	930	1,280	14,420
京都府	1,030	1,030	940	820	1,090	1,250	1,220	1,400	1,110	1,270	830	1,240	13,220
静岡県	960	800	1,010	820	1,050	1,130	1,310	1,240	1,100	1,450	860	1,150	12,870
新潟県	830	710	660	700	910	1,000	950	1,020	1,020	1,170	720	930	10,620
青森県	770	690	640	570	730	1,000	1,030	1,010	850	1,070	660	920	9,940
栃木県	710	610	660	610	750	930	960	980	840	1,000	650	860	9,550
福島県	760	690	720	590	760	840	990	800	810	930	620	960	9,460
広島県	580	670	540	610	720	760	770	880	720	920	530	780	8,480
長野県	650	590	590	550	610	700	770	980	770	840	530	790	8,380
群馬県	600	550	550	420	600	740	730	770	600	670	410	590	7,230
奈良県	530	460	460	400	540	620	660	750	660	730	450	590	6,850

小樽市の観光入込客数等（2024年）

● 入込客数 外国人 ※上位20か国

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外国人	56,900	53,900	53,600	30,900	30,200	19,800	73,000	85,900	54,100	74,900	60,400	112,700	706,200
韓国	5,520	6,580	7,060	3,470	5,370	2,100	24,560	31,600	17,140	22,650	16,960	26,240	169,260
台湾	12,380	11,950	15,870	6,560	6,570	4,840	18,410	22,980	15,200	8,980	7,750	18,520	149,990
香港	5,170	5,280	4,370	4,100	4,700	3,140	6,530	6,320	3,970	8,080	8,220	13,010	72,890
タイ	8,040	8,310	7,790	5,240	3,420	2,590	6,030	7,150	2,540	5,710	5,470	9,340	71,640
アメリカ	6,550	4,560	3,630	3,720	3,210	2,270	4,630	3,740	3,600	7,800	6,270	9,360	59,350
中国	3,650	4,510	3,630	2,330	2,120	1,710	5,970	8,200	4,760	4,660	5,260	11,630	58,440
シンガポール	4,110	3,550	4,360	640	480	390	2,490	2,010	2,010	2,280	1,100	5,560	28,970
マレーシア	6,640	5,600	3,670	590	520	400	670	370	860	1,370	1,040	3,710	25,430
オーストラリア	700	800	710	970	690	440	450	500	720	660	880	3,520	11,040
インドネシア	620	730	440	570	740	570	1,110	640	800	980	140	1,160	8,510
ベトナム	1,110	570	290	720	420	360	430	440	620	680	790	1,570	8,000
フィリピン	190	170	330	460	460	180	520	650	730	760	1,290	1,590	7,320
イギリス	160	170	210	100	80	50	240	110	130	750	620	750	3,370
インド	190	40	320	170	160	100	50	60	110	300	820	560	2,880
イラン・イスラム共和国	240	180	*	40	160	100	*	60	50	910	*	1,110	2,860
ブラジル	140	130	90	80	160	100	140	60	40	500	400	660	2,500
カナダ	40	100	100	70	40	80	80	70	60	280	480	600	1,990
ニュージーランド	100	90	60	50	110	50	50	110	*	470	310	100	1,490
スイス	100	40	90	80	*	60	*	*	*	*	*	*	380
メキシコ	10	100	20	30	50	*	40	*	40	*	80	*	380

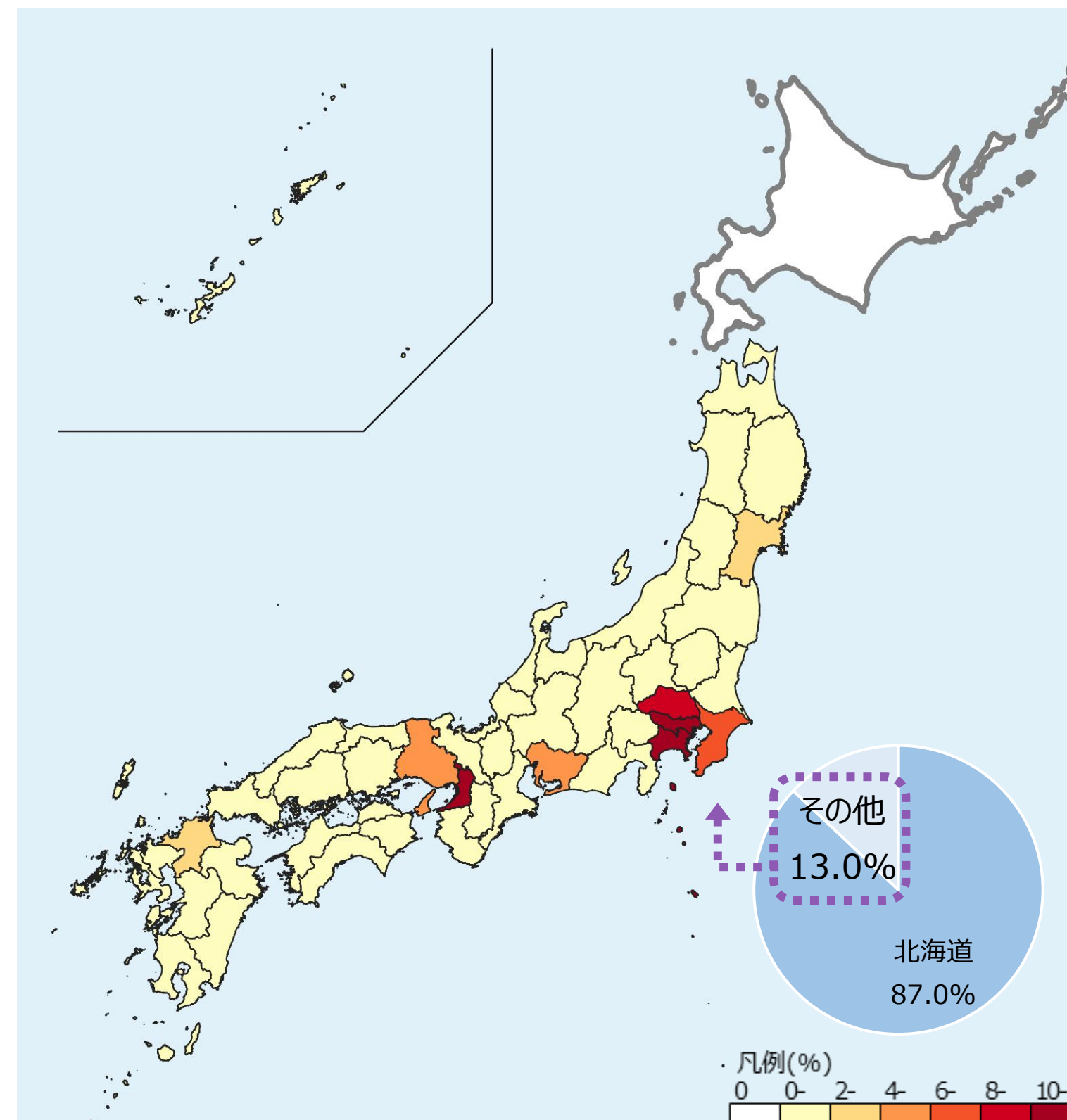
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

居住地

小樽市全域来訪者の居住地（2024年）

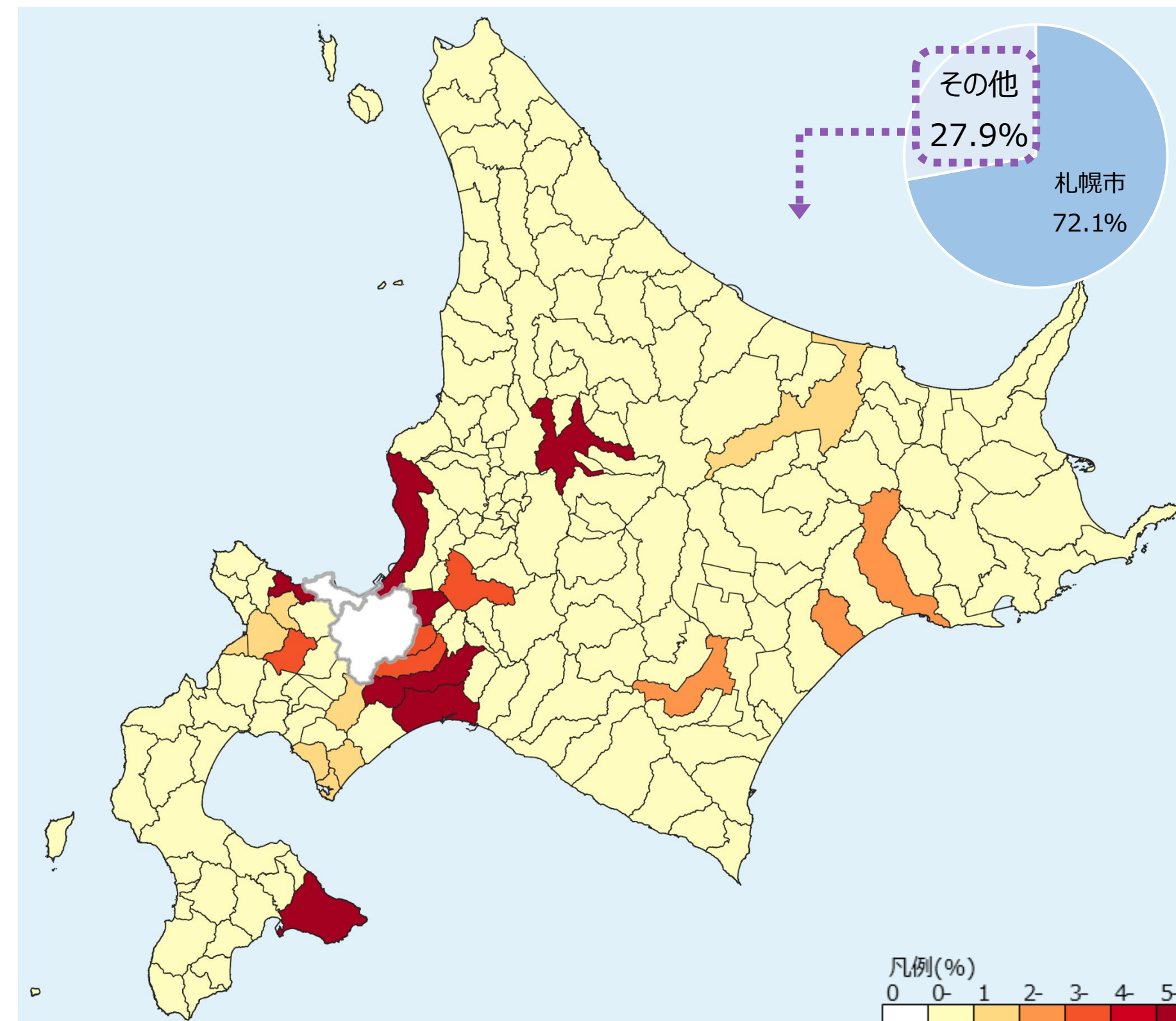
- 道外客は東京・神奈川・大阪からの来訪が特に多い。道内客は道央のほか旭川・函館からの来訪が特に多い。
- インバウンドは韓国が最も多くおよそ2割を占め、次いで台湾・香港が多い。

- 居住地（日本人観光客-全国）
道外客2,300人、道内客14,600人（一日当たり）



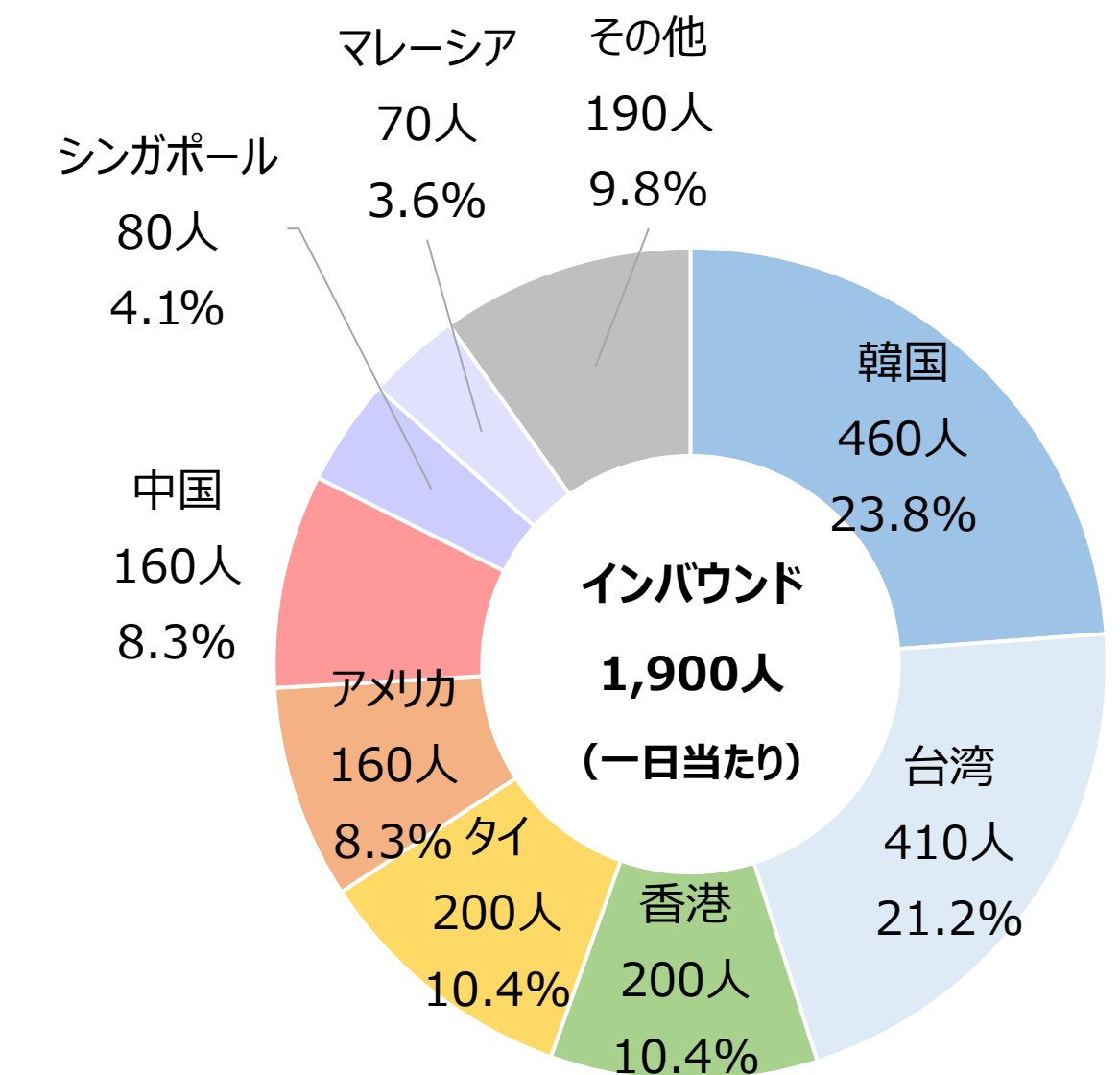
※ヒートマップは、北海道民を除いた全国の合計値を100%としている。

- 居住地（日本人観光客-全道）



※ヒートマップは、小樽市民と札幌市民を除いた全道の合計値を100%としている。

- 居住地（インバウンド）



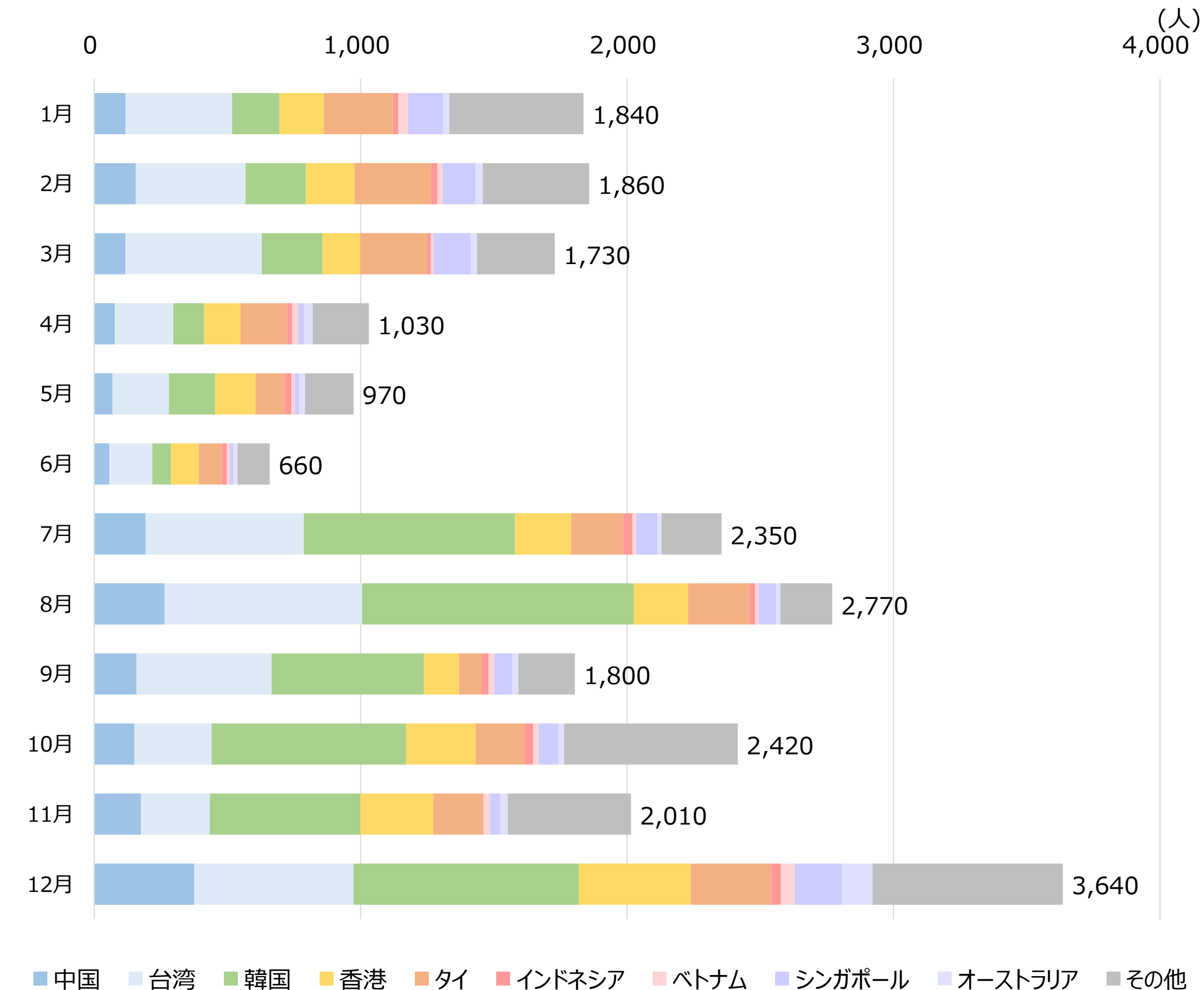
※インバウンドの合計値を100%としている。
なお、中国人・ロシア人については位置情報を取得できないため、別途推計を行っている（詳細はp.4を参照）。

小樽市全域来訪者の居住国（インバウンド）

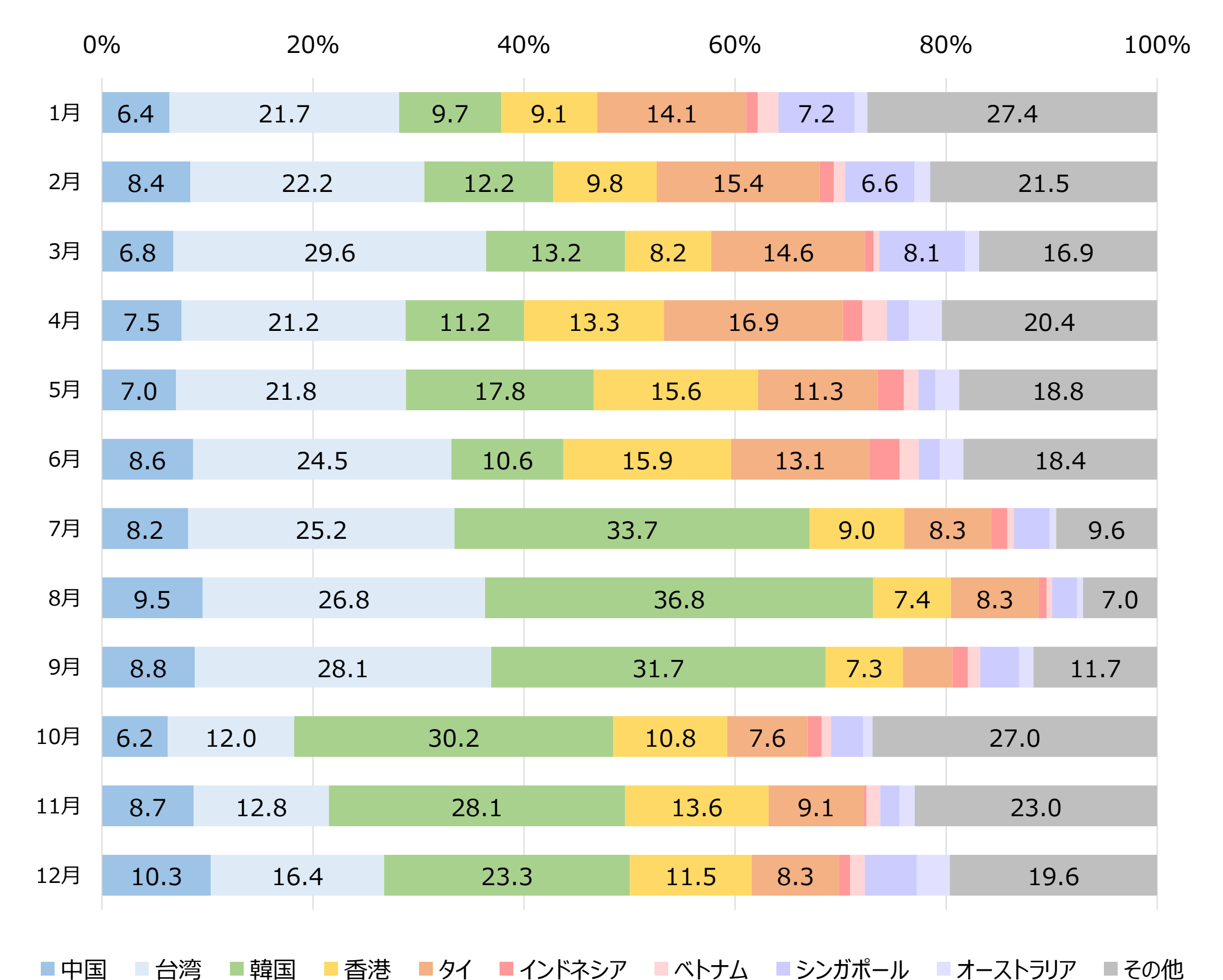
- 実数では、8月・12月の来訪が多く、6月・5月は来訪が落ち込む。
- 割合では、1月～6月は台湾からの来訪が最多であるが、7月～12月は韓国からの来訪が最多となる。

● 居住国（インバウンド）

〈実数〉



〈割合〉

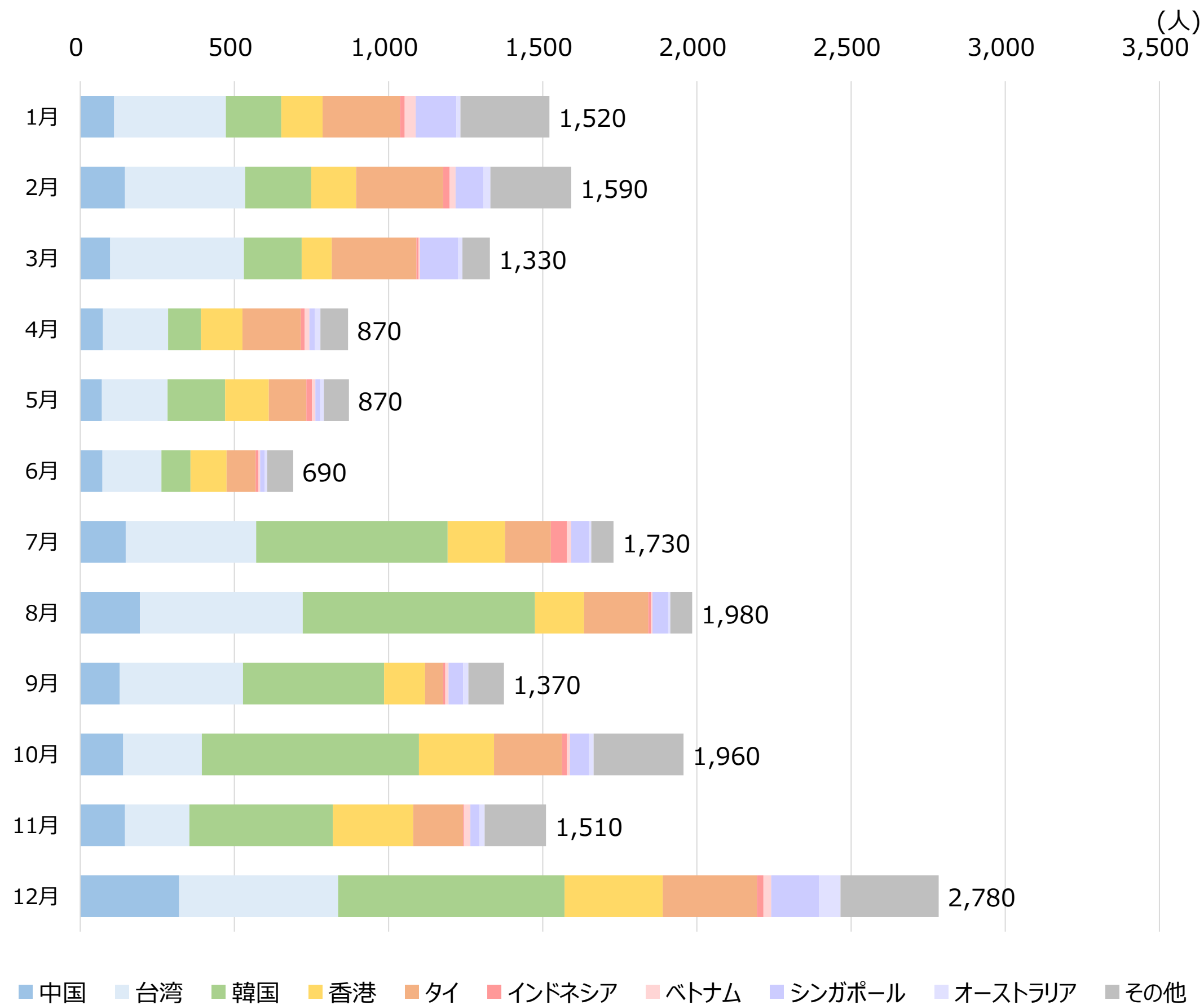


中心部エリア来訪者の居住国（インバウンド）

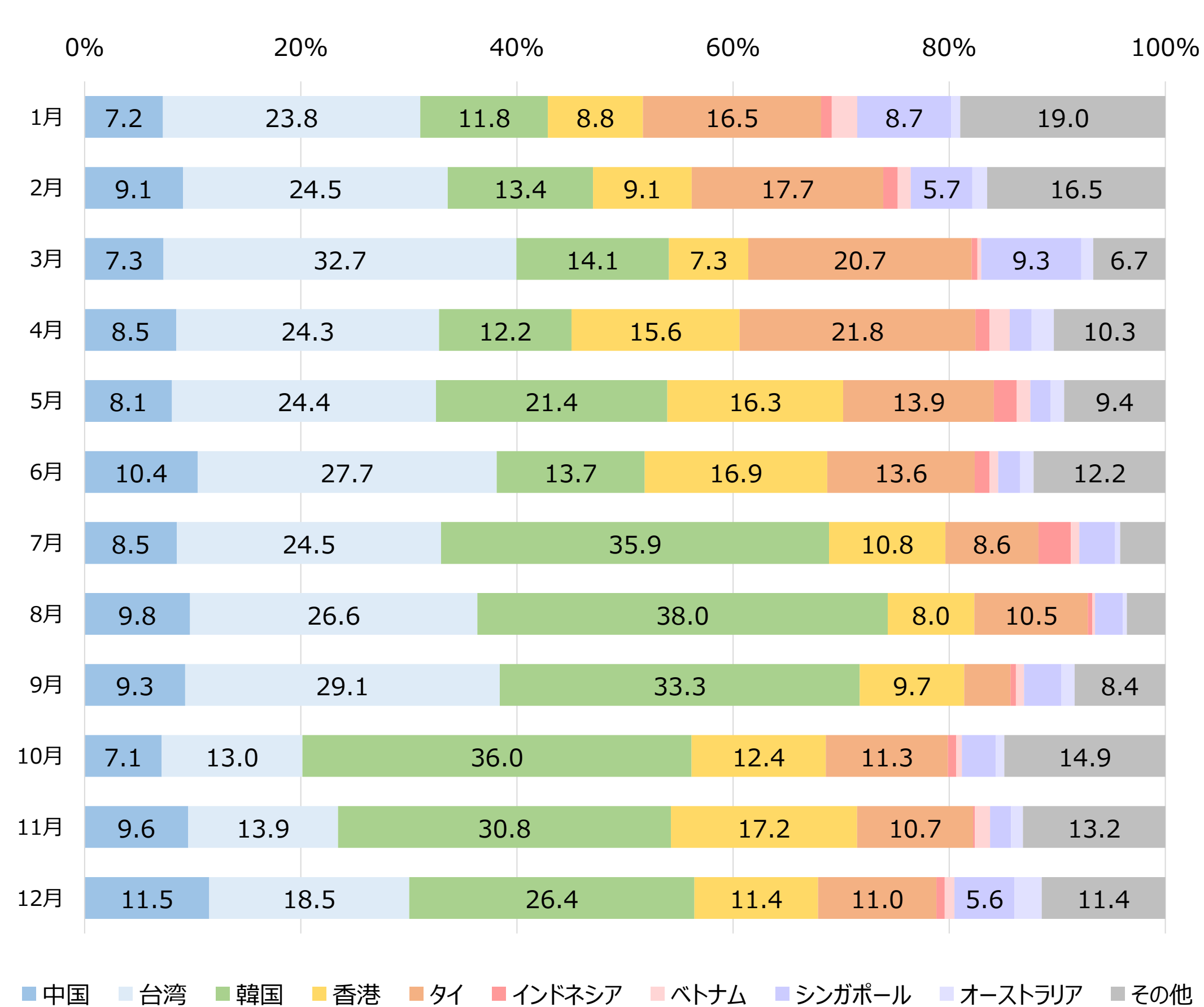
- 実数では、8月・12月の来訪が多く、4月～6月は来訪が落ち込む。
- 割合では、1月～6月は台湾からの来訪が最多であるが、7月～12月は韓国からの来訪が最多となる。

● 居住国（インバウンド）

〈実数〉



〈割合〉



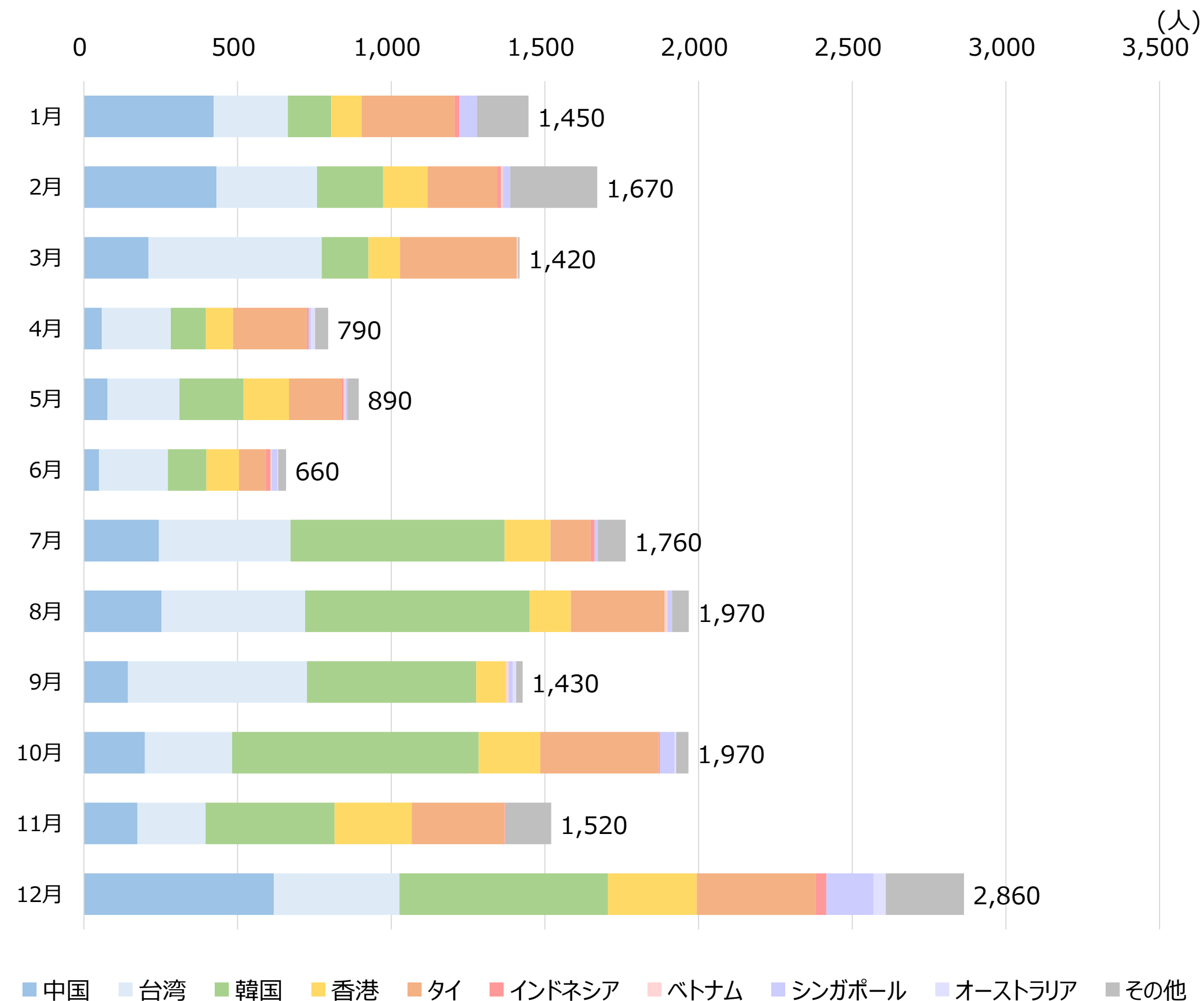
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

小樽運河来訪者の居住国（インバウンド）

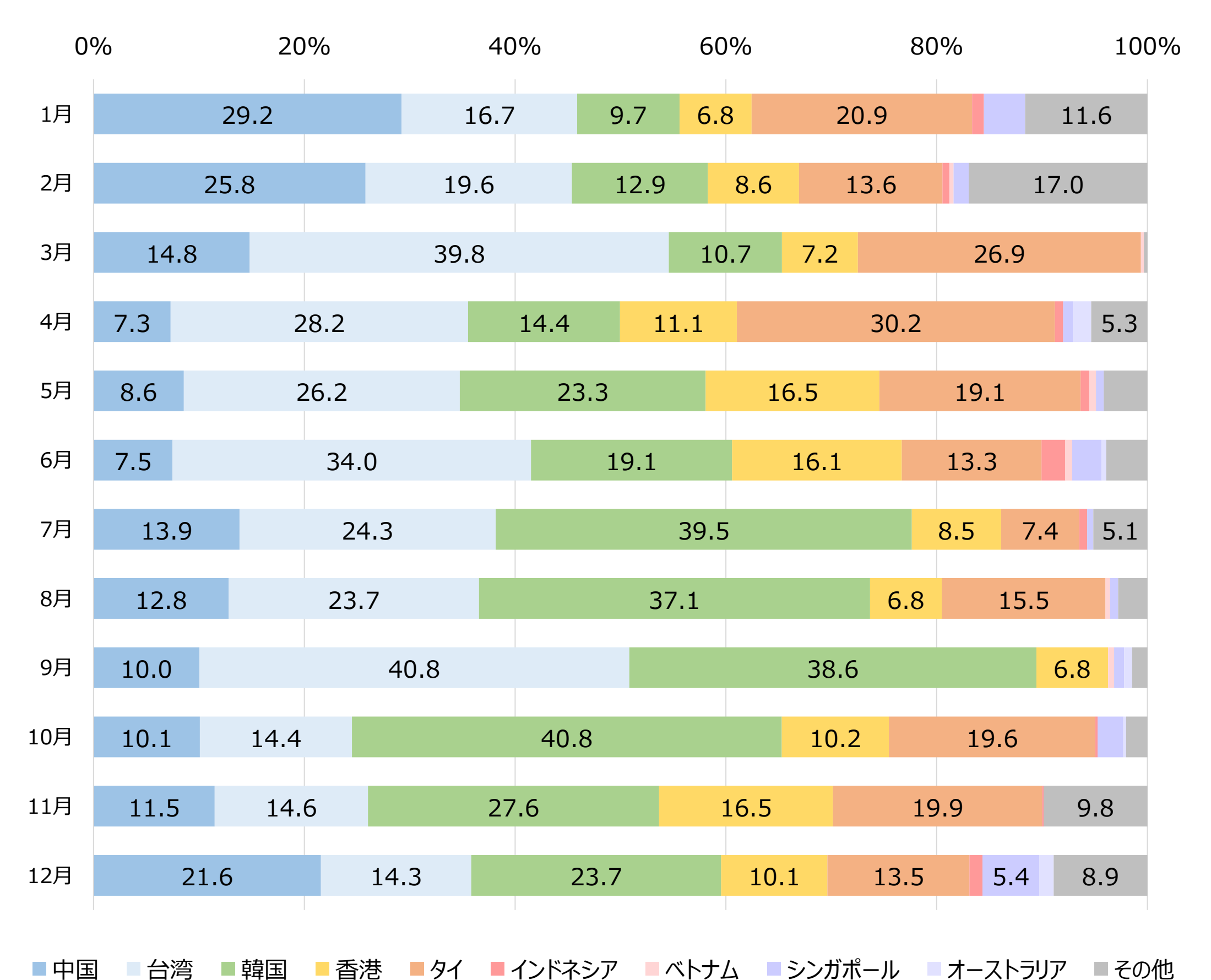
- 実数では、8月・10月・12月の来訪が多く、4月・6月は来訪が落ち込む。
- 割合では、3月・5月～6月・9月は台湾から、7月～8月・10月～12月では韓国からの来訪が最多である。

● 居住国（インバウンド）

〈実数〉



〈割合〉

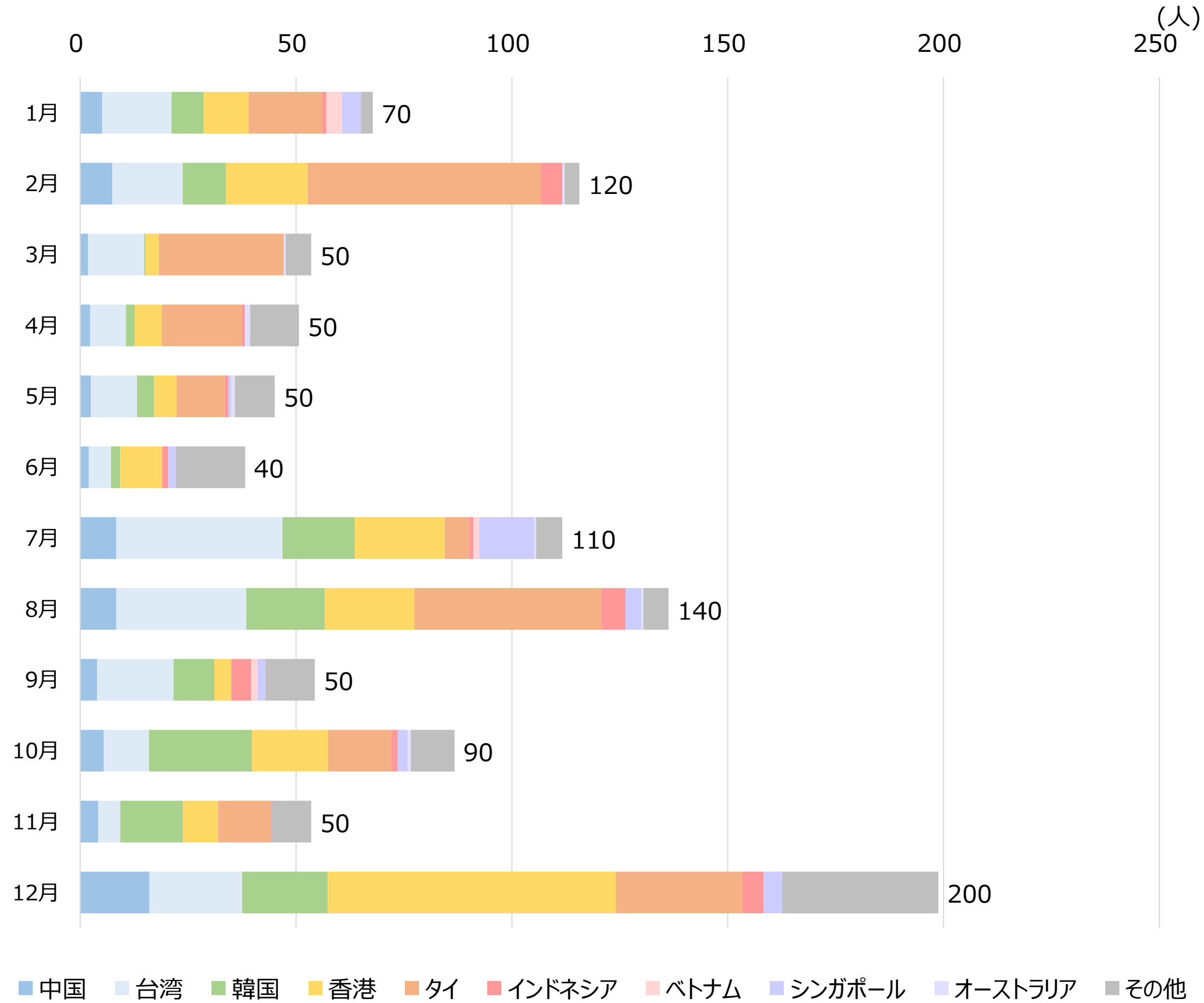


祝津・高島・手宮エリア来訪者の居住国（インバウンド）

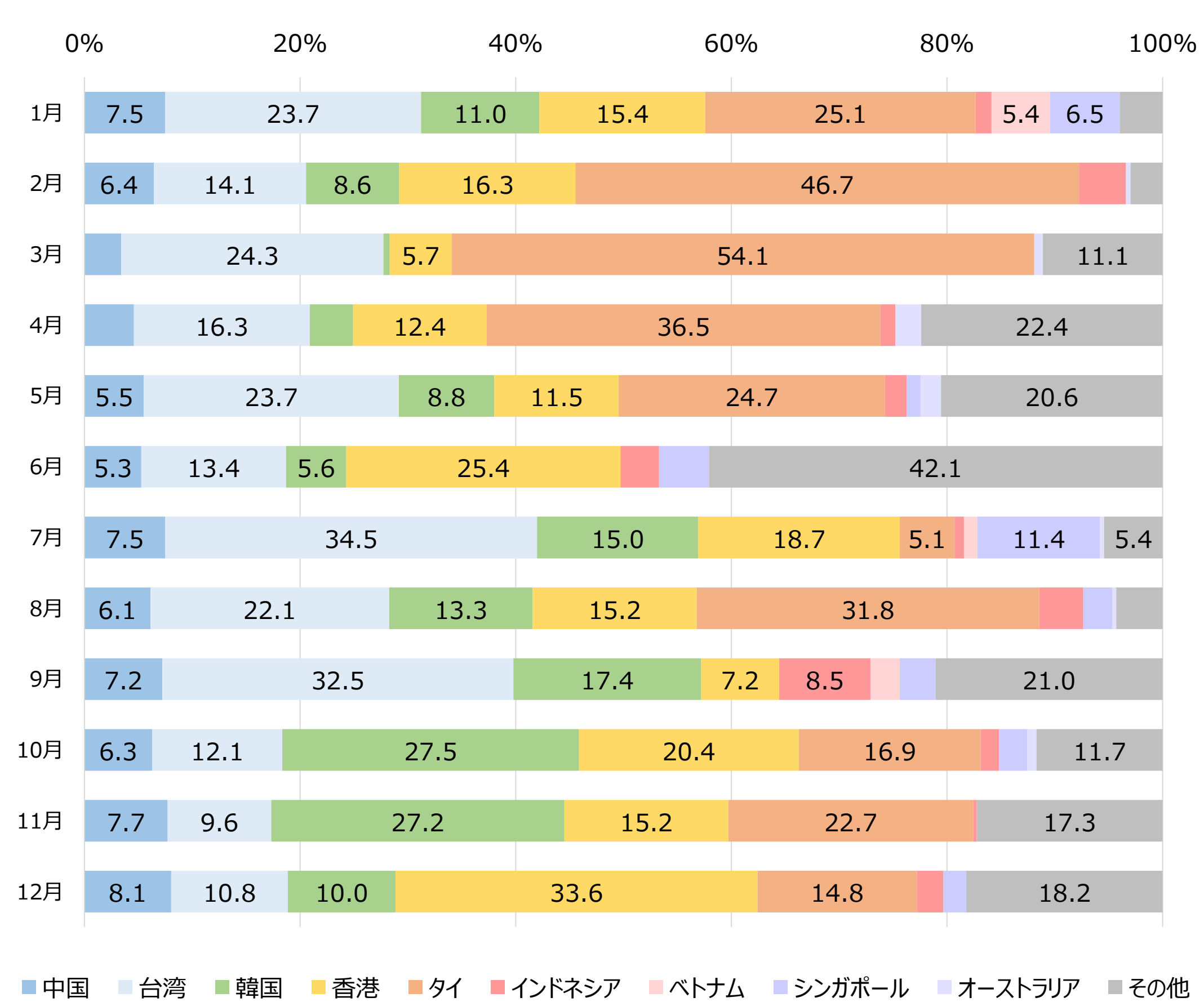
- 実数では、8月・12月の来訪が多く、6月は来訪が落ち込む。
- 割合では、1月～5月はタイから、7月・9月では台湾からの来訪が最多である。

● 居住国（インバウンド）

〈実数〉



〈割合〉



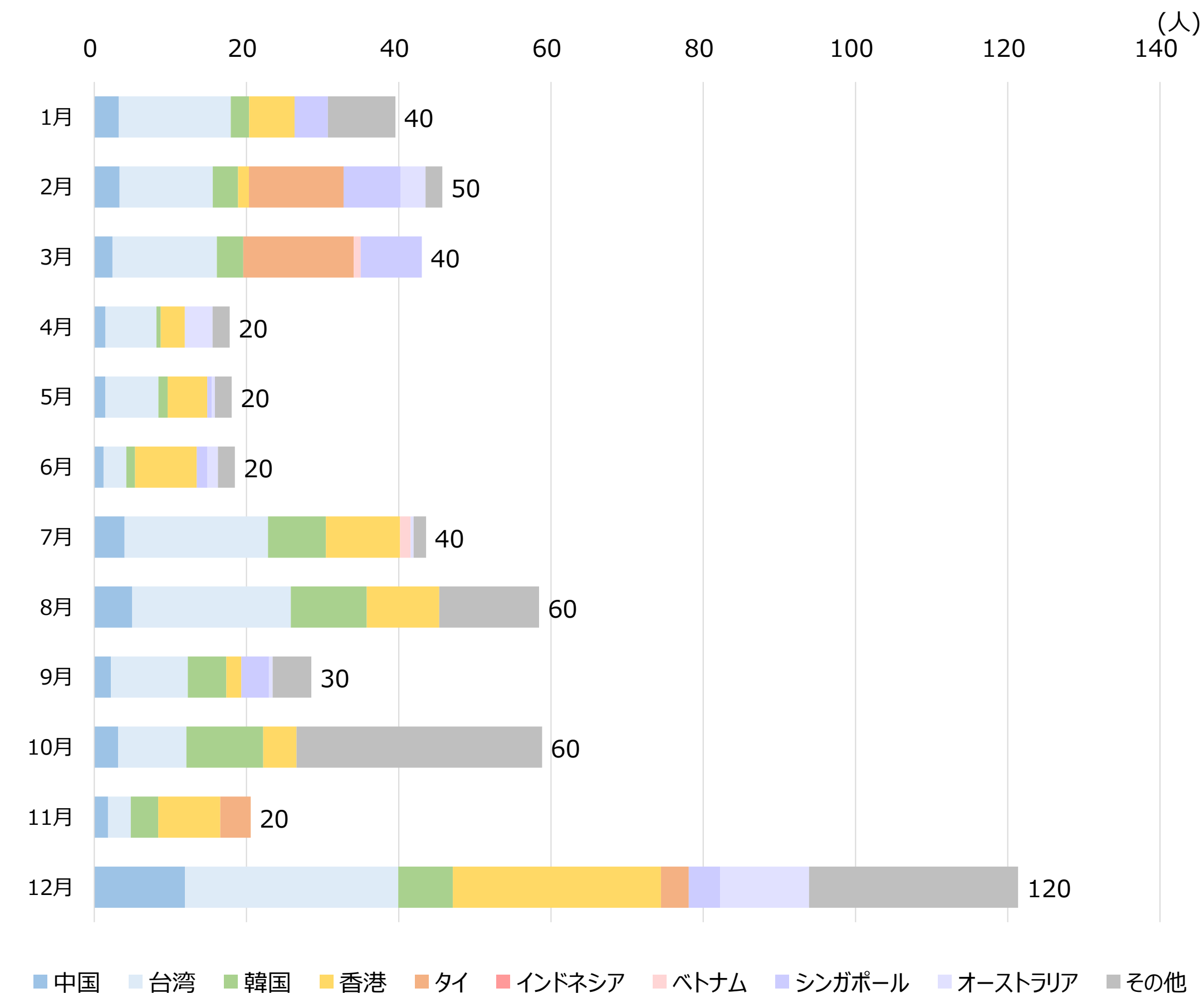
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山エリア来訪者の居住国（インバウンド）

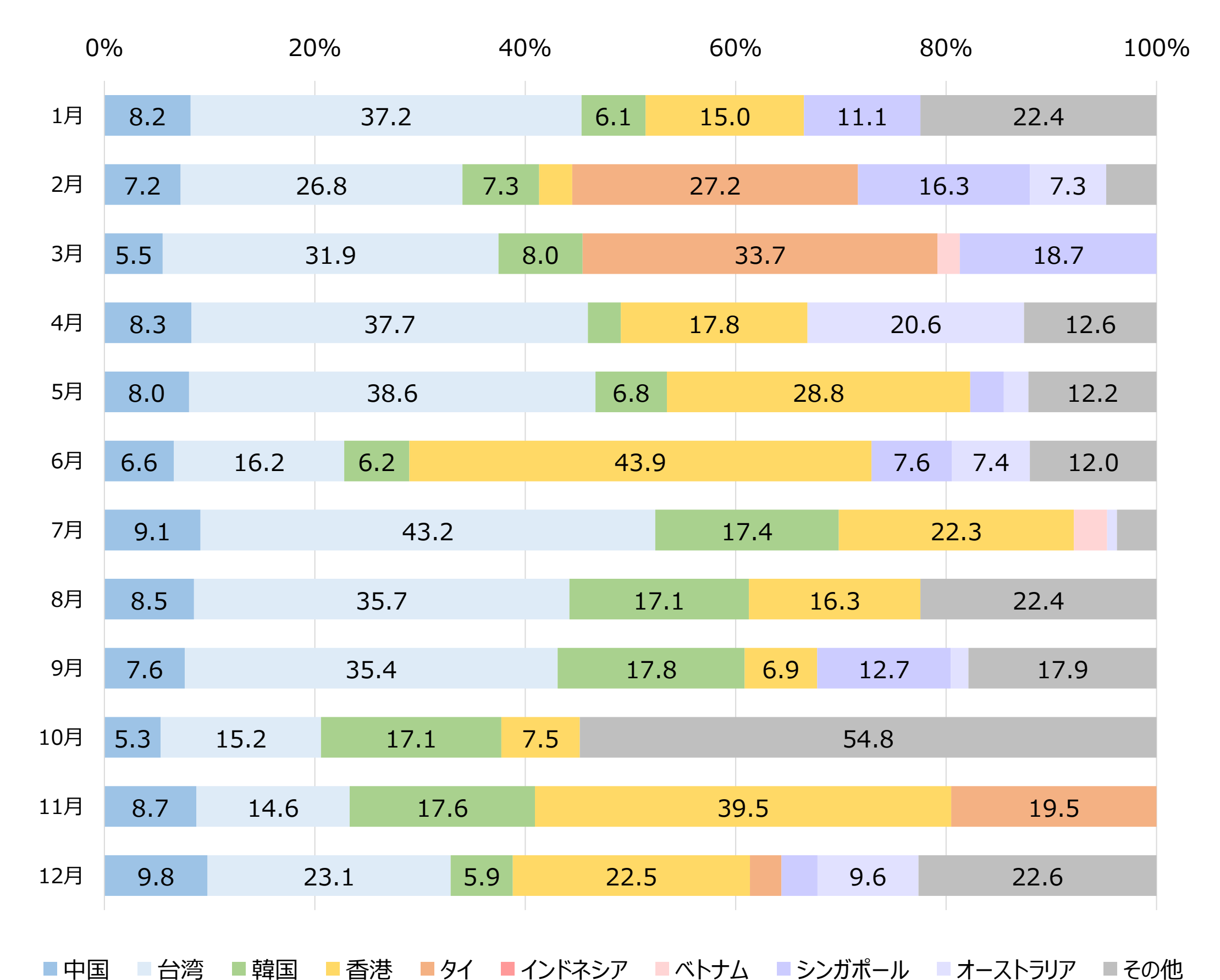
- 実数では、8月・10月・12月の来訪が多く、4月～6月・11月は来訪が落ち込む。
- 割合では、2月・3月はタイからの来訪が最多である。他のエリアに比べ、台湾と香港の多さが特徴的である。

● 居住国（インバウンド）

〈実数〉



〈割合〉



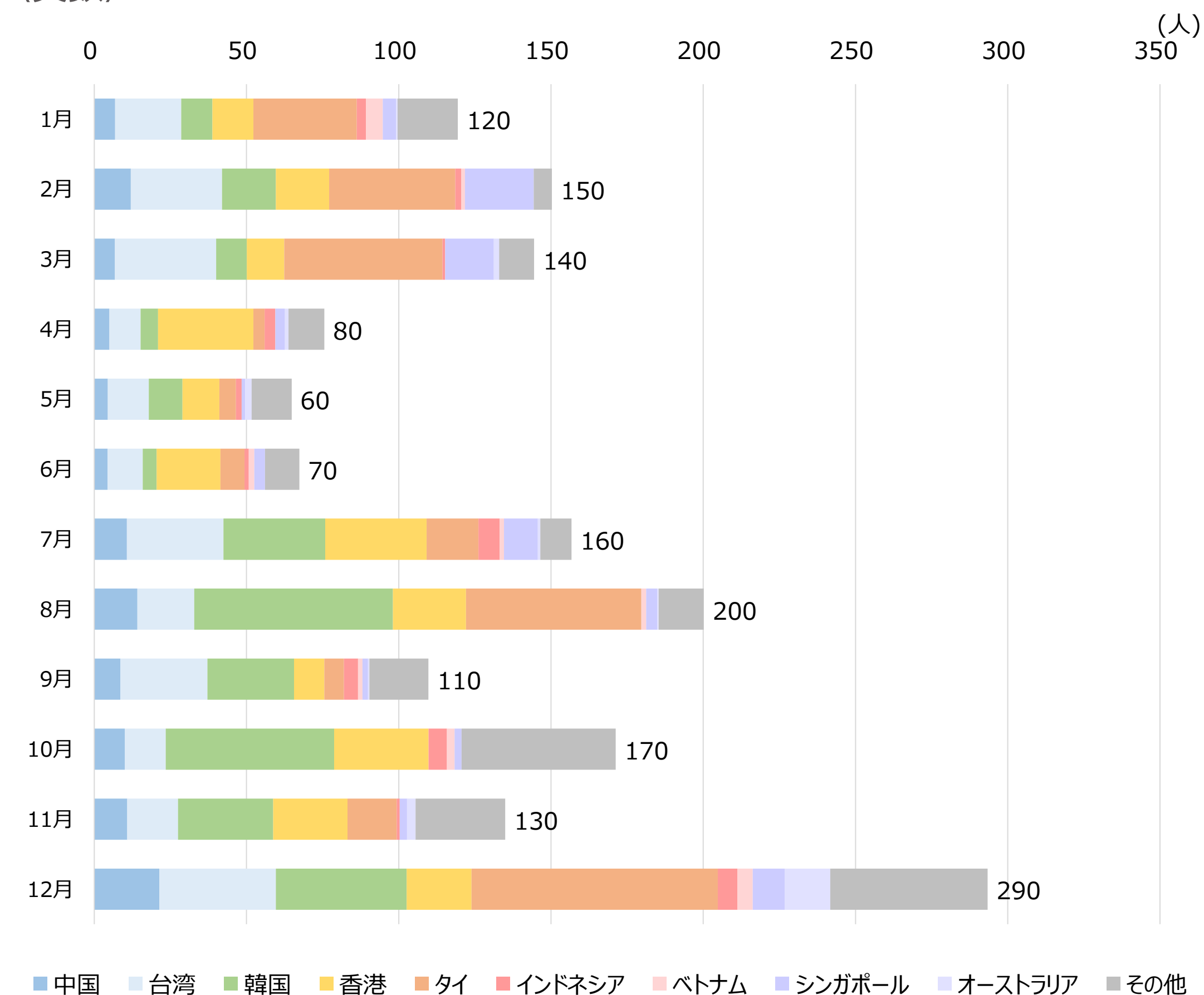
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

築港エリア来訪者の居住国（インバウンド）

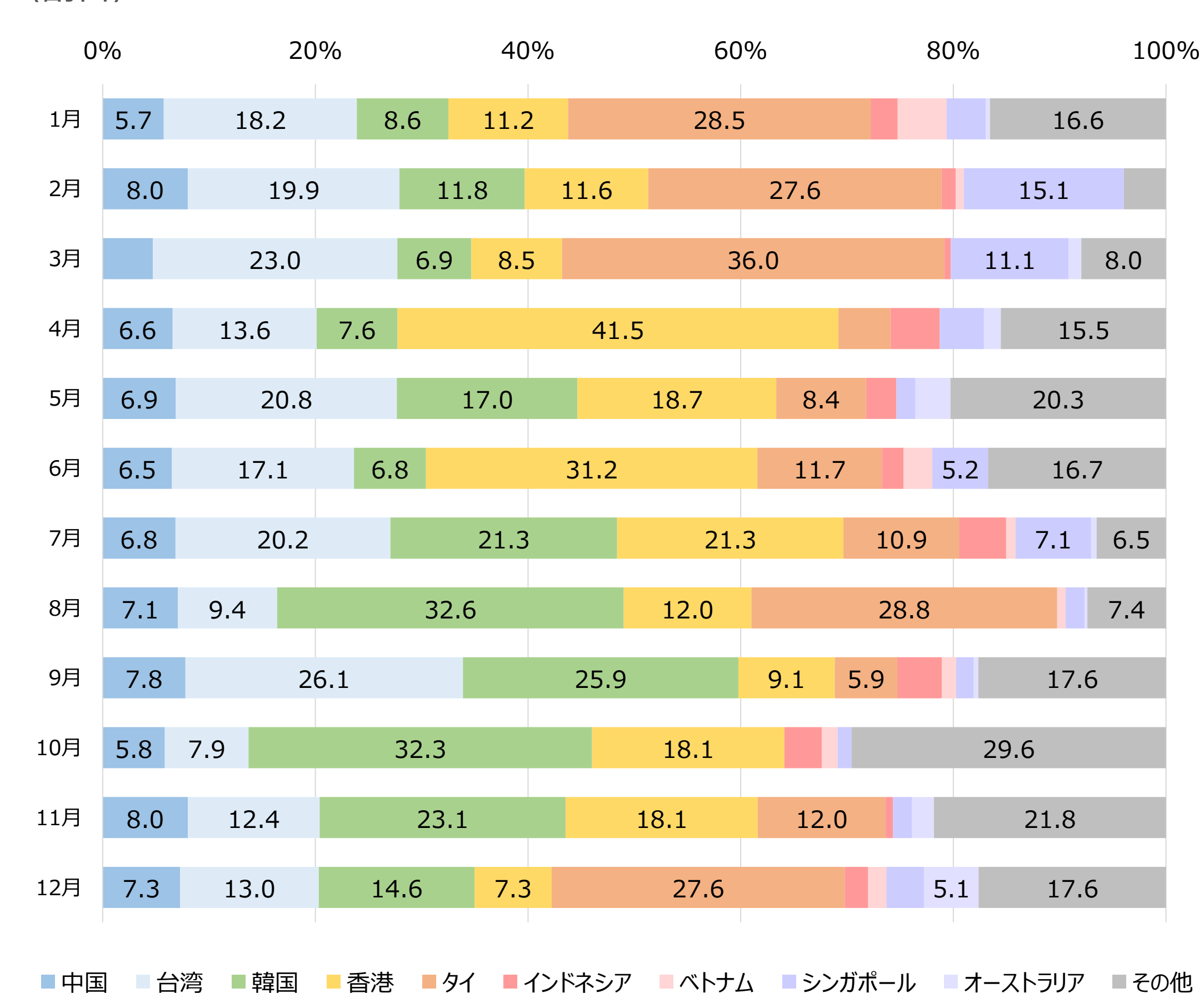
- 実数では、8月・12月の来訪が多く、5月・6月は来訪が落ち込む。
- 割合では、1月～3月・12月はタイ、4月・6月は香港、8月・10月～11月は韓国からの来訪が最多となる。

● 居住国（インバウンド）

〈実数〉



〈割合〉



※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

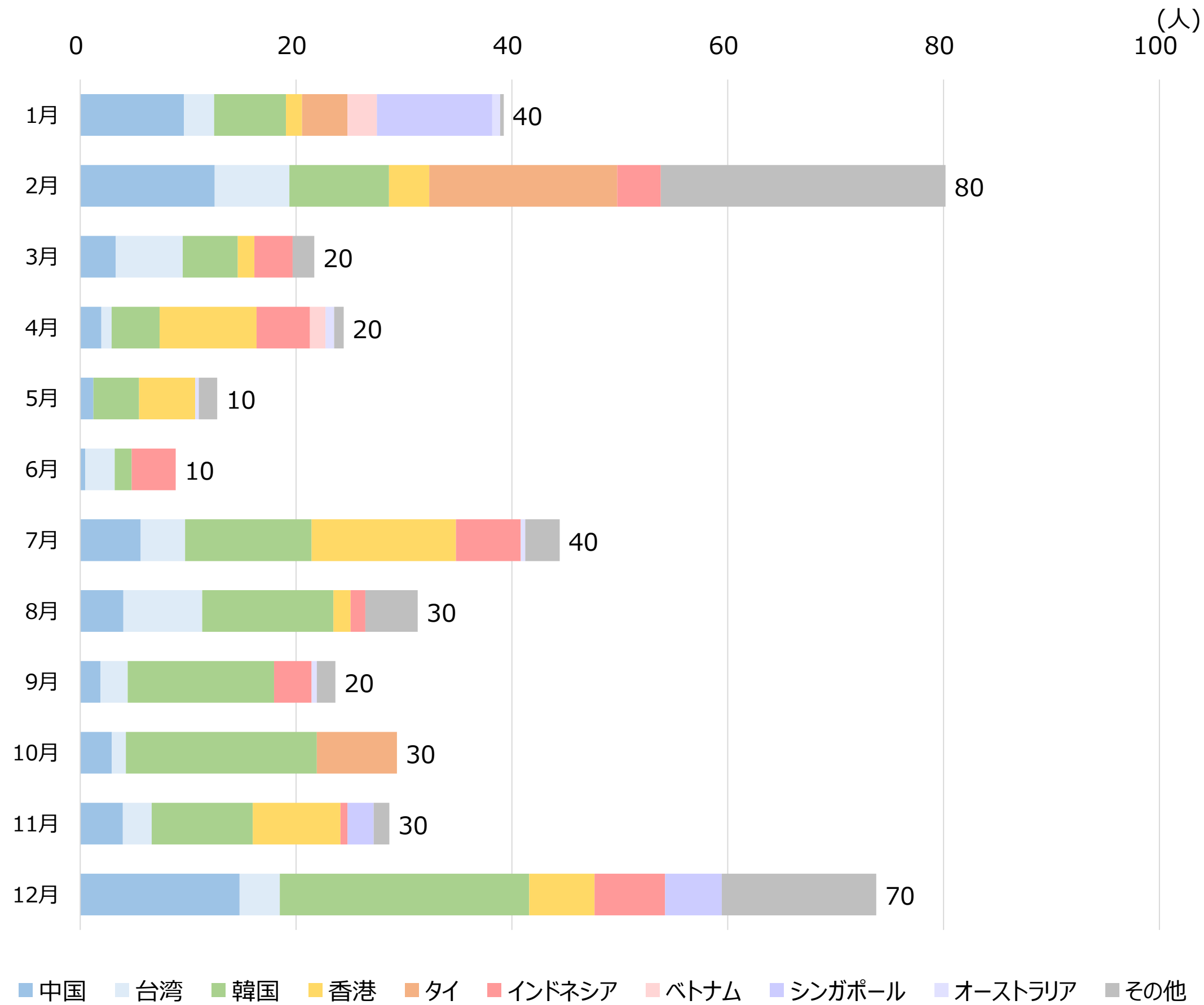
朝里川温泉エリア来訪者の居住国（インバウンド）

- 実数では、2月・12月の来訪が多く、5月・6月は来訪が落ち込む。他のエリアとは異なる傾向である。

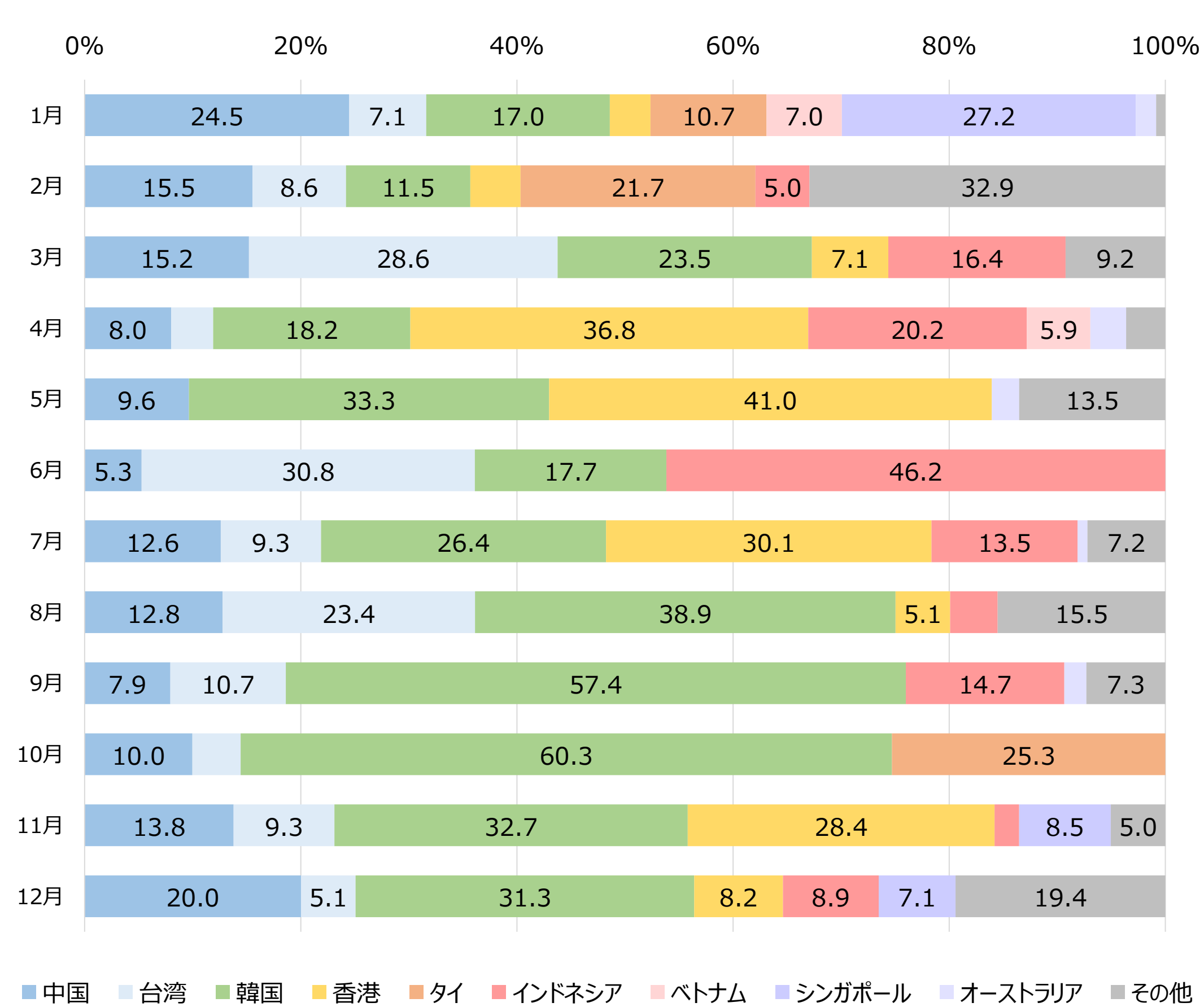
➤ 割合では、韓国からの来訪が最多である。4月・5月は香港、1月はシンガポール、6月はインドネシアからの来訪も目立つ。

● 居住国（インバウンド）

〈実数〉



〈割合〉



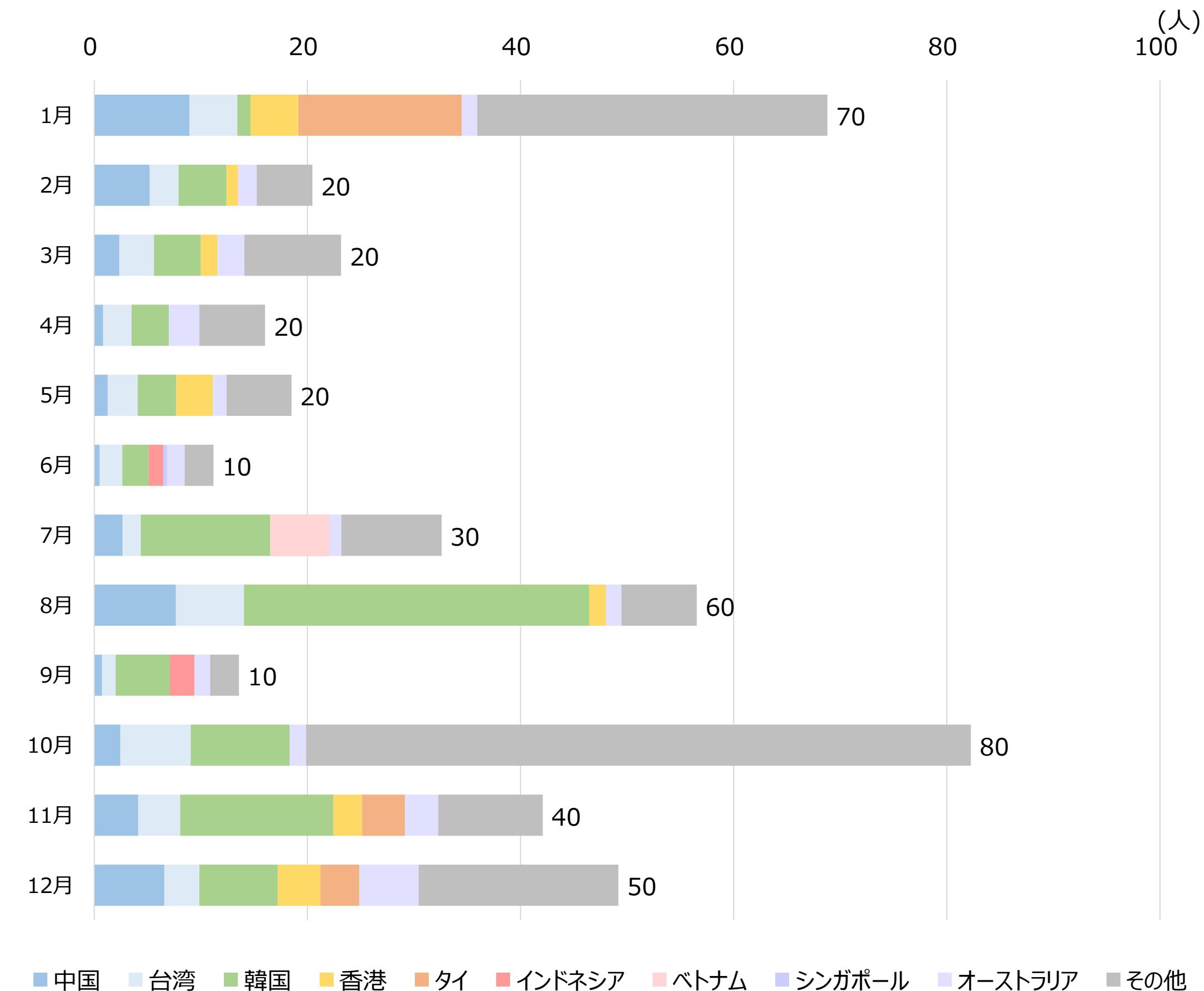
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

銭函・張碓エリア来訪者の居住国（インバウンド）

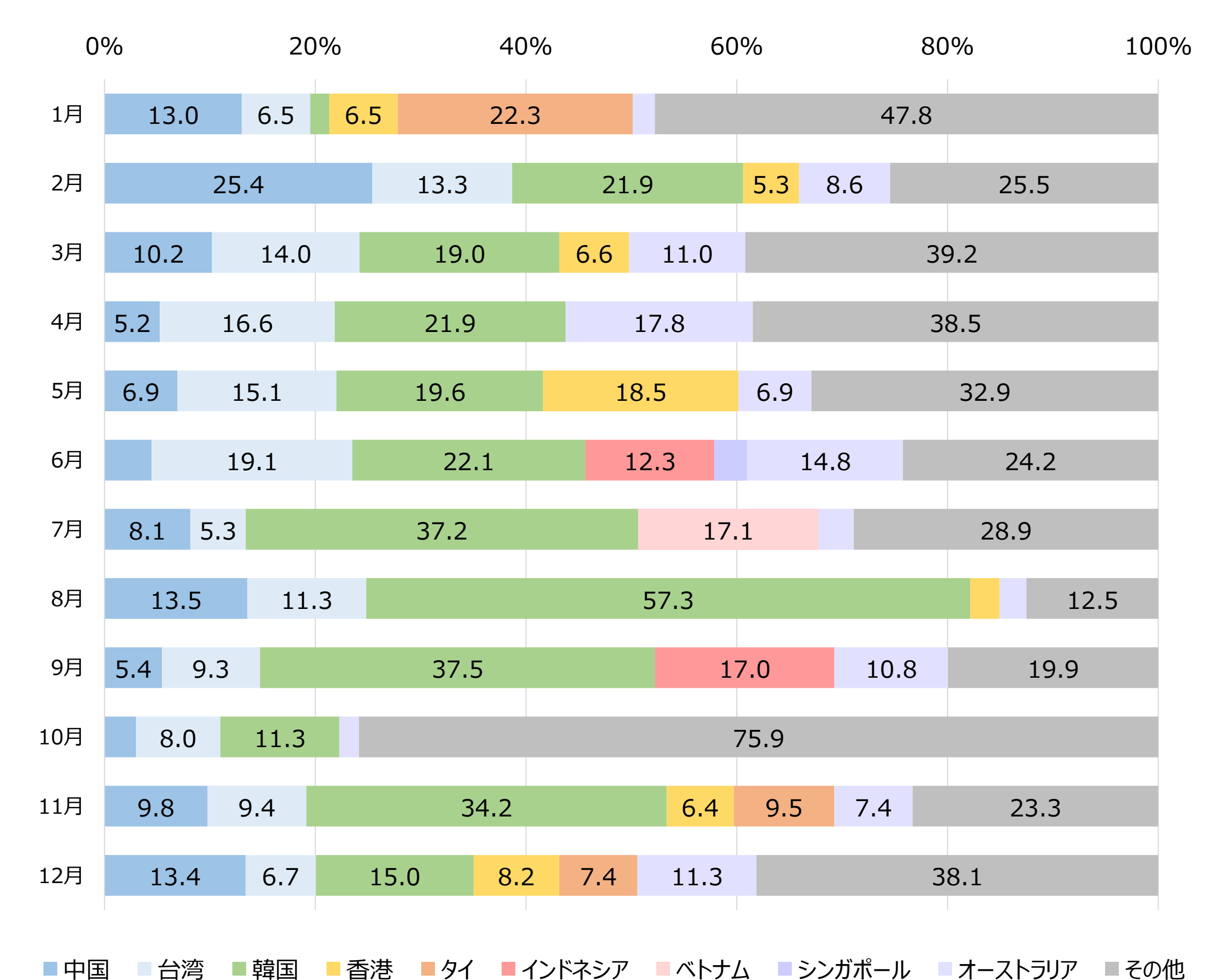
- 実数では、1月・10月の来訪が多く、6月・9月は来訪が落ち込む。
- 割合では、3月～12月は韓国、1月はタイ、2月では中国からの来訪が最多である。

● 居住国（インバウンド）

〈実数〉



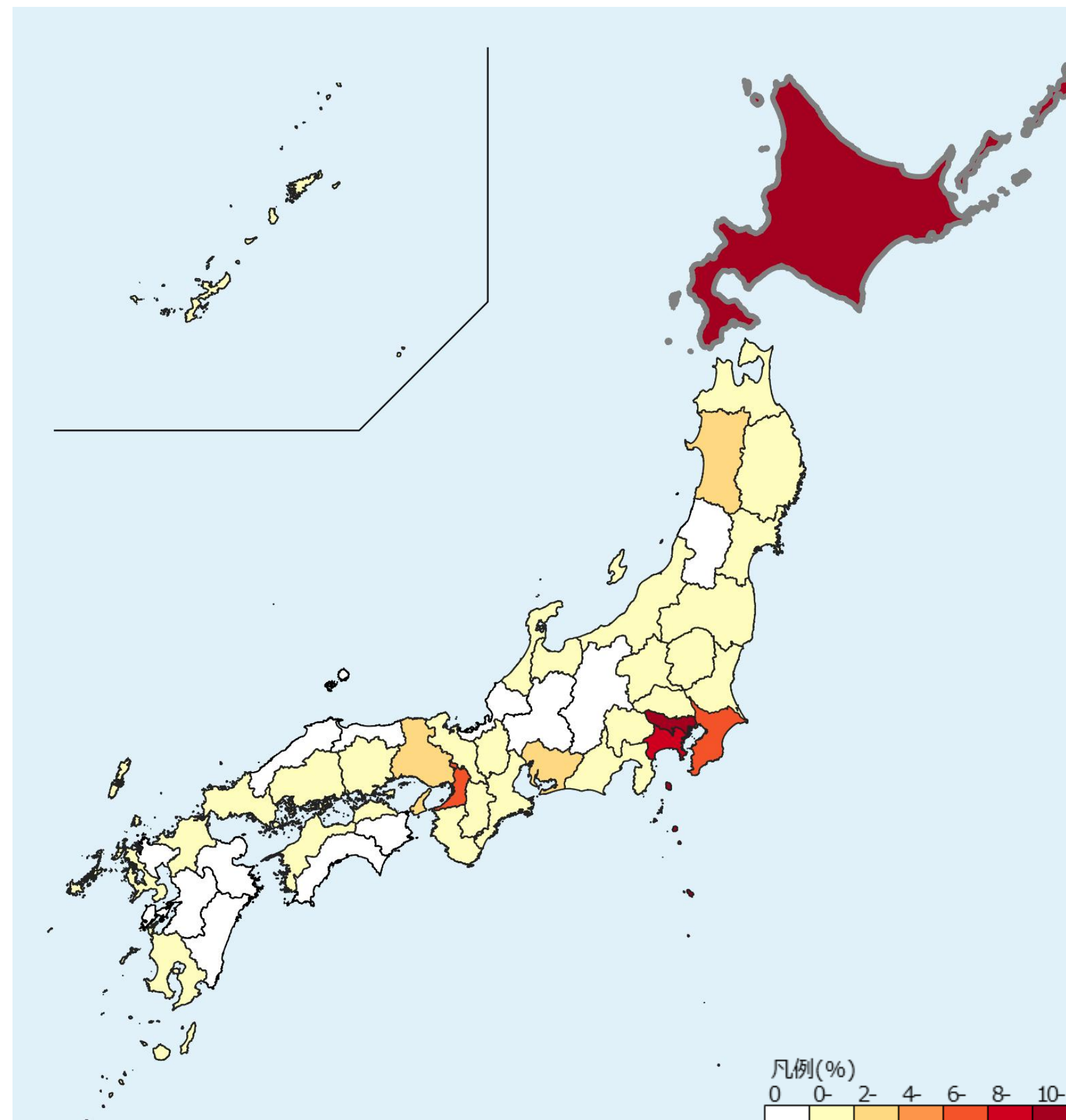
〈割合〉



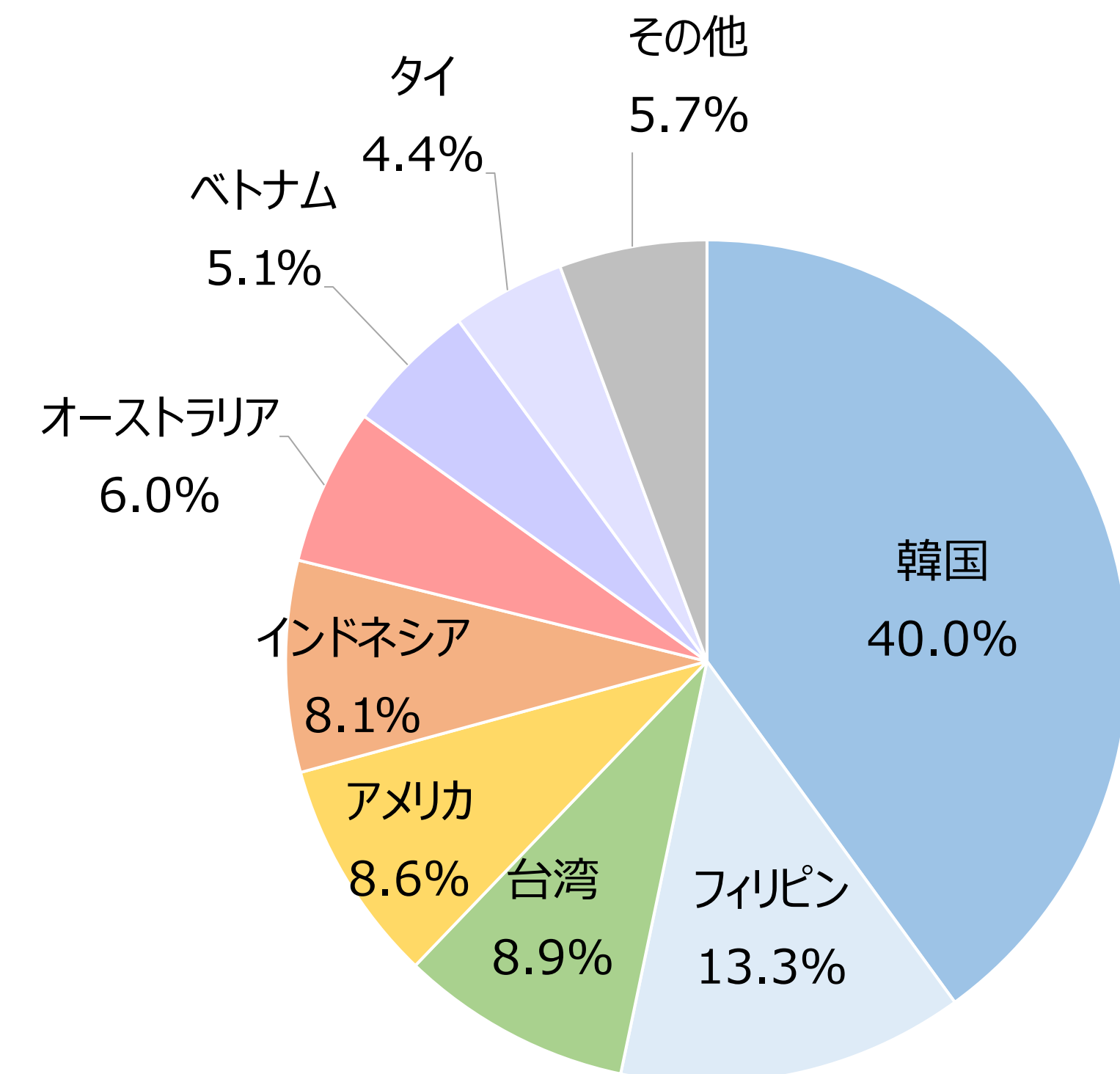
第3 ふ頭〈クルーズ〉来訪者の居住地（2024年）

- 日本人は、北海道・東京・神奈川からの来訪が特に多く、次いで千葉・大阪が多い。
- インバウンドは、韓国からの来訪が最も多く4割を占め、次いでフィリピン・台湾が多い。

● 居住地（日本人観光客、2024年4～12月）



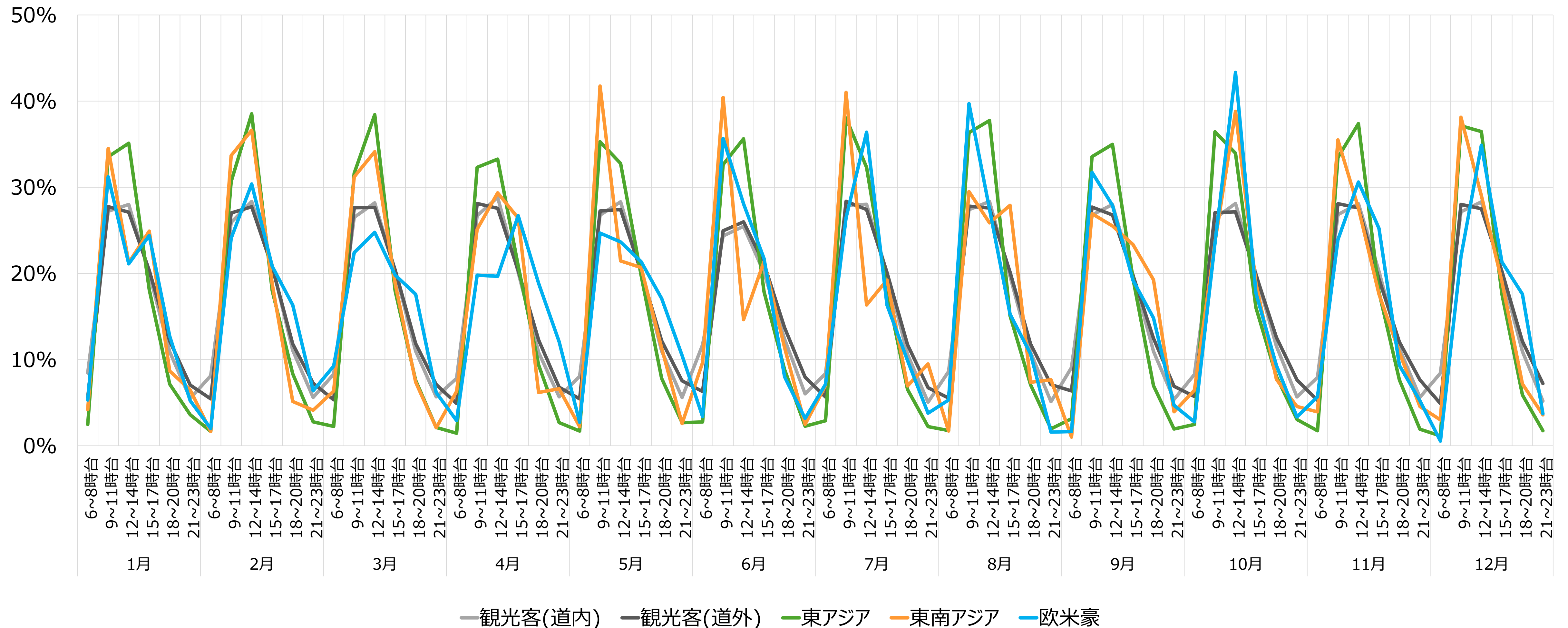
● 居住地（インバウンド、2024年4～12月）



來訪時間帶

小樽市全域の来訪時間帯分布

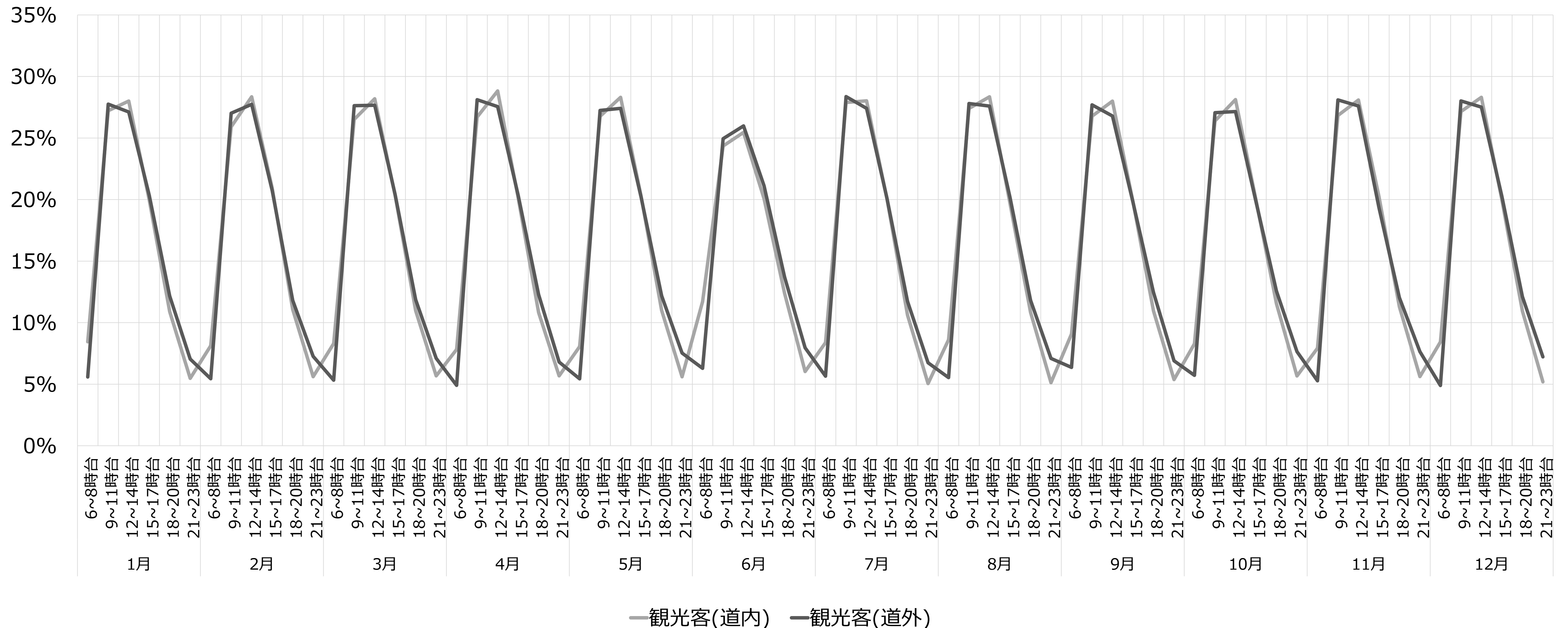
➤ 日本人に比べて、インバウンドでは9～14時台に来訪が集中する傾向にある。



※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

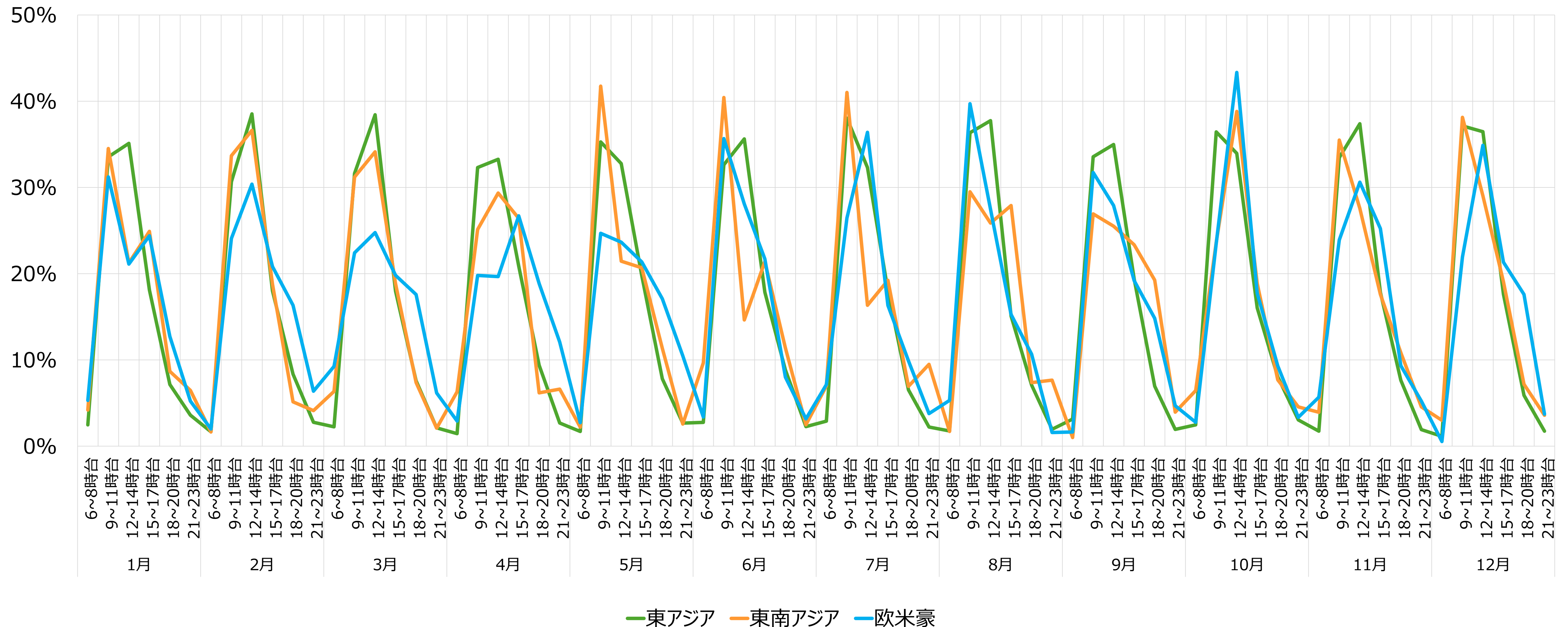
小樽市全域の来訪時間帯分布

- 道内客は一年を通して12～14時台が来訪ピークである。
- 道外客は2月・5月・6月・10月が12～14時台、それ以外の月は9～11時台がピークである。



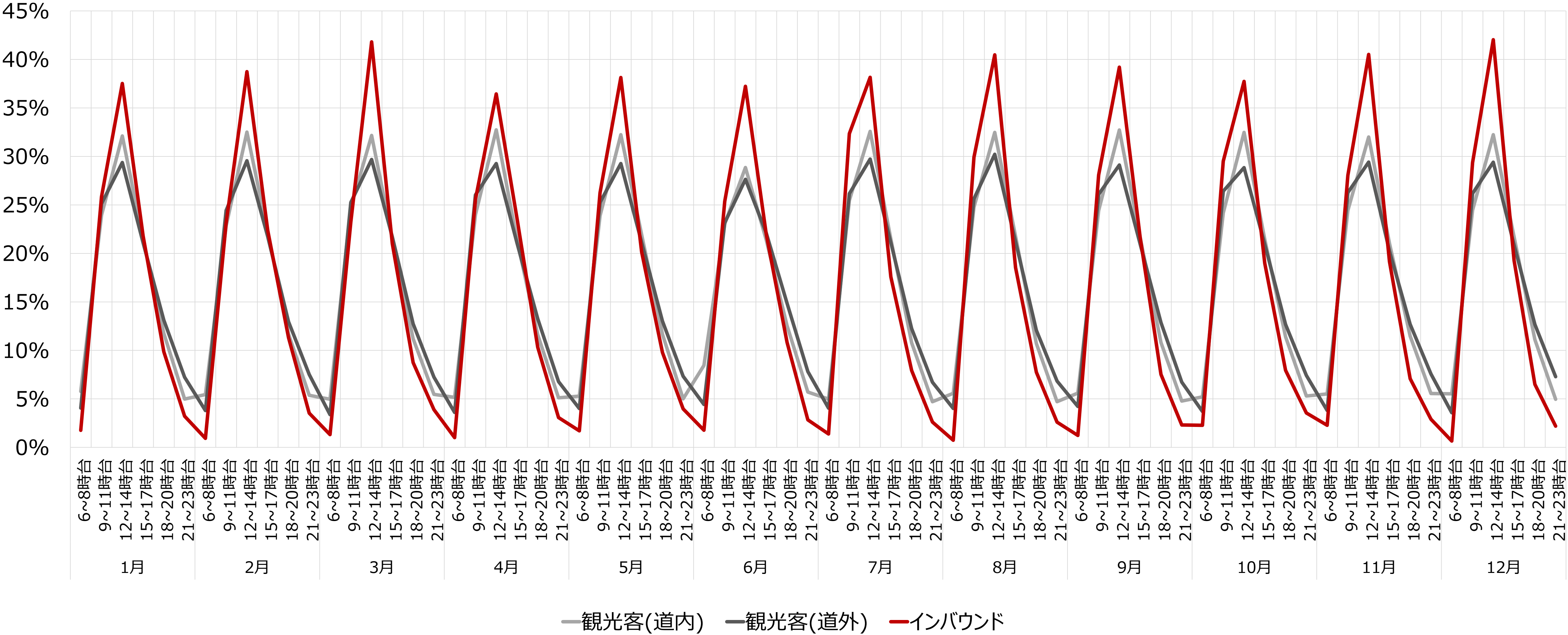
小樽市全域の来訪時間帯分布

- 東アジア居住者は、5月・7月・10月・12月が9～11時台、それ以外の月は12～14時台が来訪ピークである。
- 東南アジア居住者は夏季において、また欧米豪居住者は春先において、15時以降の来訪が比較的多くなることが特徴的である。



中心部エリアの来訪時間帯分布

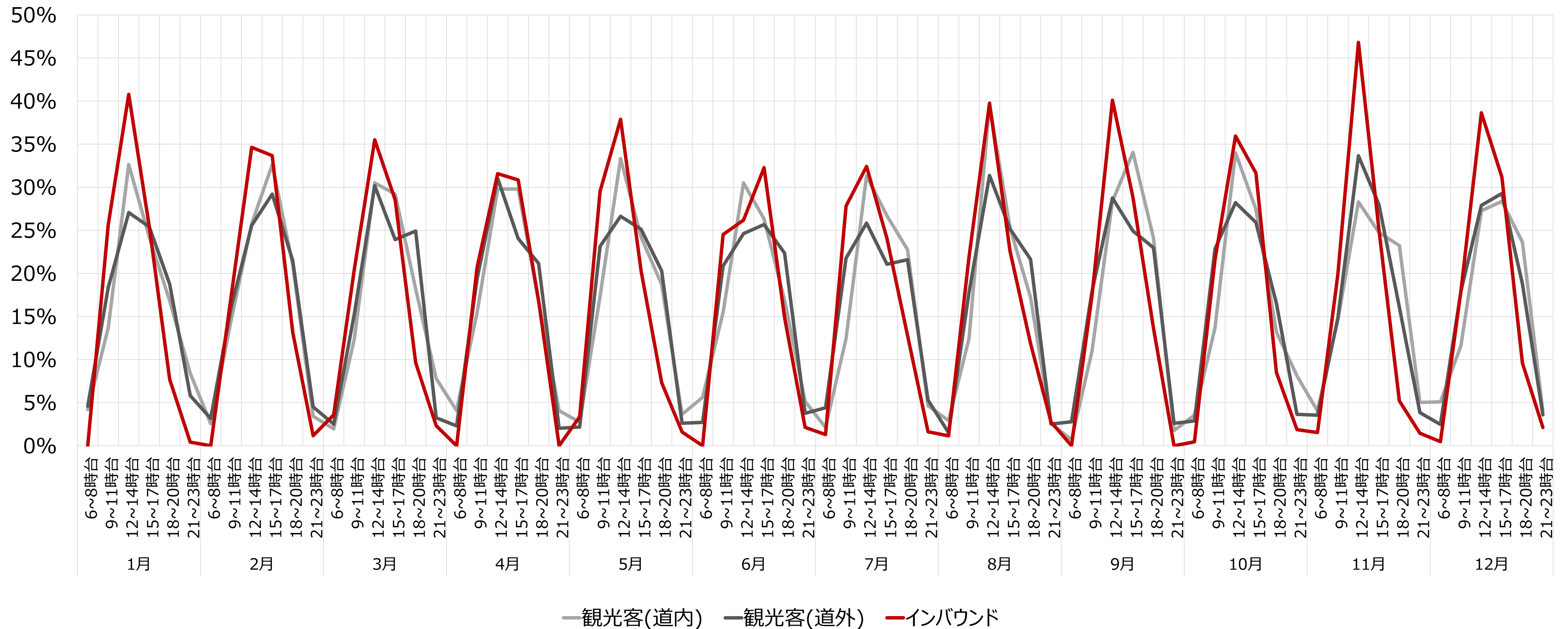
➤ 道内客・道外客・インバウンドともに、一年を通して12～14時台が来訪ピークであり、特にインバウンドでその傾向が顕著である。



※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

小樽運河の来訪時間帯分布

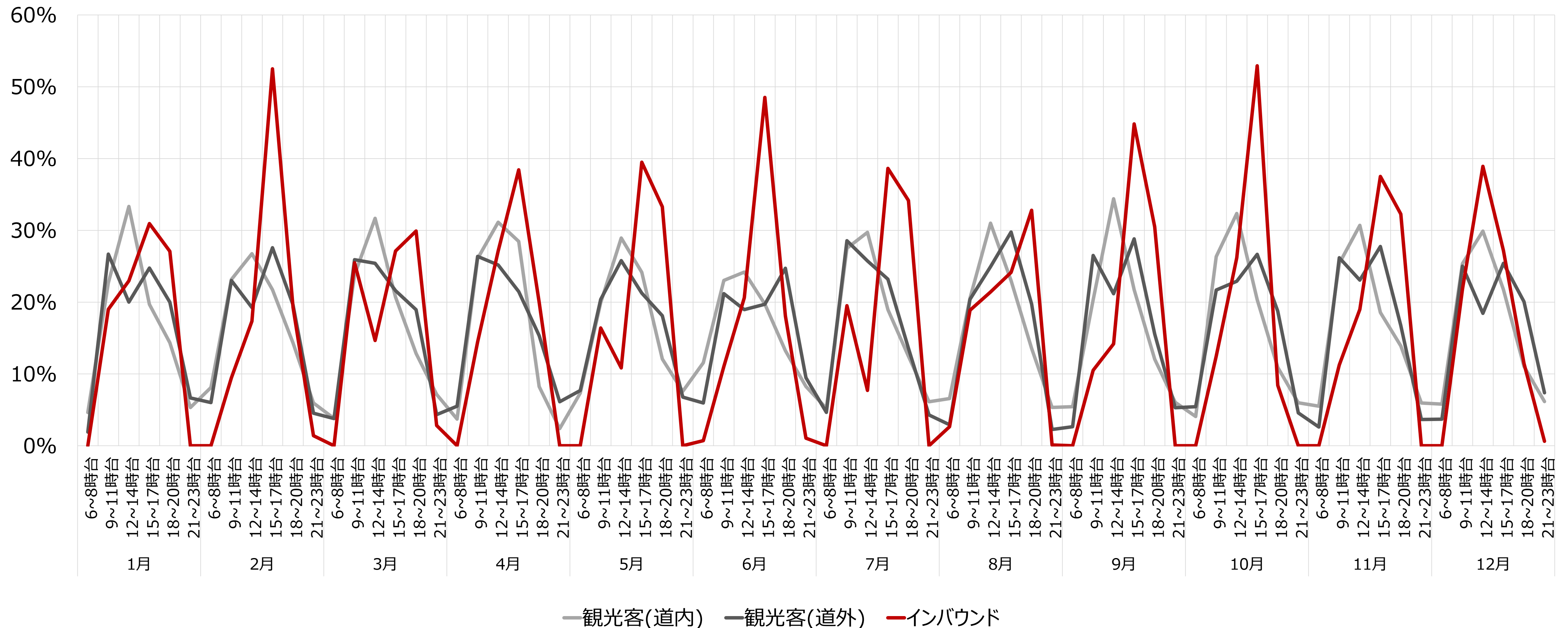
➤ 中心部エリアとは異なり、来訪ピークは月や居住地により変動がみられるが、インバウンドでは6月を除き12～14時台がピークとなっている。



※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山エリアの来訪時間帯分布

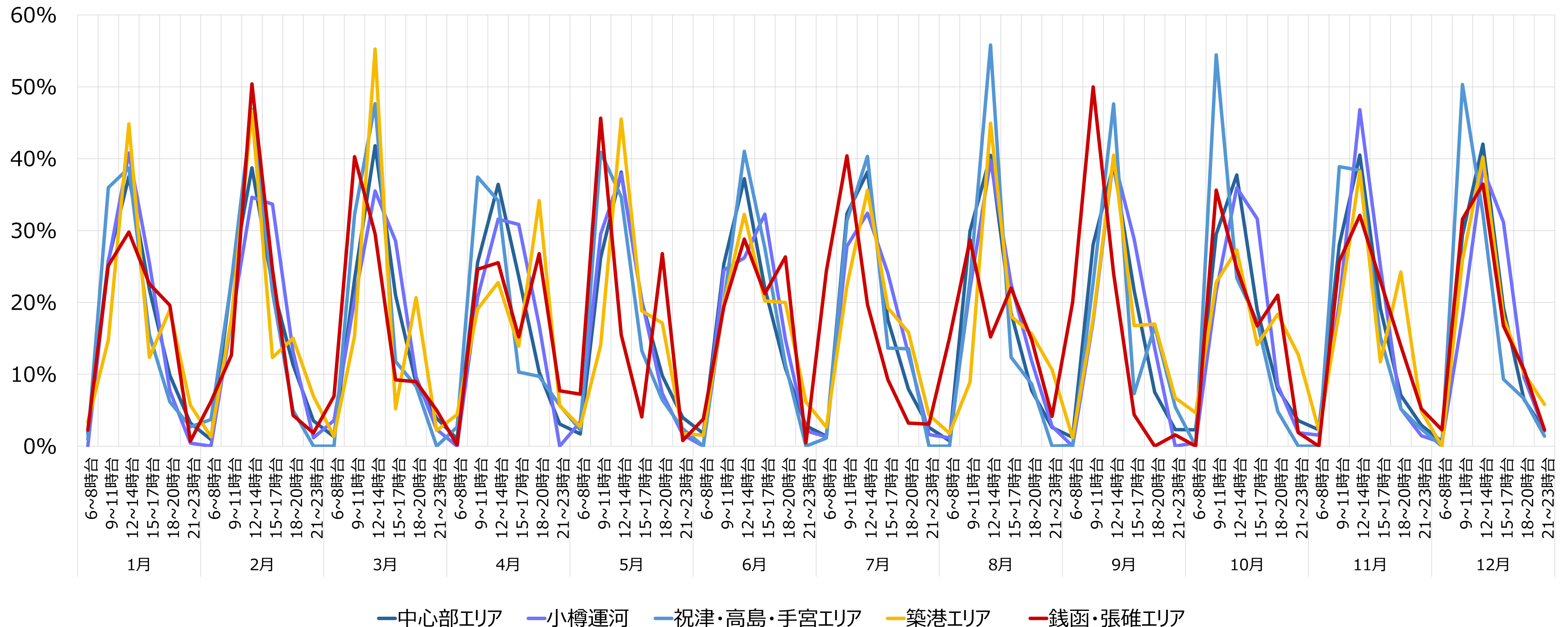
➤ 多くの月で、日本人とインバウンドで来訪ピークが異なる。インバウンドでは、総じて15～20時台の来訪が多いことが特徴的である。



※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

各エリアの来訪時間帯分布（インバウンド）

➤ 夜景需要がみられる天狗山エリアと、チェックイン/アウトの影響を受ける朝里川温泉エリアを除く各エリアをみると、2月・3月・8月などでインバウンドの特定時間帯への集中がみられる。他方、4月や6月はインバウンドの来訪時間帯が比較的分散している。



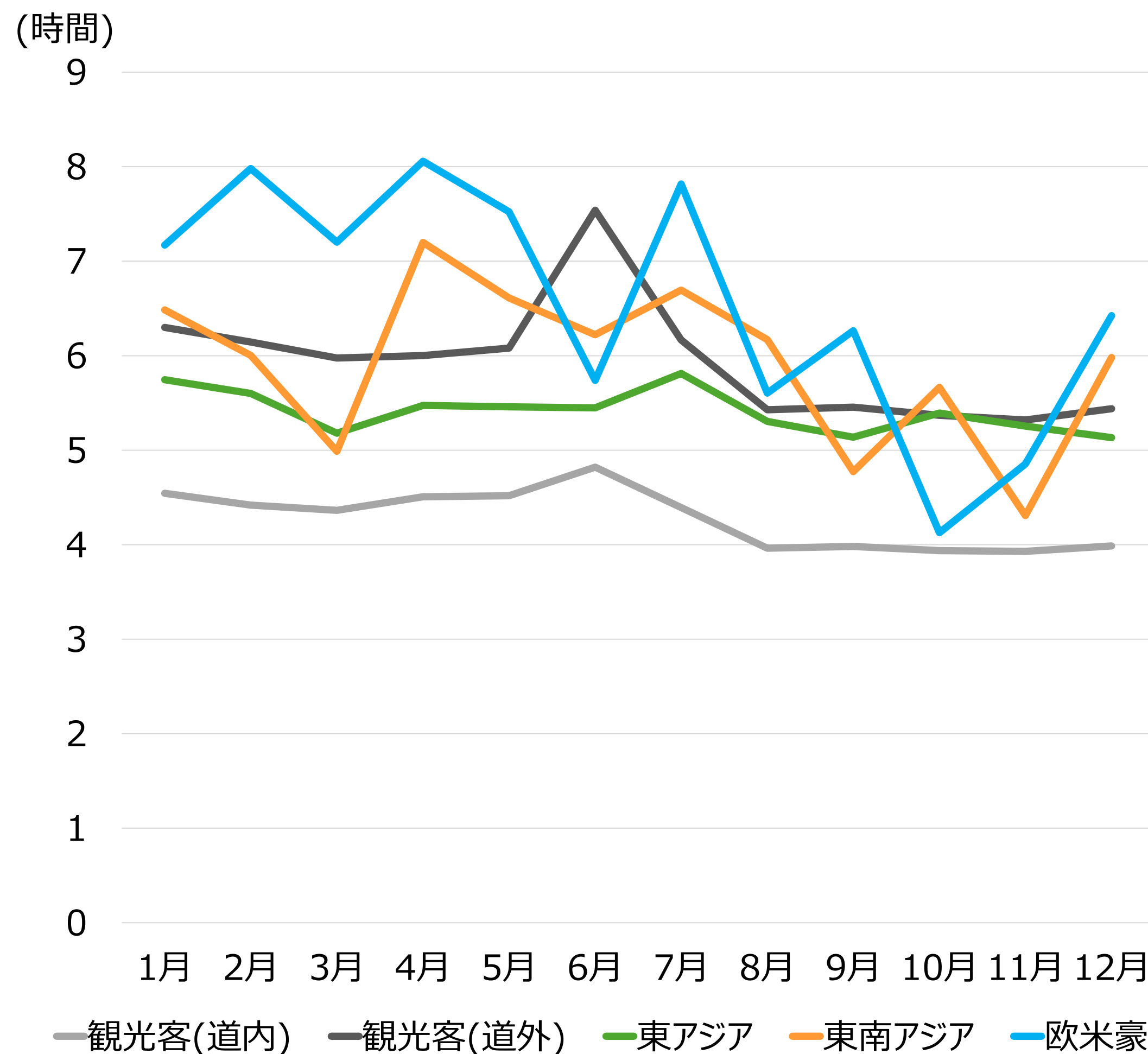
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

滞在時間・市内宿泊数

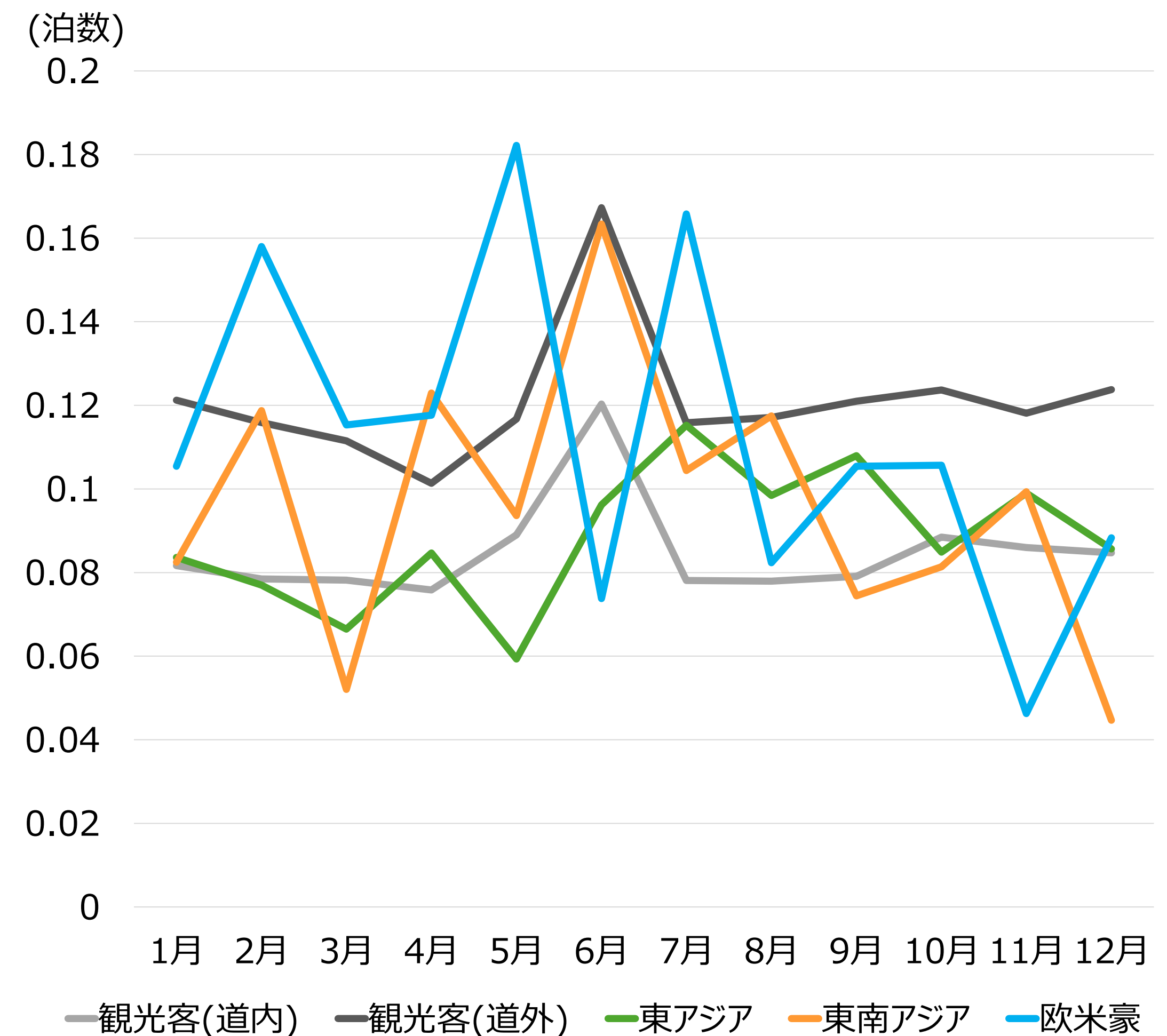
小樽市全域来訪者の平均滞在時間・平均市内宿泊数

➤ 道外客に比べて、東アジア居住者は平均滞在時間・平均市内宿泊数ともに少なく、短期滞在傾向がみられる。

● 平均滞在時間



● 平均市内宿泊数

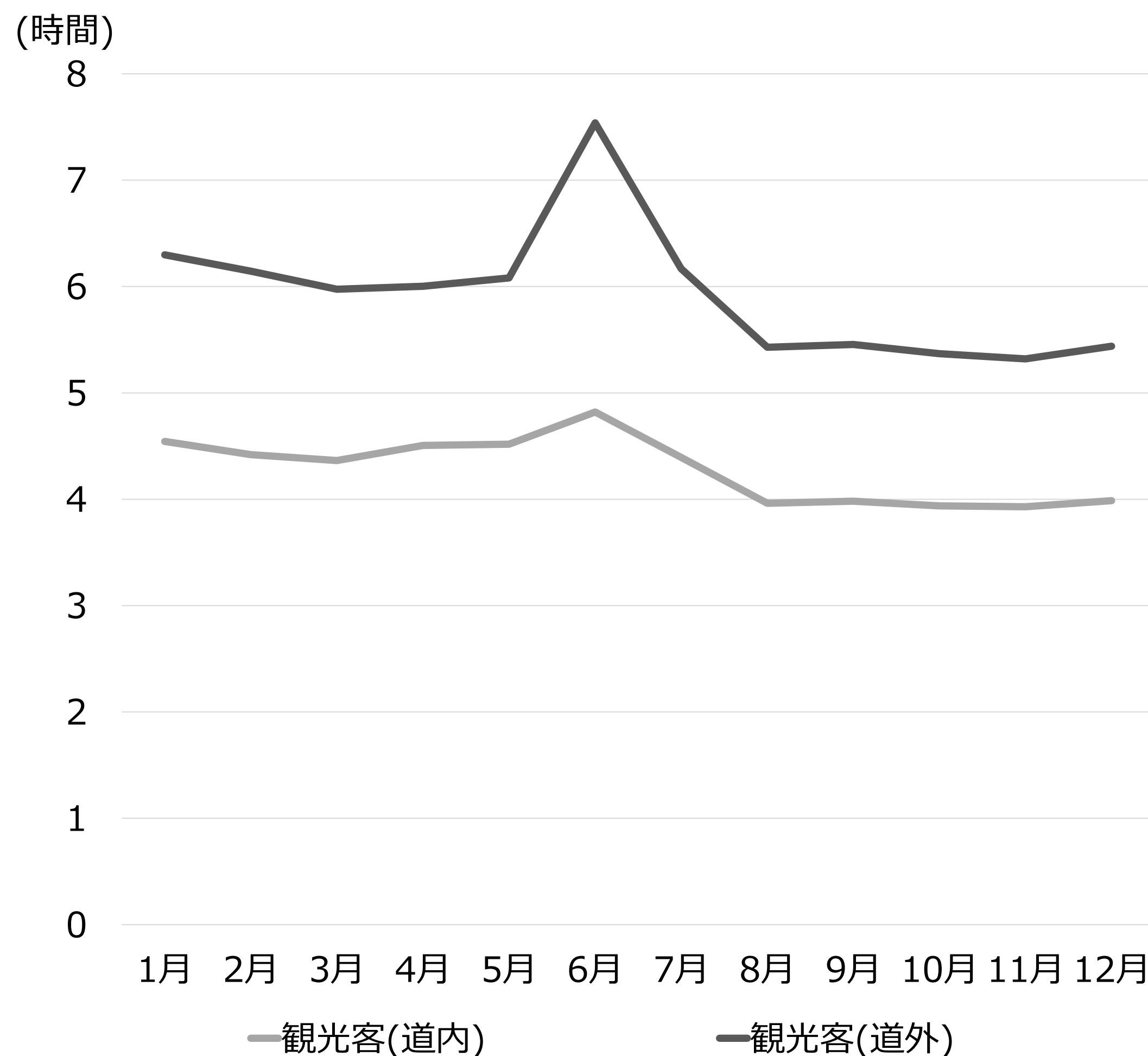


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

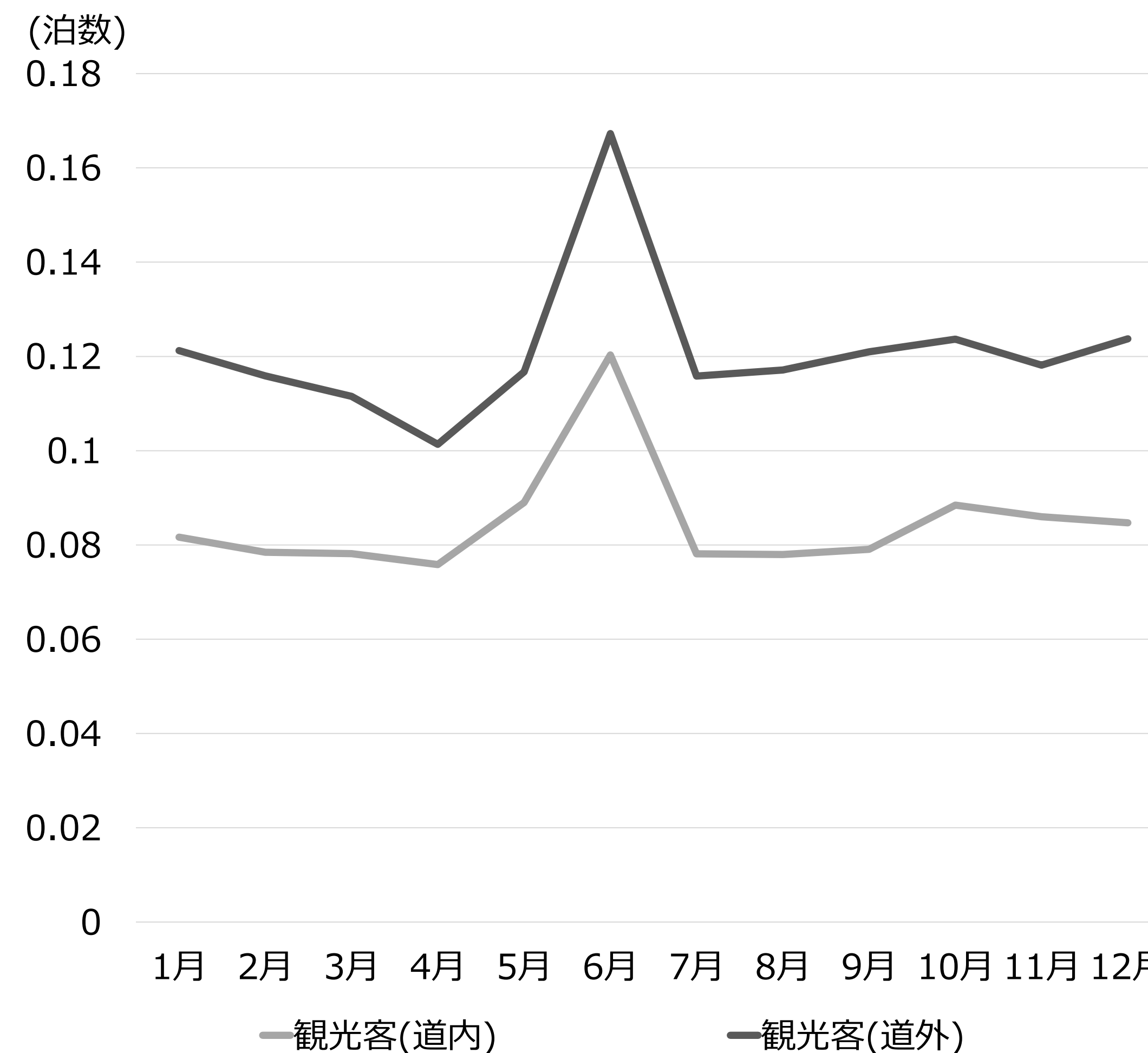
小樽市全域来訪者の平均滞在時間・平均市内宿泊数

- 道外客の平均滞在時間は6時間前後であるが、6月には1時間強の増加がみられる。
- 道外客の平均宿泊数は0.12泊前後であるが、6月には0.05泊ほどの増加がみられる。

● 平均滞在時間



● 平均市内宿泊数

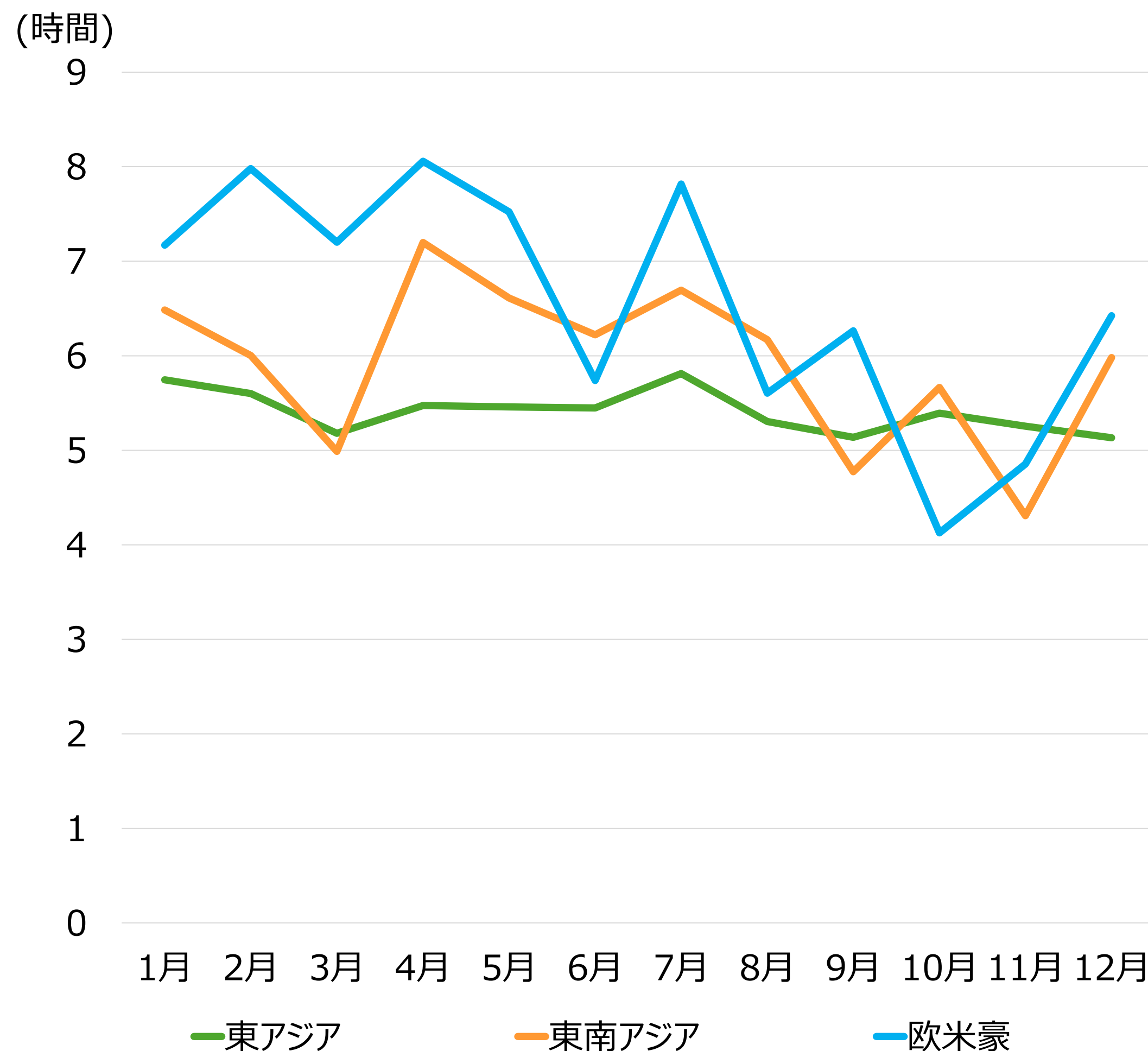


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

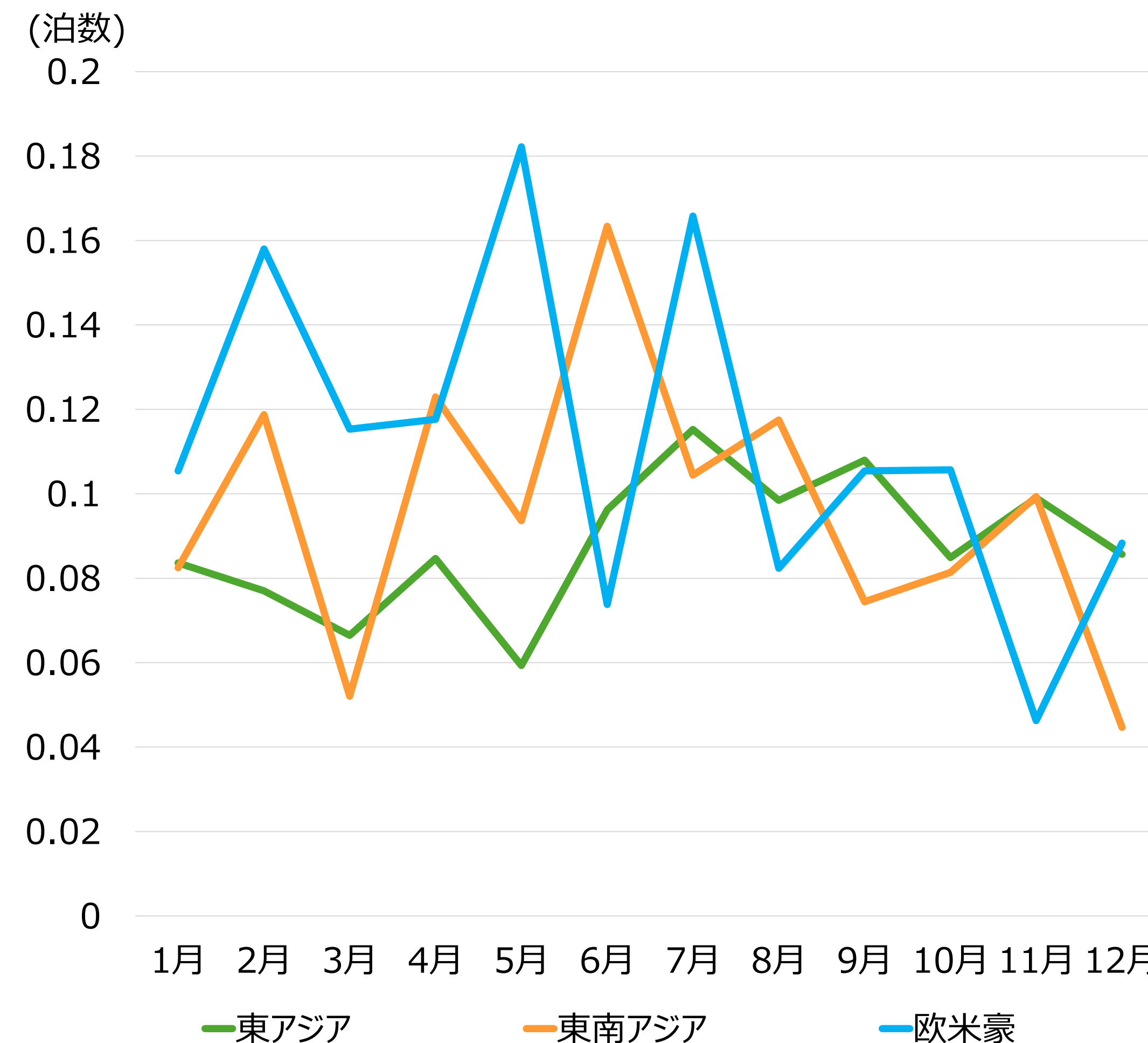
小樽市全域来訪者の平均滞在時間・平均市内宿泊数

- 東アジア居住者の滞在時間は、一年を通して5～6時間で安定している。
- 東南アジア・欧米豪居住者は滞在時間が東アジアよりも長い傾向にあるが、3月・6月と秋季には落ち込んでいる。

● 平均滞在時間



● 平均市内宿泊数



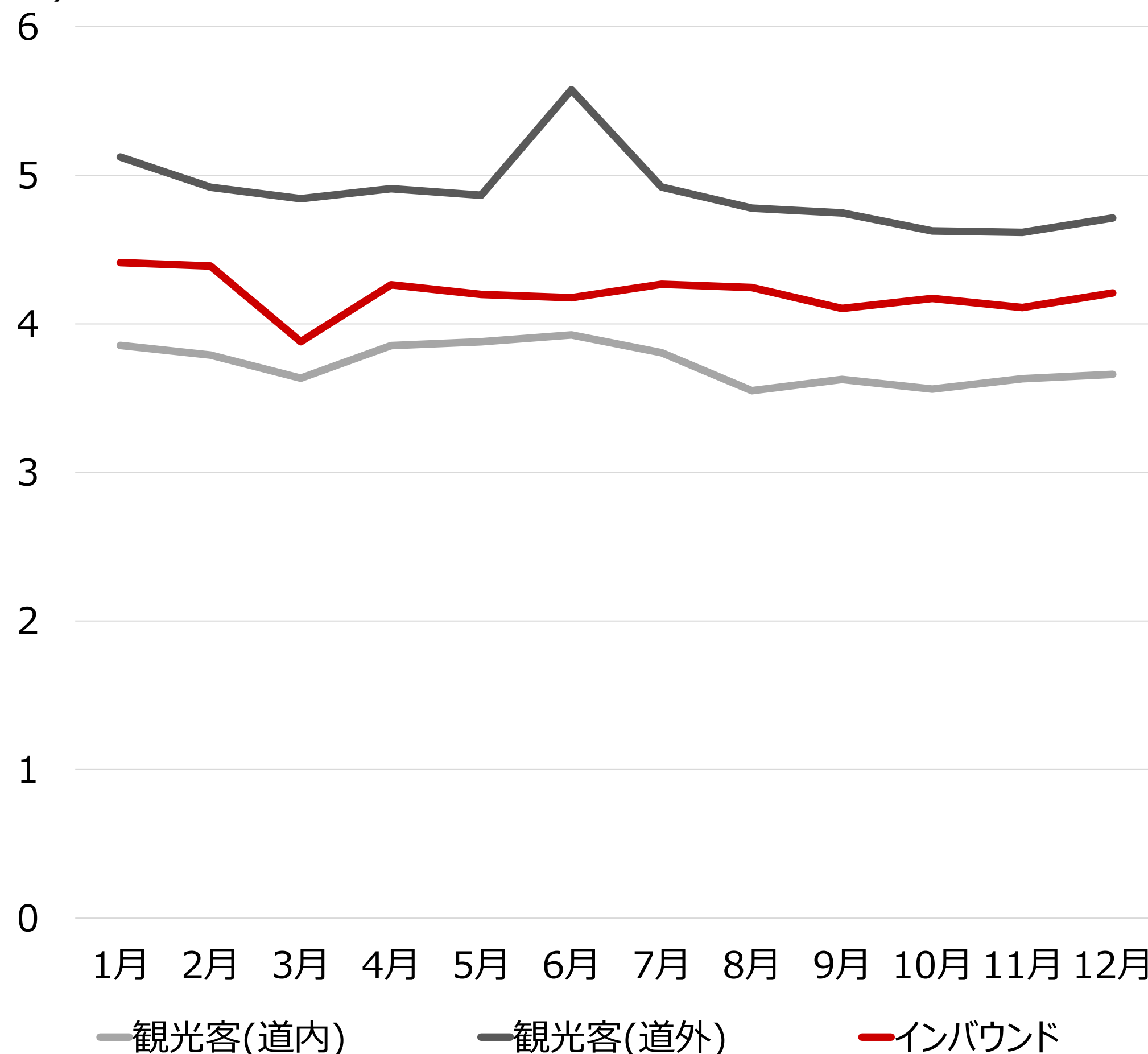
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

中心部エリア・小樽運河来訪者の平均滞在時間

- いずれのエリアでも、道外客に比べてインバウンドの平均滞在時間は少なく、短期滞在傾向がみられる。
- 中心部エリアと異なり、小樽運河では道内客の滞在時間が道外客・インバウンドよりも長くなっている。

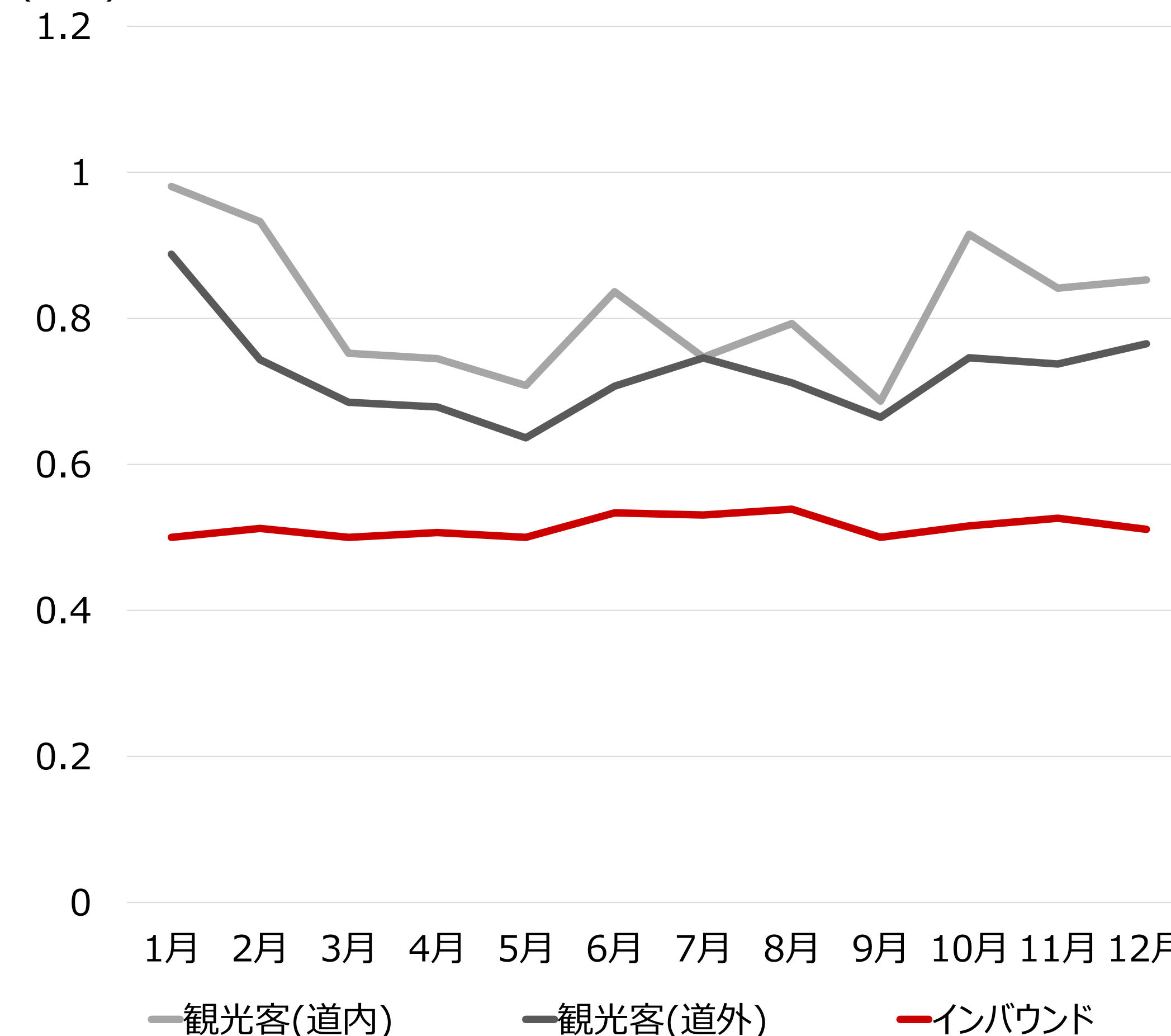
● 中心部エリアの平均滞在時間

(時間)



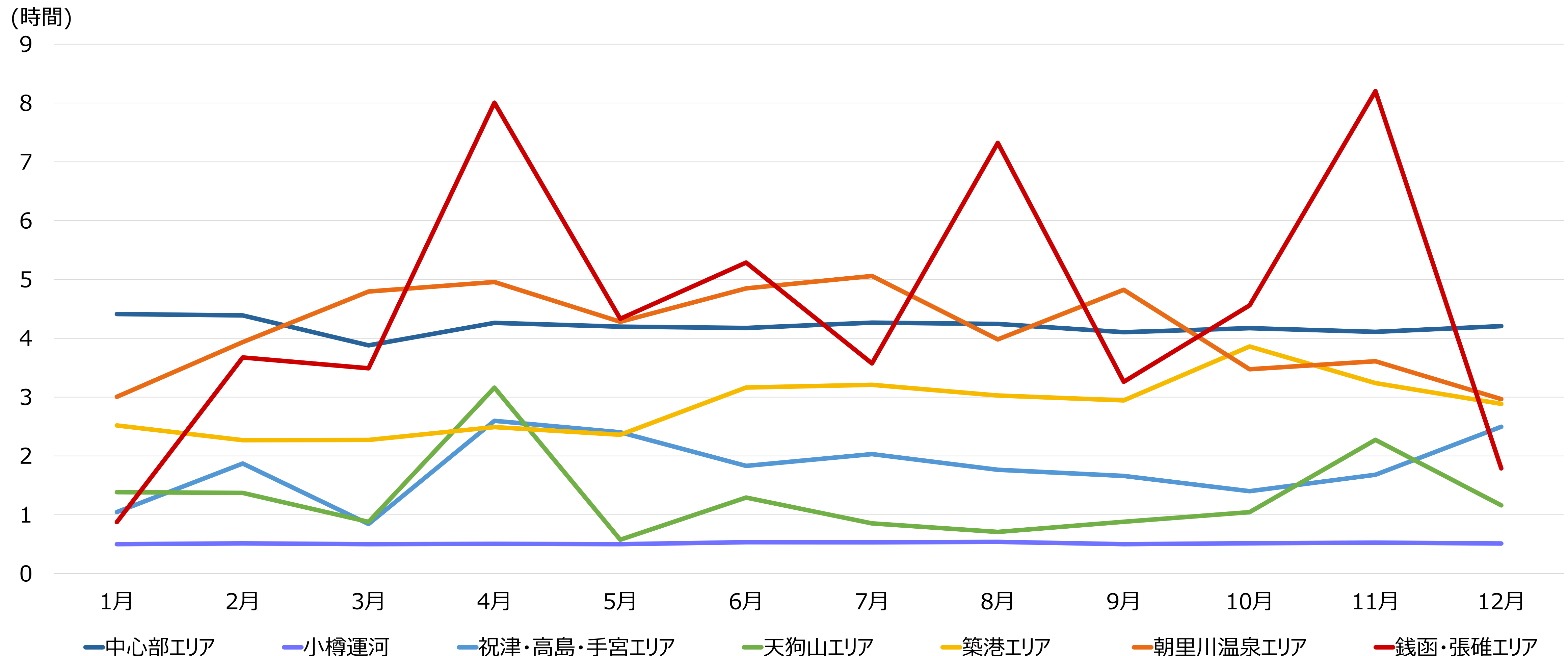
● 小樽運河の平均滞在時間

(時間)



各エリアの平均滞在時間（インバウンド）

- 築港エリアは、中心部エリアに比べると平均滞在時間が短いものの、夏季以降に滞在時間が増加傾向にある。
- 宿泊地である朝里川温泉エリアのほか、銭函・張碓エリアでも滞在時間が長い傾向にあり、特殊需要がうかがえる。



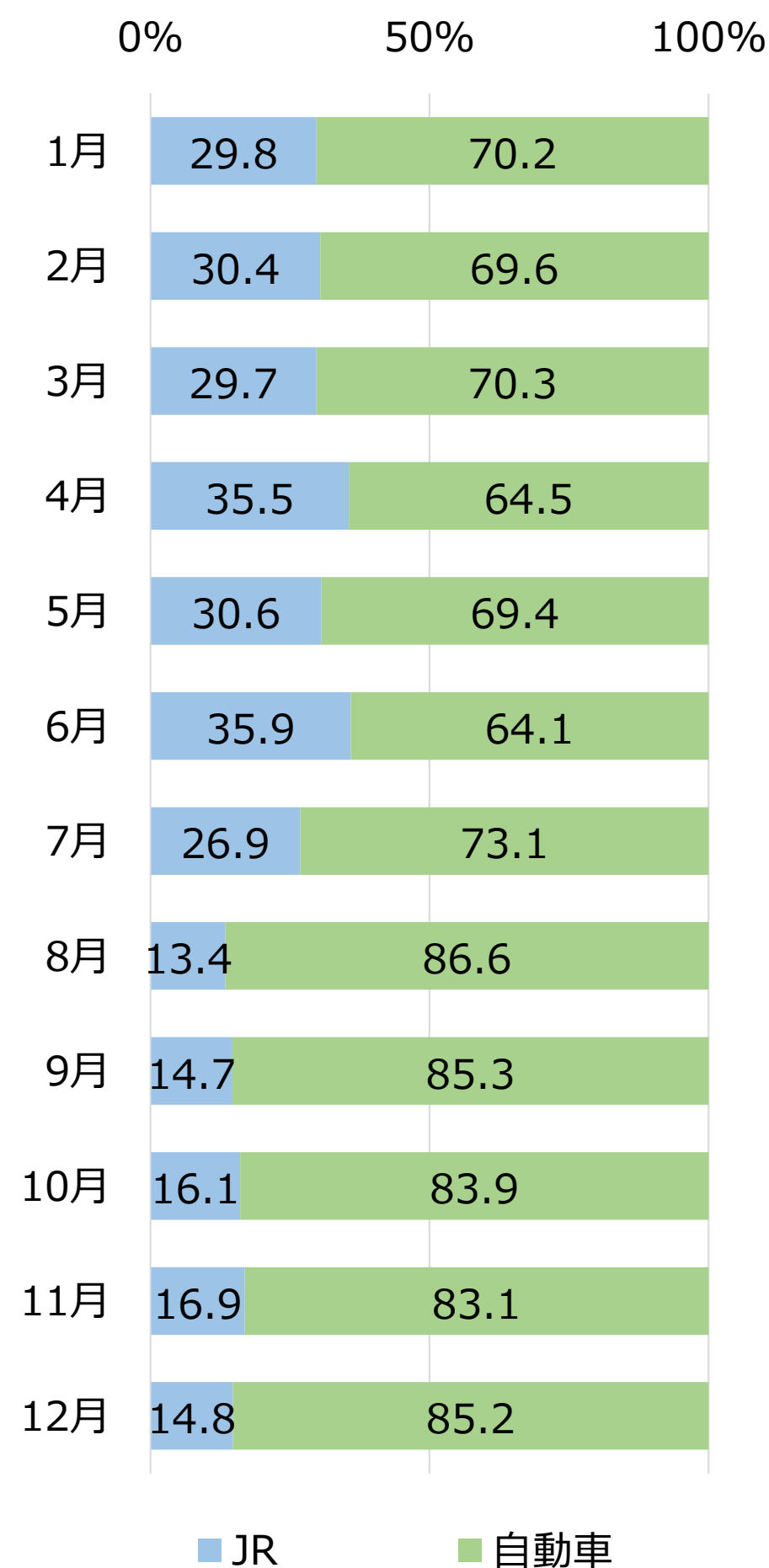
利用交通手段

小樽市全域来訪者の利用交通手段分布

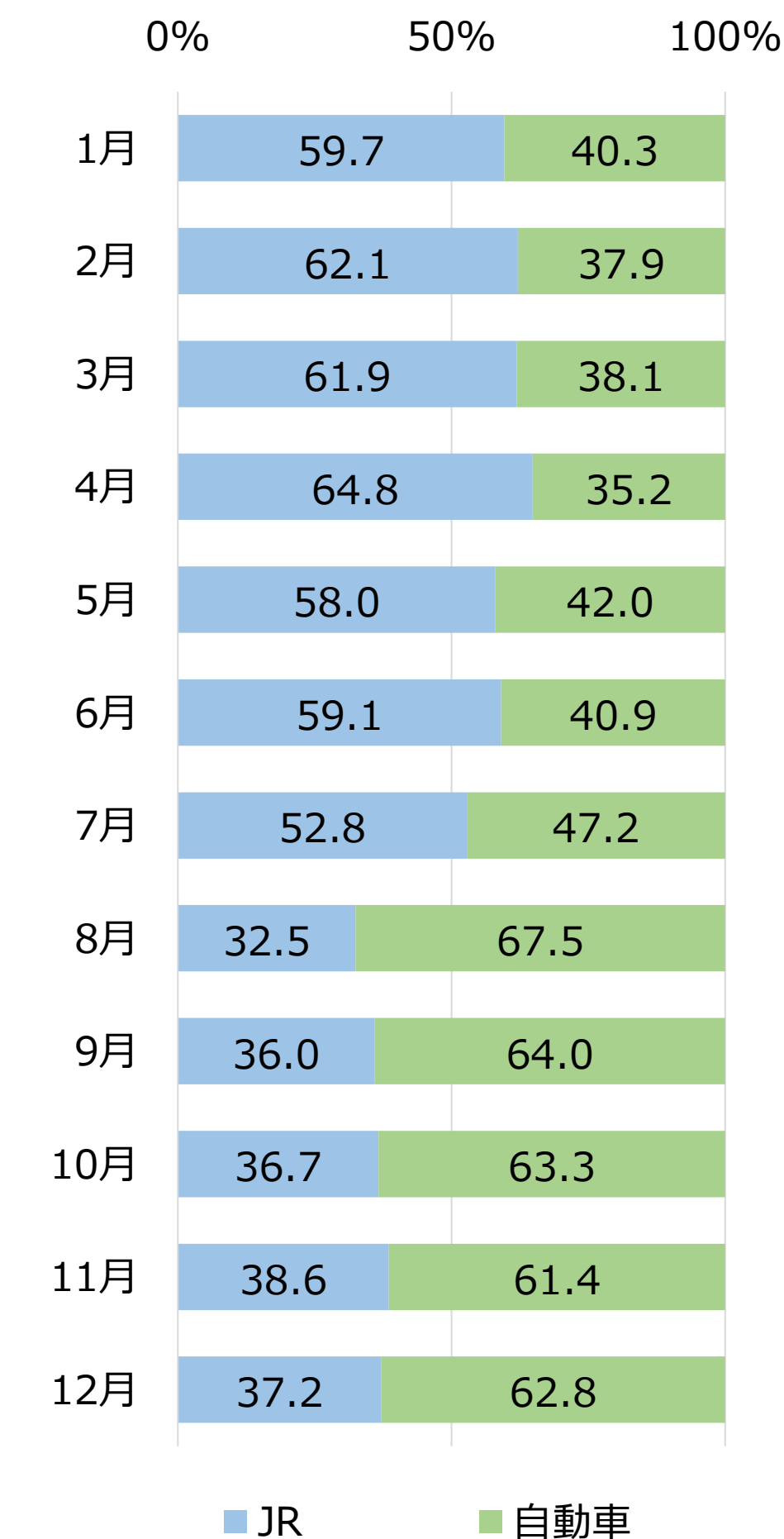
- 道内客は一年を通して自動車の利用が多いが、道外客は1月～7月はJR、8月～12月は自動車の利用が多い。
- 東アジア・東南アジア居住者は一年を通して自動車の利用が多いが、欧米豪居住者は10月・12月以外はJRの利用が多い。

● 利用交通手段分布 〈JR・自動車〉 ※自動車にはマイカー・レンタカー・バスのいずれも含む

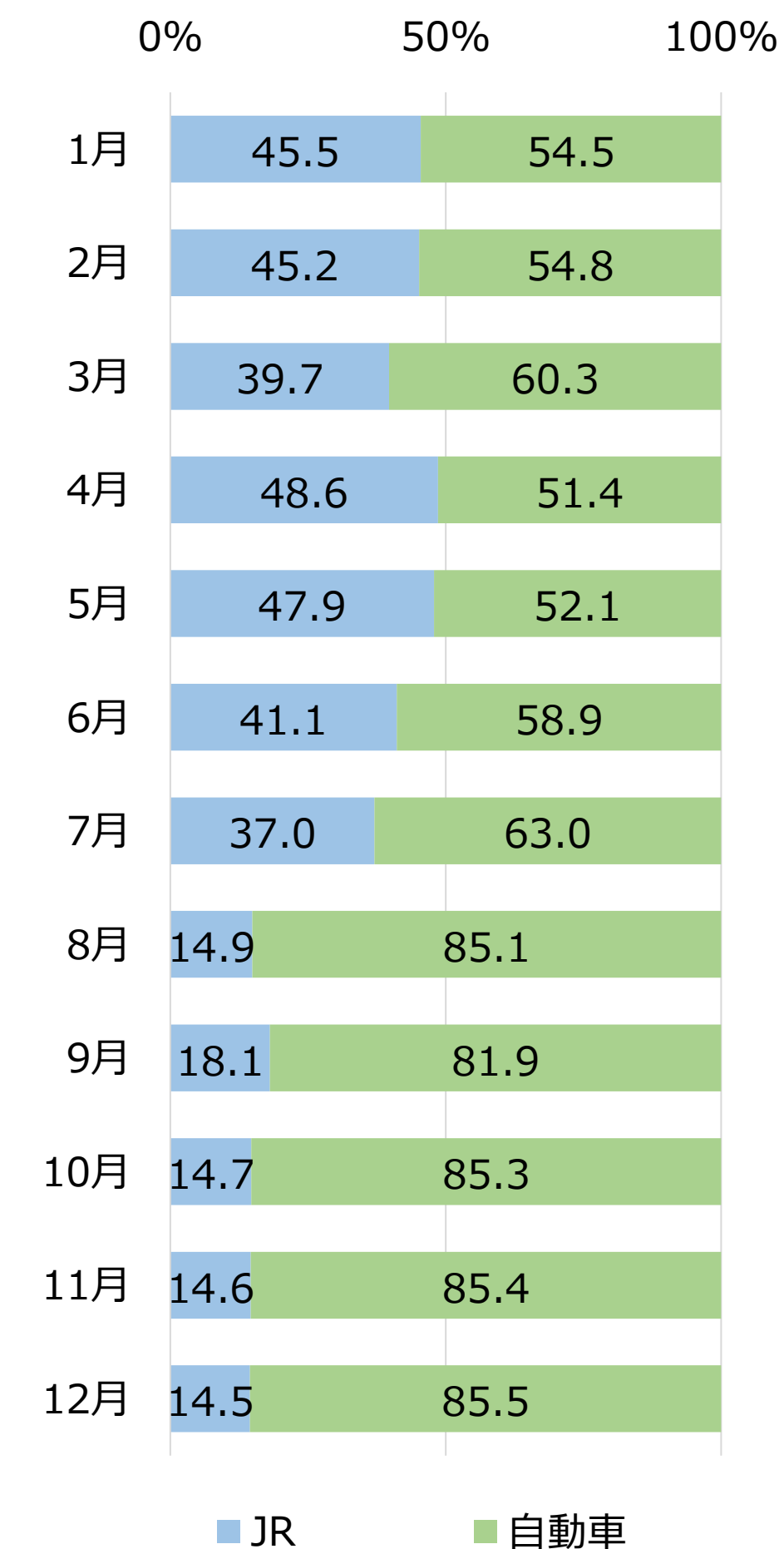
【日本人観光客(道内)】



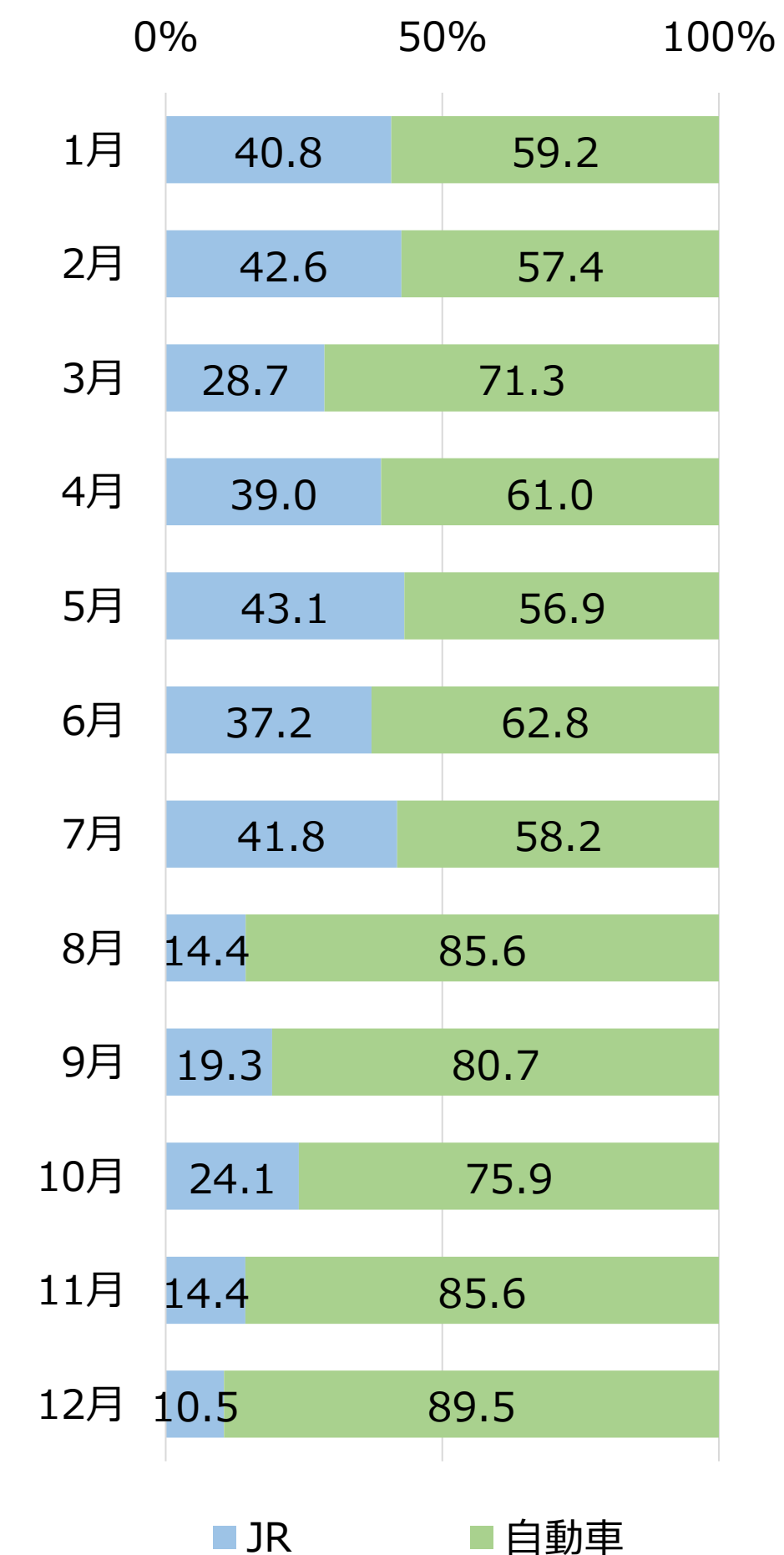
【日本人観光客(道外)】



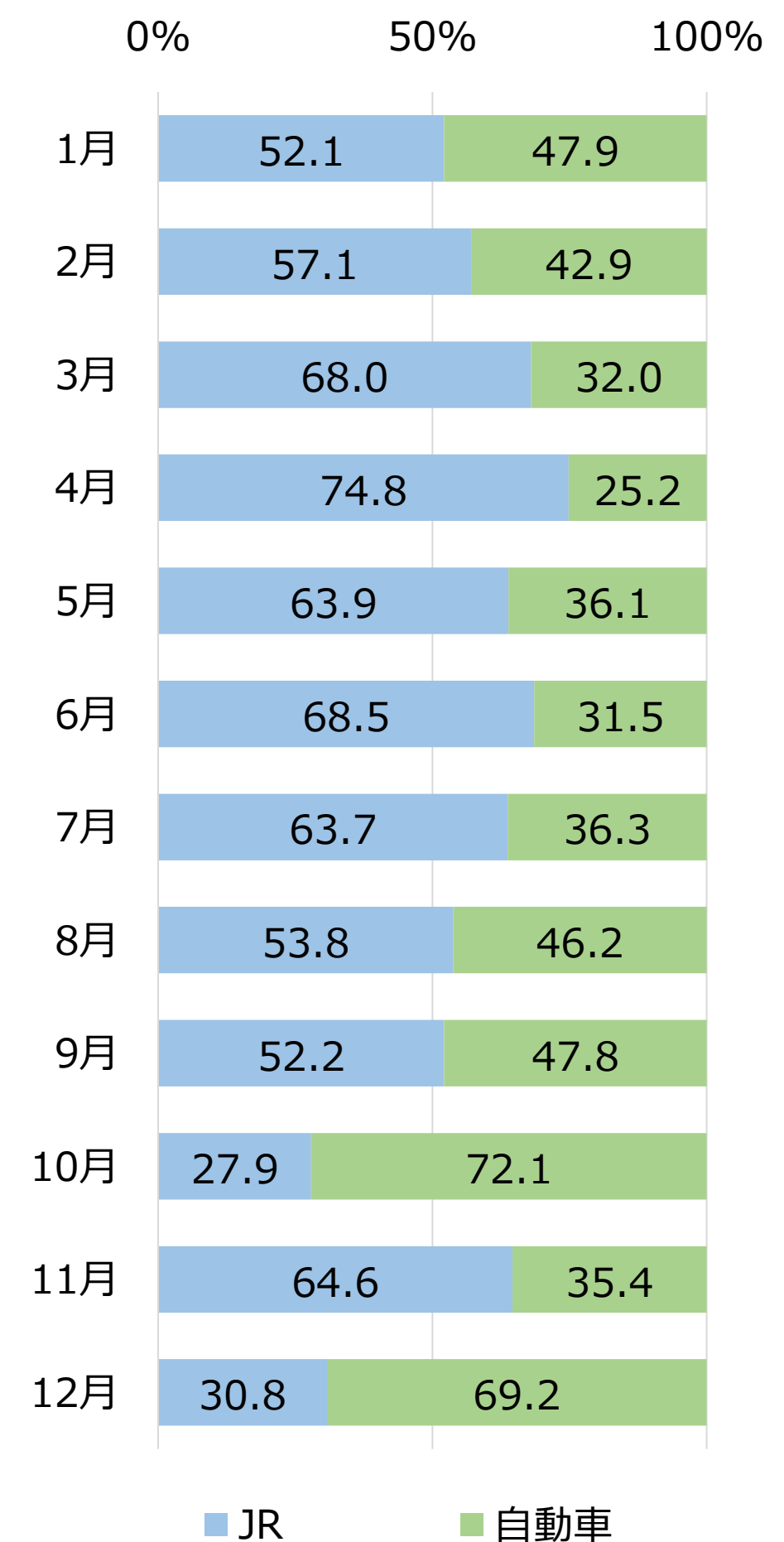
【東アジア】



【東南アジア】



【欧米豪】



※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

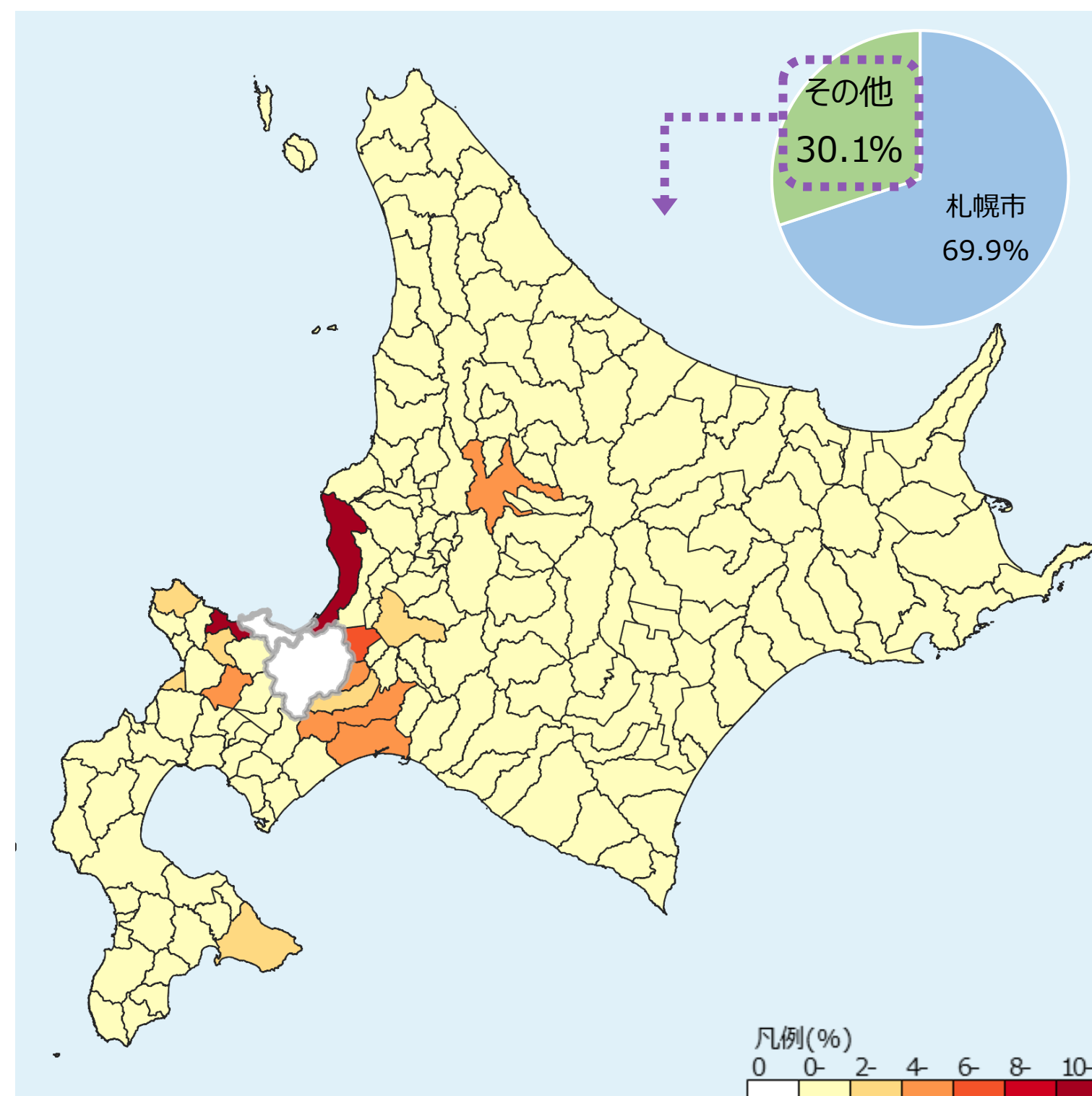
周遊先

小樽市全域来訪者の周遊先（2024年）

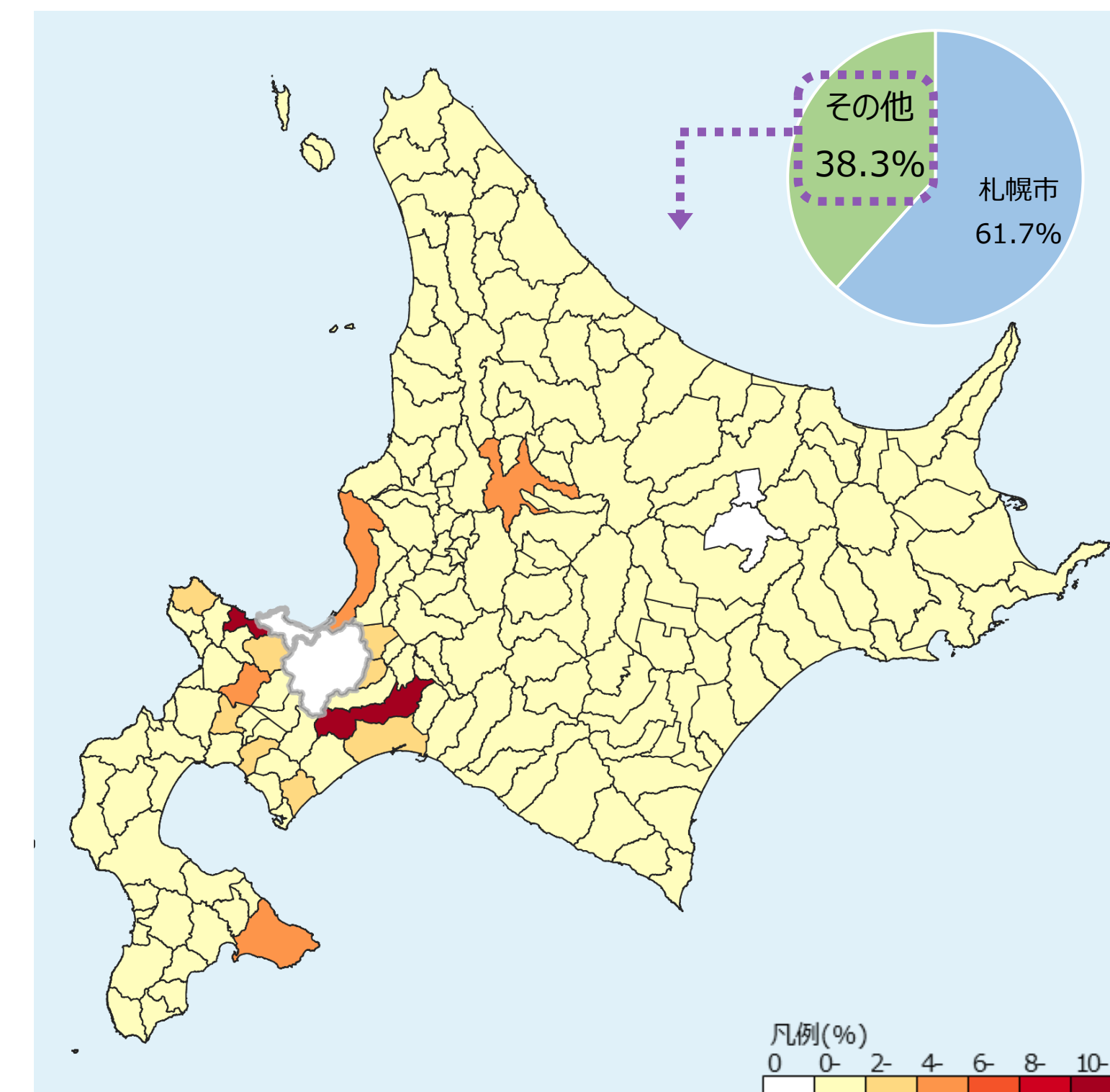
- 道内客は、札幌のほか余市・石狩との周遊が特に多く、次いで江別が多い。
- 道外客は、札幌のほか余市・千歳との周遊が特に多く、次いで石狩・倶知安・函館・旭川が多い。

● 周遊先分布 〈全道〉

【日本人観光客(道内)】



【日本人観光客(道外)】



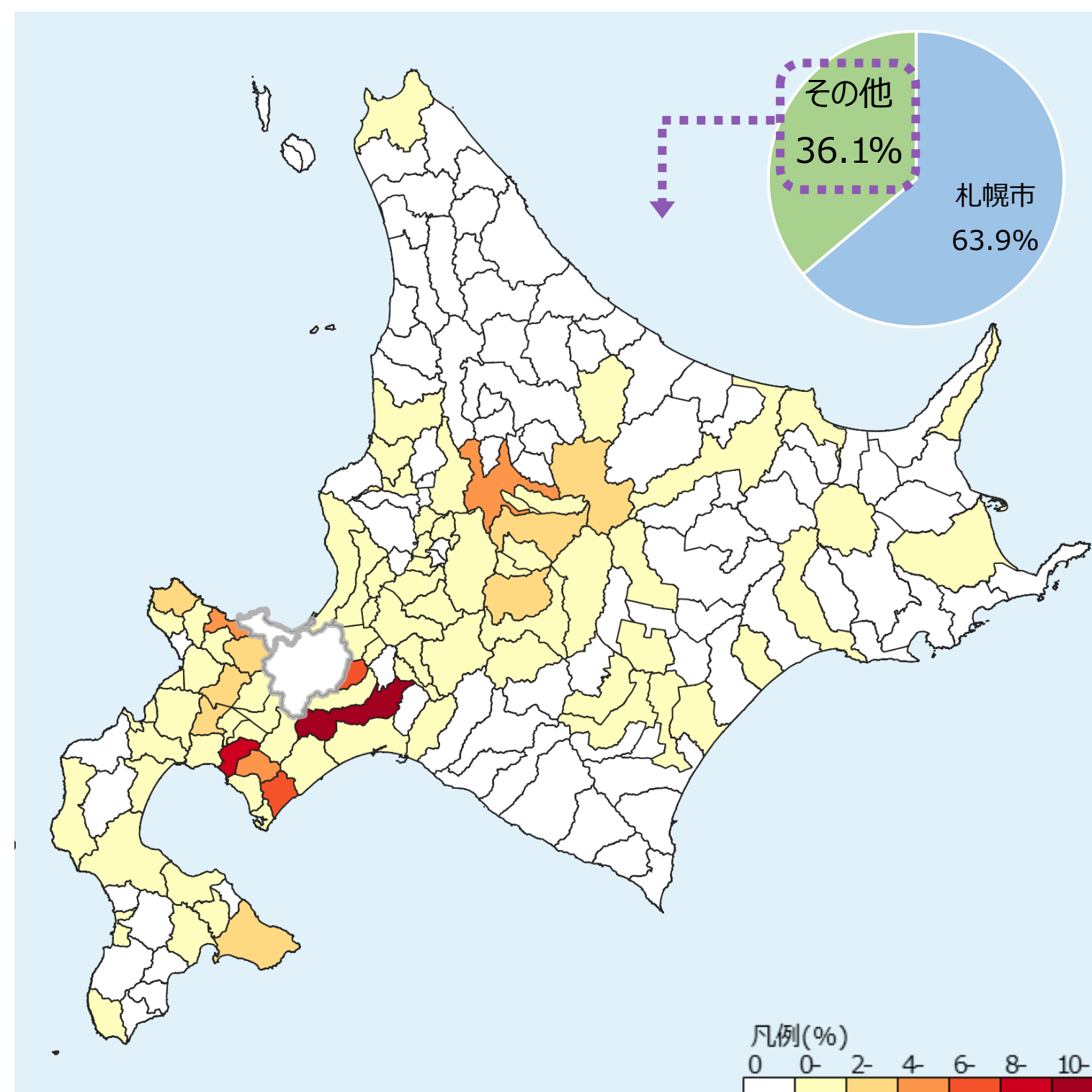
※ヒートマップは、札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

小樽市全域来訪者の周遊先（2024年）

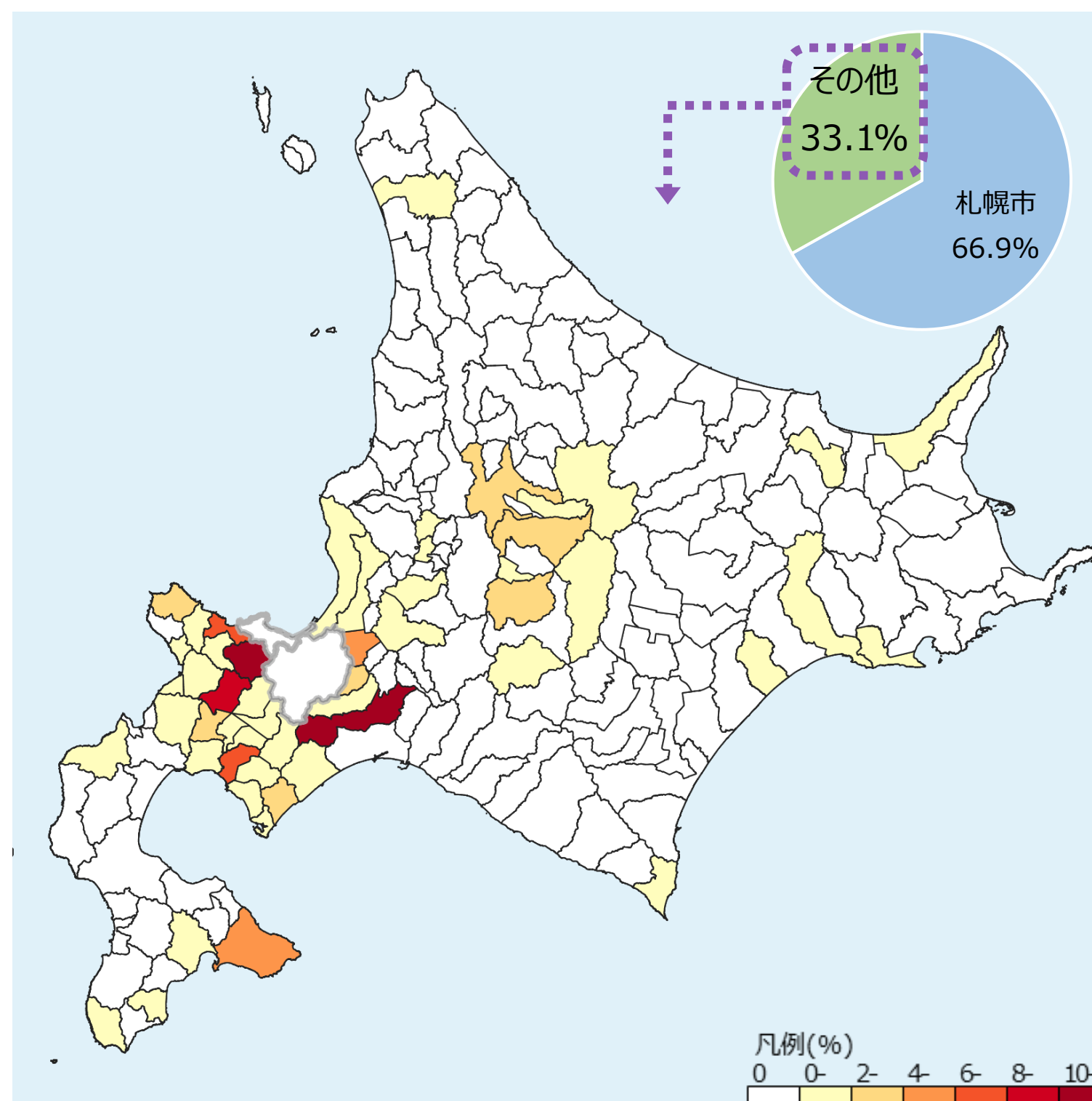
- 東アジア居住者は、札幌のほか千歳との周遊が特に多く、次いで洞爺湖・登別・江別が多い。
- 東南アジア居住者は、札幌のほか赤井川・千歳との周遊が特に多く、次いで倶知安・余市・洞爺湖が多い。
- 欧米豪居住者は、札幌のほか倶知安・登別との周遊が特に多く、次いで余市・千歳・上川が多い。

● 周遊先分布 〈全道〉

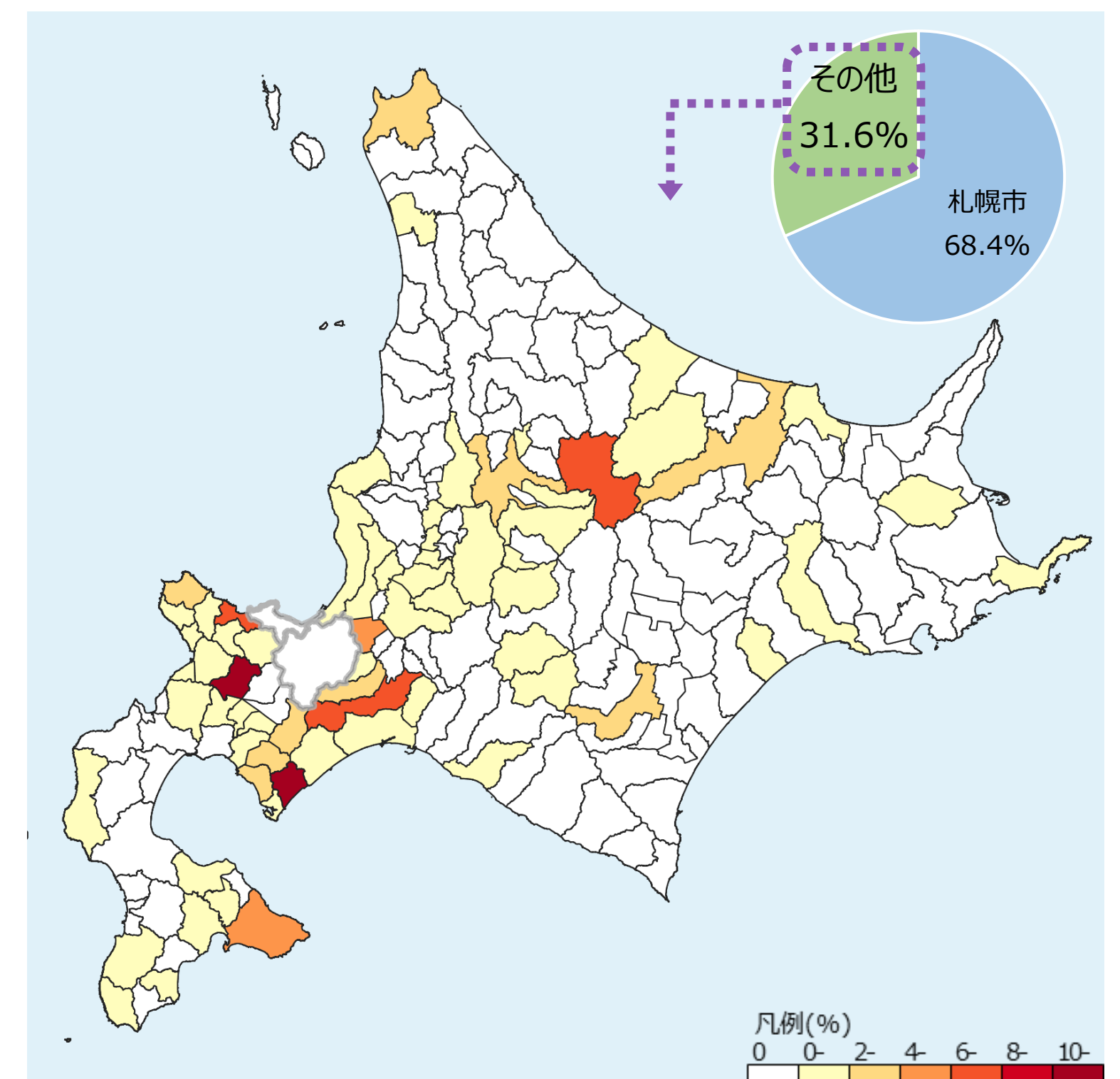
【東アジア】



【東南アジア】



【欧米豪】



※ヒートマップは、札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

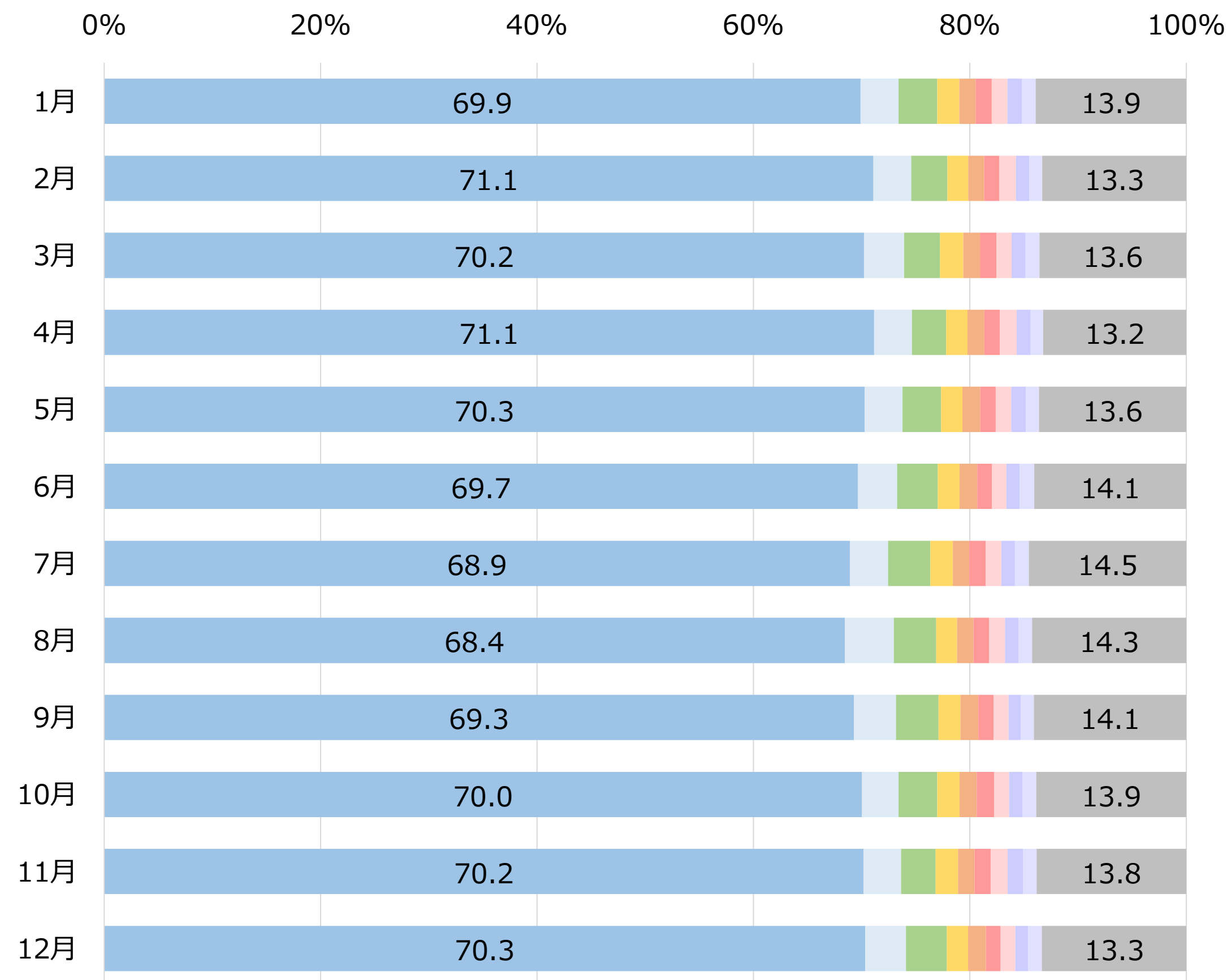
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

小樽市全域来訪者の周遊先分布

- 道内客は、一年を通して札幌のほか石狩・余市との周遊が特に多い。
- 道外客は、一年を通して札幌のほか千歳・余市との周遊が特に多い。

● 周遊先分布 〈全道〉

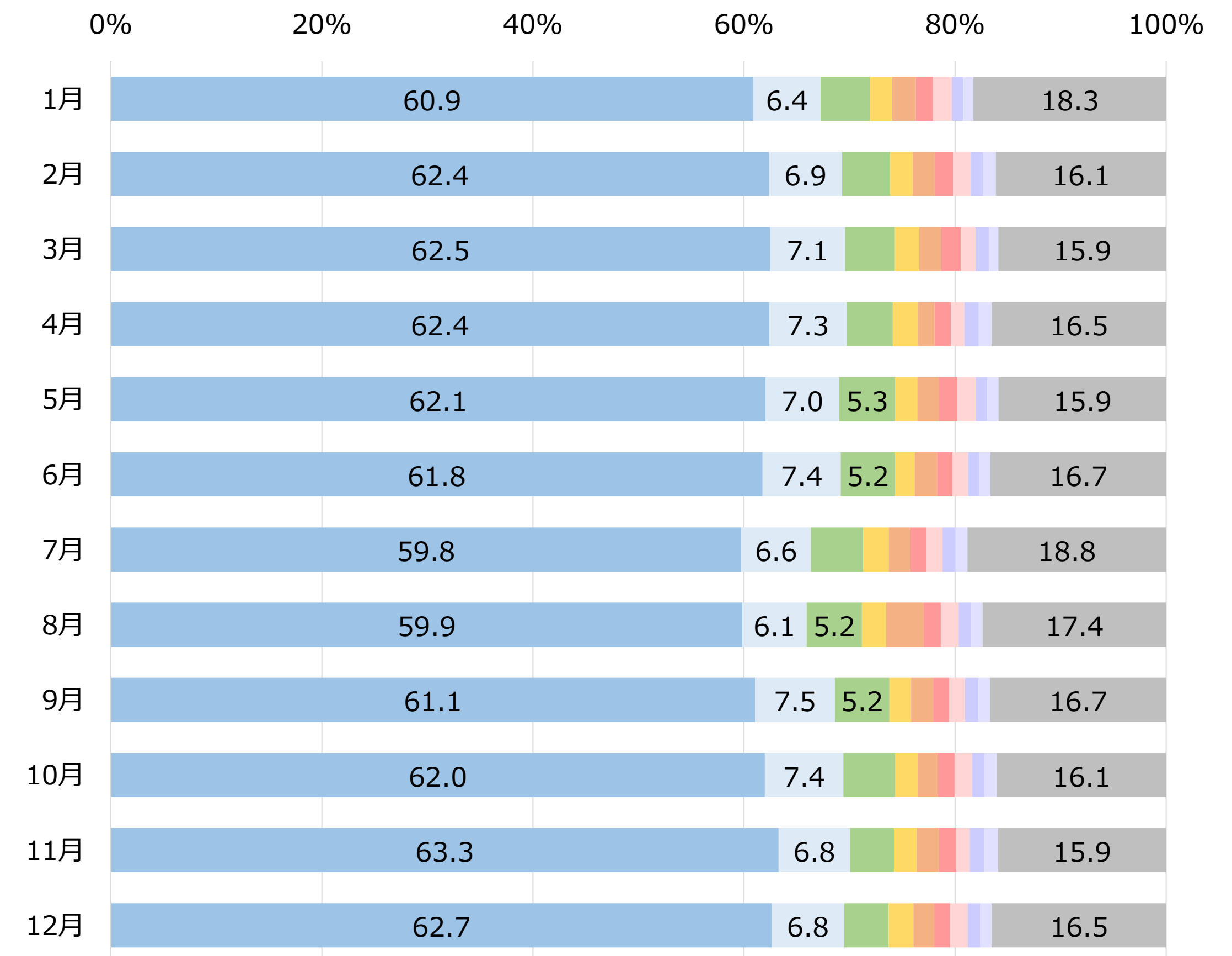
【日本人観光客(道内)】



■ 札幌市 ■ 石狩市 ■ 余市町 ■ 江別市 ■ 倶知安町 ■ 千歳市 ■ 苫小牧市 ■ 旭川市 ■ 北広島市 ■ その他

※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

【日本人観光客(道外)】



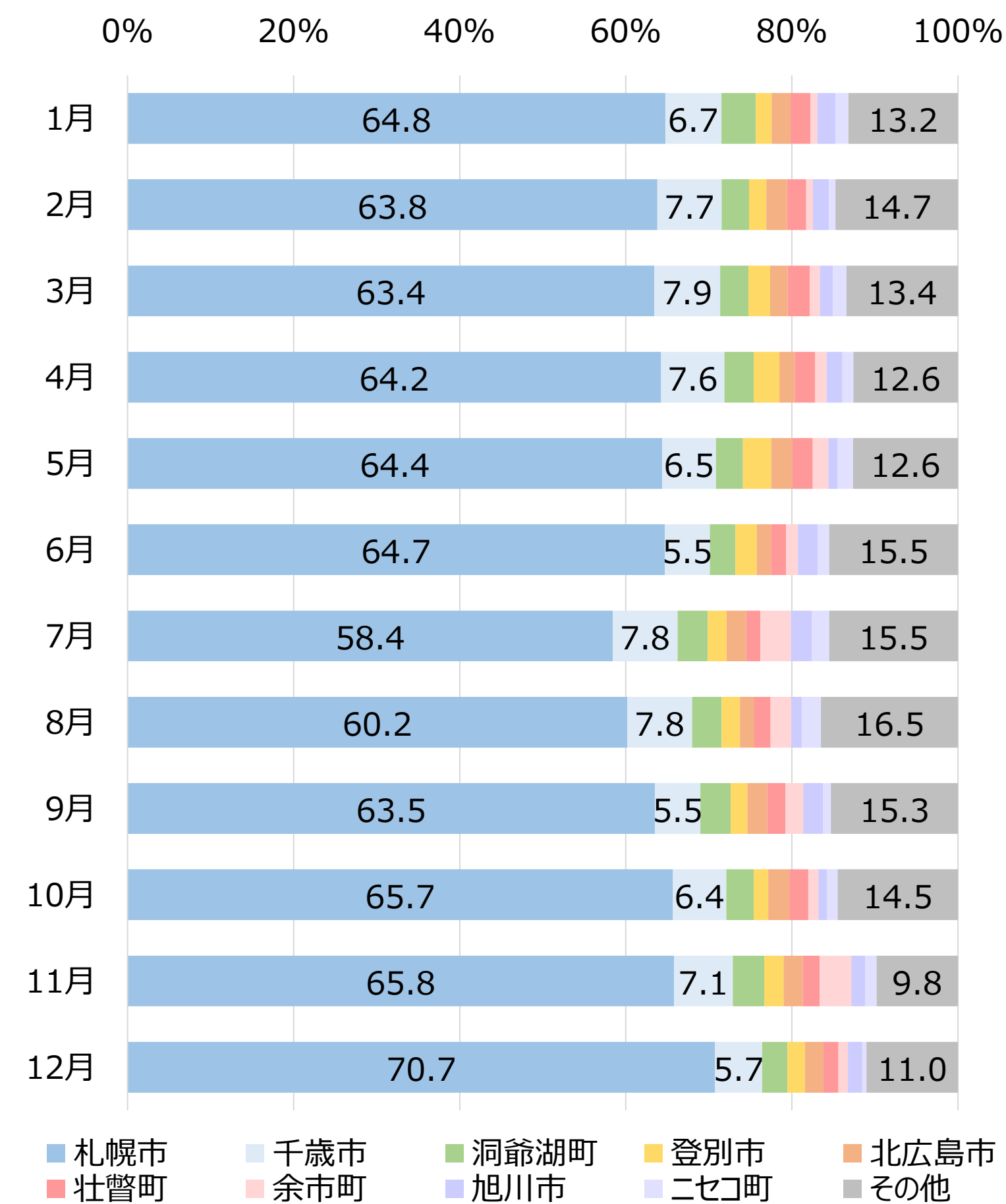
■ 札幌市 ■ 千歳市 ■ 余市町 ■ 函館市 ■ 石狩市 ■ 旭川市 ■ 倶知安町 ■ 登別市 ■ 洞爺湖町 ■ その他

小樽市全域来訪者の周遊先分布

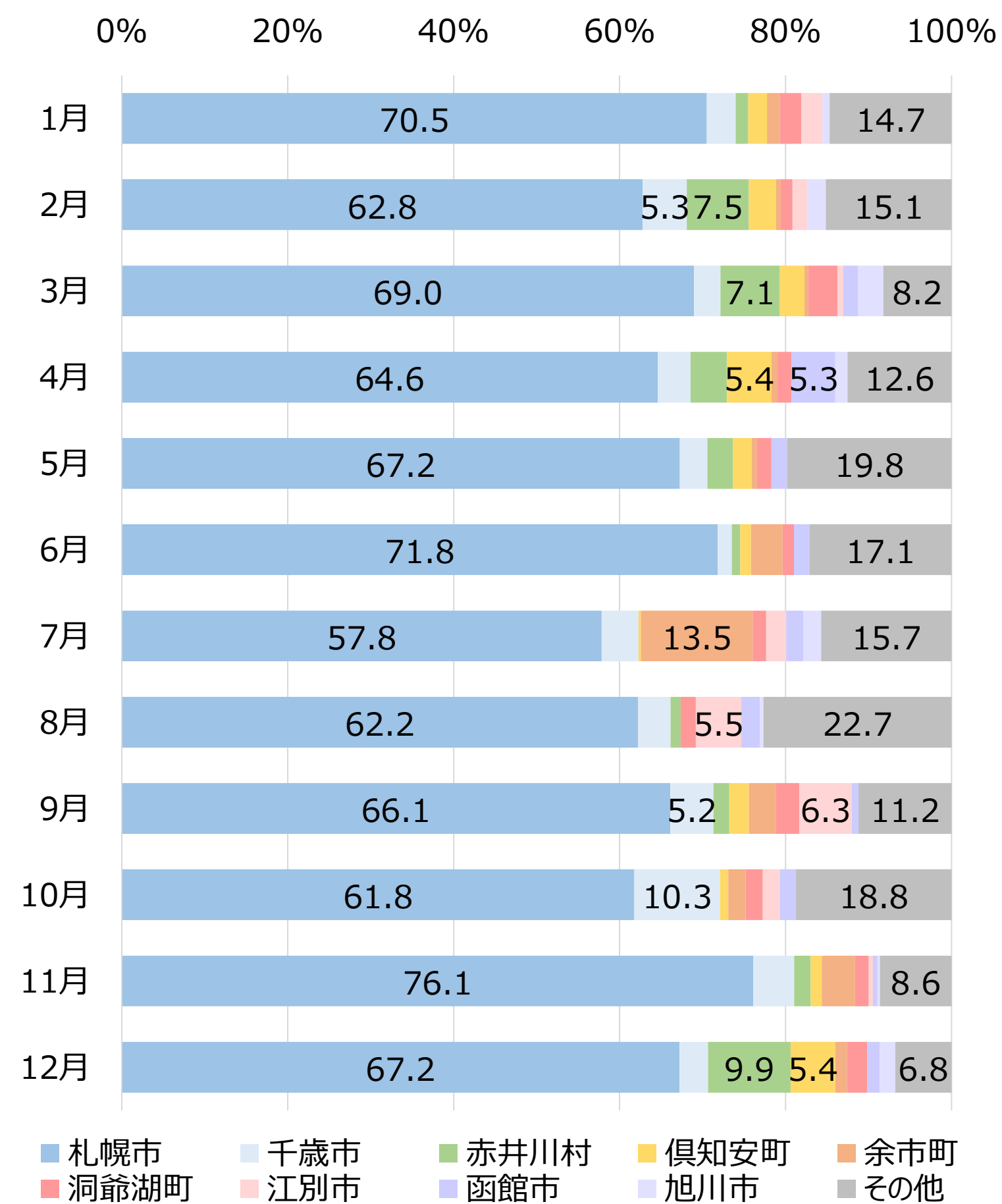
- 東アジア居住者は、札幌のほか千歳との周遊が特に多く、次いで洞爺湖・登別が多い。
- 東南アジア居住者は、札幌のほか、2月・12月は赤井川、7月は余市、10月は千歳との周遊が特に多い。
- 欧米豪居住者は、札幌のほか、2月・11月は登別、5月は函館、7月は江別、10月は上川との周遊が特に多い。

● 周遊先分布 〈全道〉

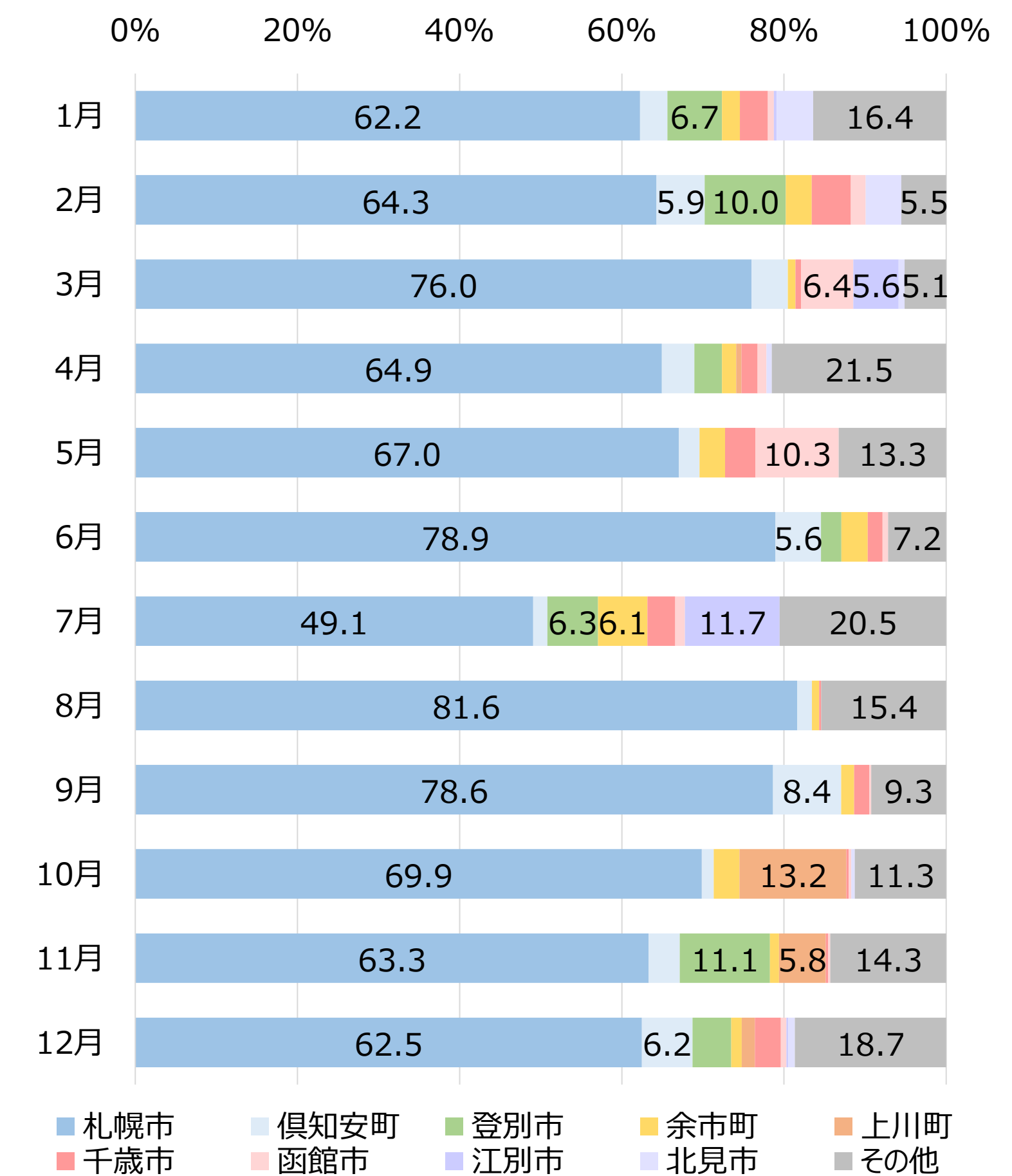
【東アジア】



【東南アジア】



【欧米豪】



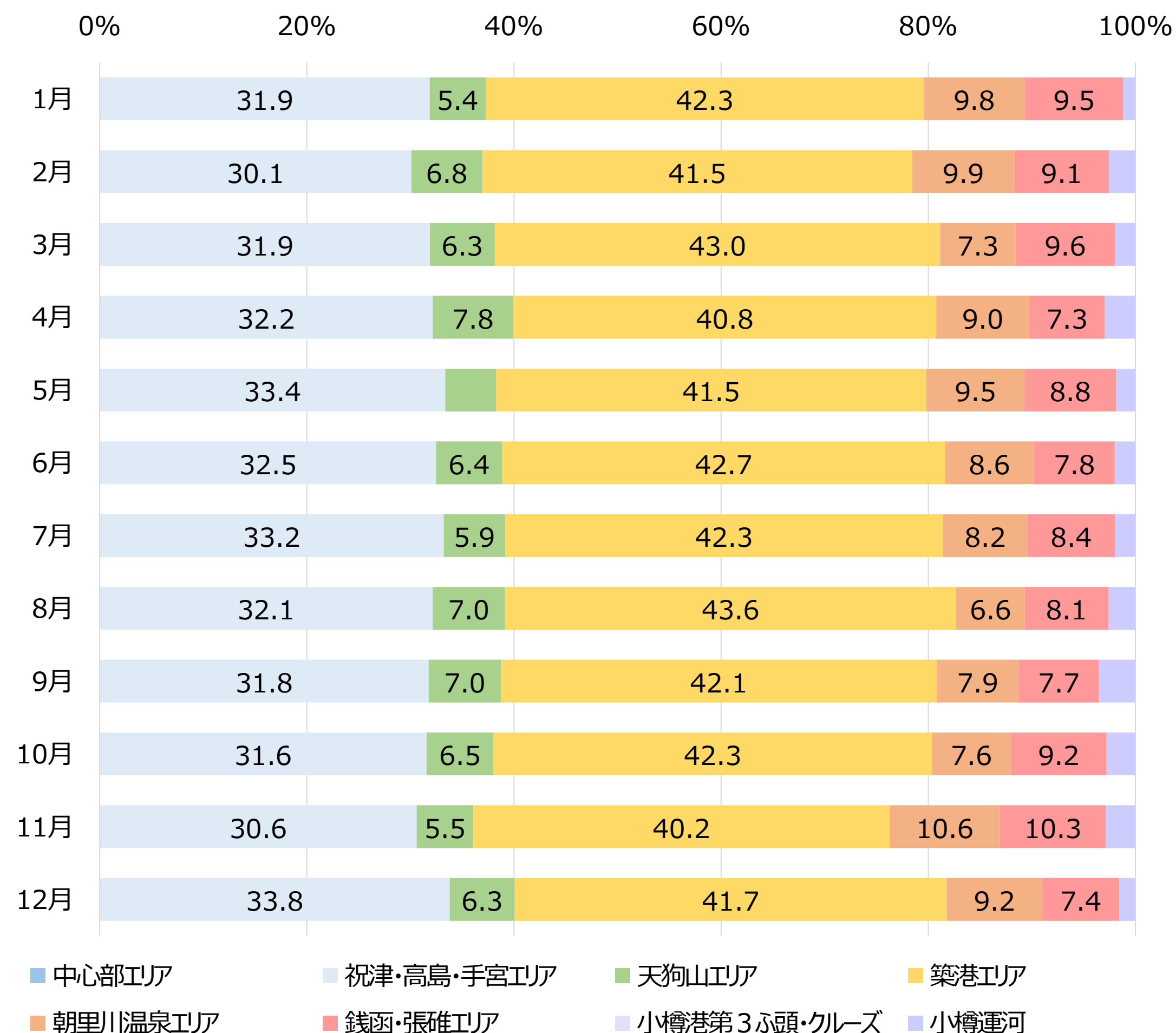
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

中心部エリア来訪者の周遊先分布

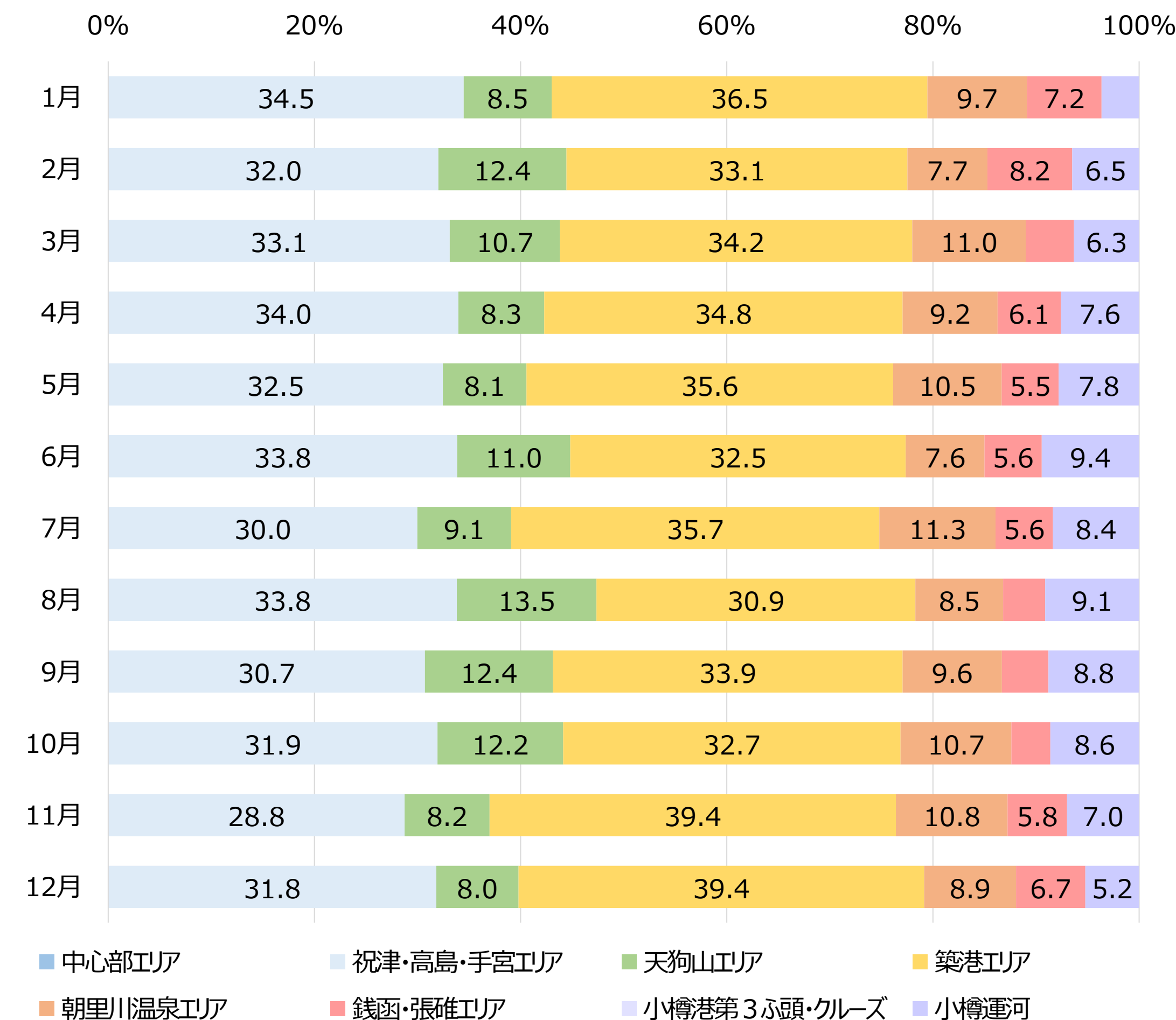
- 道内客・道外客とも、祝津・高島・手宮エリアや築港エリアとの周遊が多い。
- その他のエリアについては、道外客は道内客に比べて天狗山エリア・朝里川温泉エリア・小樽運河との周遊が多い傾向にある。

● 周遊先分布 〈小樽市内〉

【日本人観光客(道内)】



【日本人観光客(道外)】

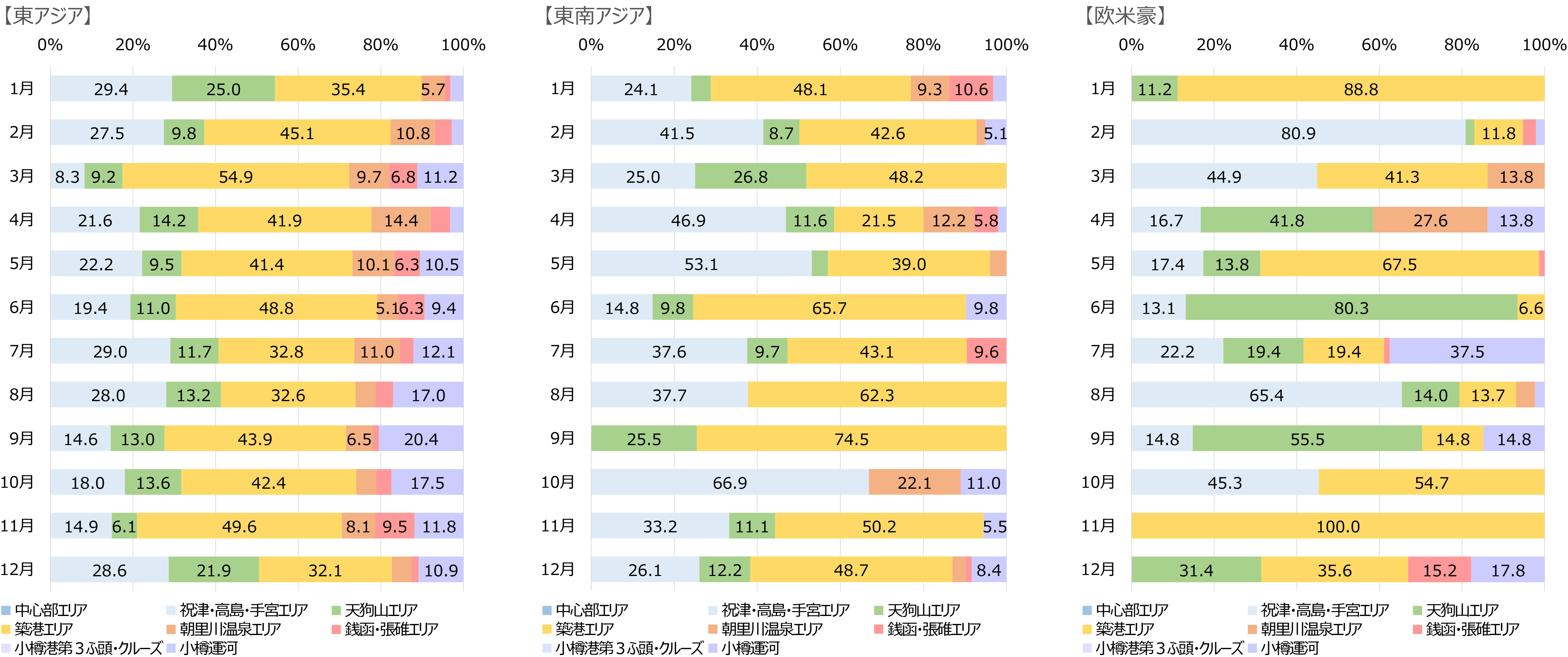


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

中心部エリア来訪者の周遊先分布

- 東アジア居住者は築港エリアとの周遊が最も多く、3月に顕著である。また、秋季には小樽運河との周遊が増加している。
- 東南アジア・欧米豪居住者の周遊傾向は月により異なるが、祝津・高島・手宮エリアまたは築港エリアとの周遊が最多の月が多い。

● 周遊先分布 〈小樽市内〉



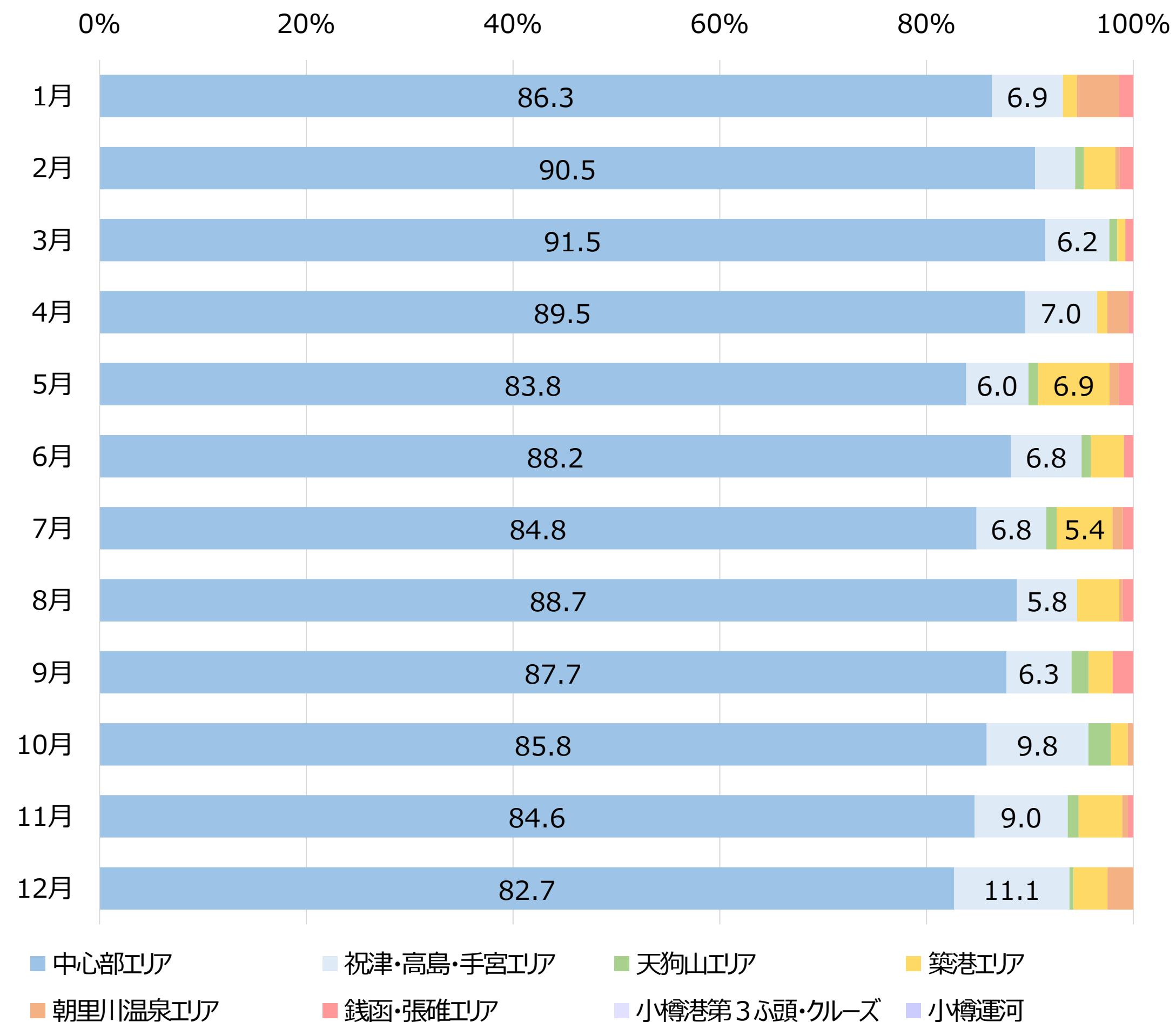
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

小樽運河来訪者の周遊先分布

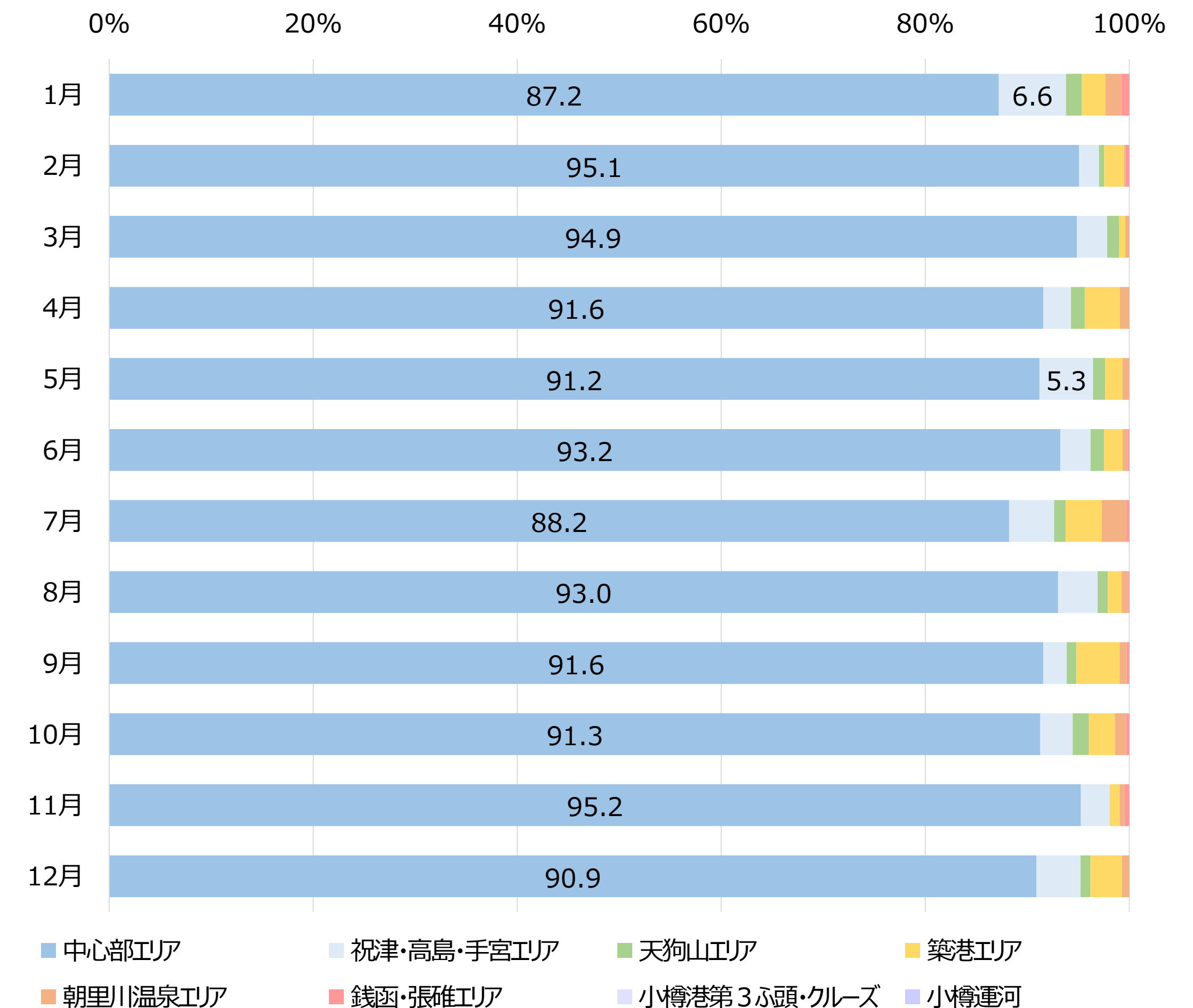
- 道内客・道外客とも、一年を通して中心部エリアとの周遊が圧倒的に多い。
- 道内客は、5月・7月は築港エリアとの周遊、12月は祝津・高島・手宮エリアとの周遊が比較的多くなる。

● 周遊先分布 〈小樽市内〉

【日本人観光客(道内)】



【日本人観光客(道外)】



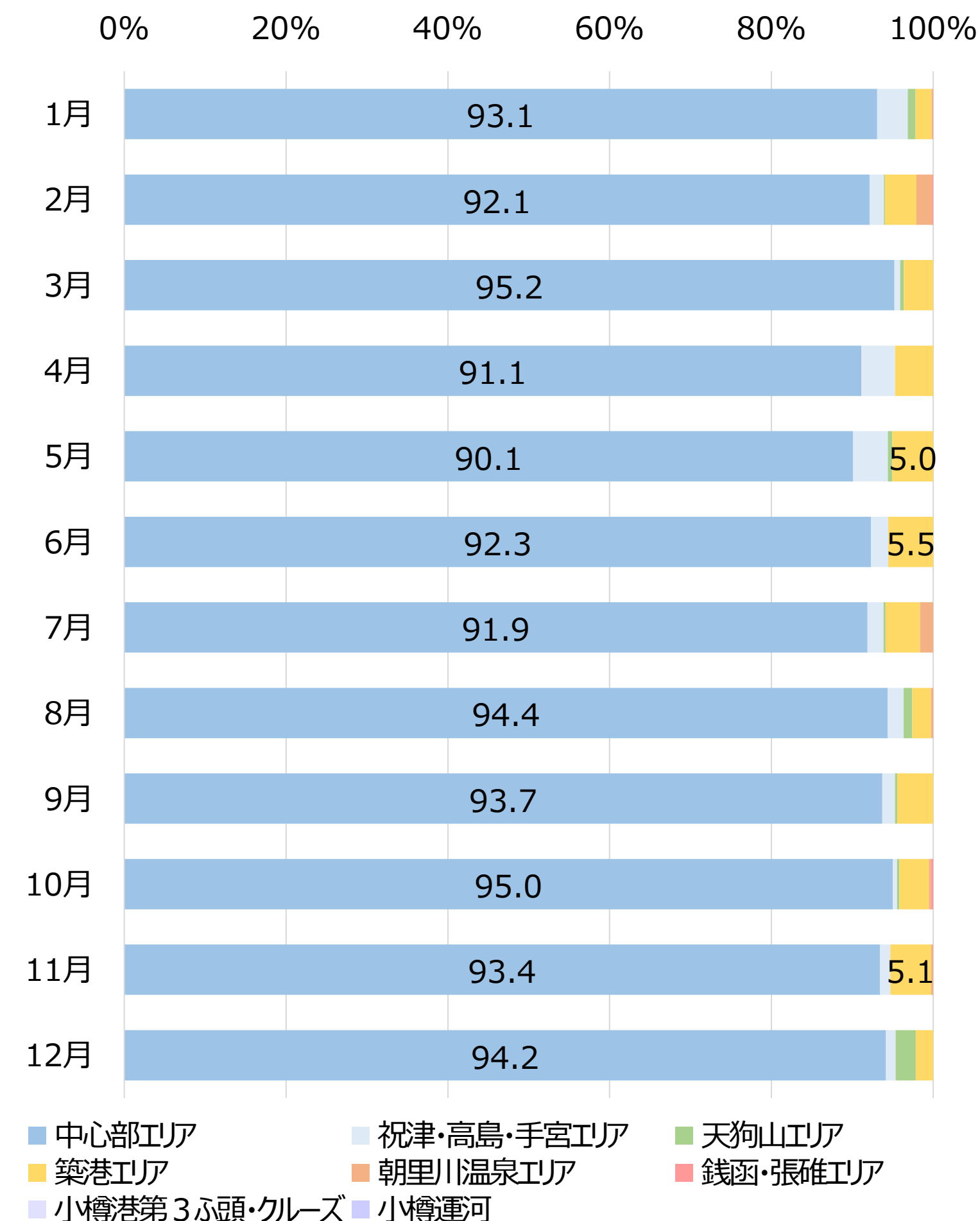
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

小樽運河来訪者の周遊先分布

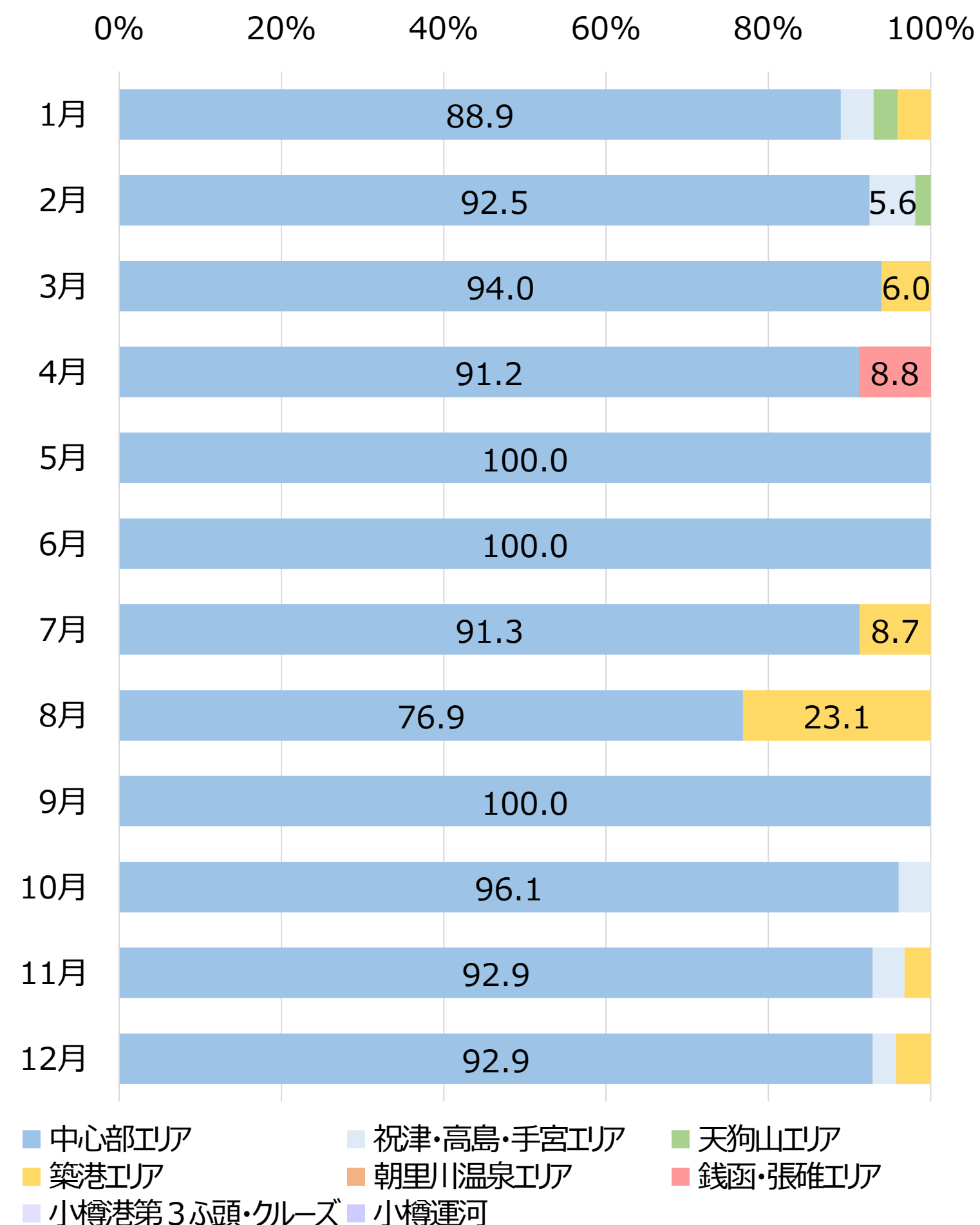
- 各市場とも、一年を通して中心部エリアとの周遊が多い。
- 東南アジアの8月は築港エリアとの周遊、欧米豪の1月は天狗山エリアとの周遊が比較的多くなる。

● 周遊先分布 〈小樽市内〉

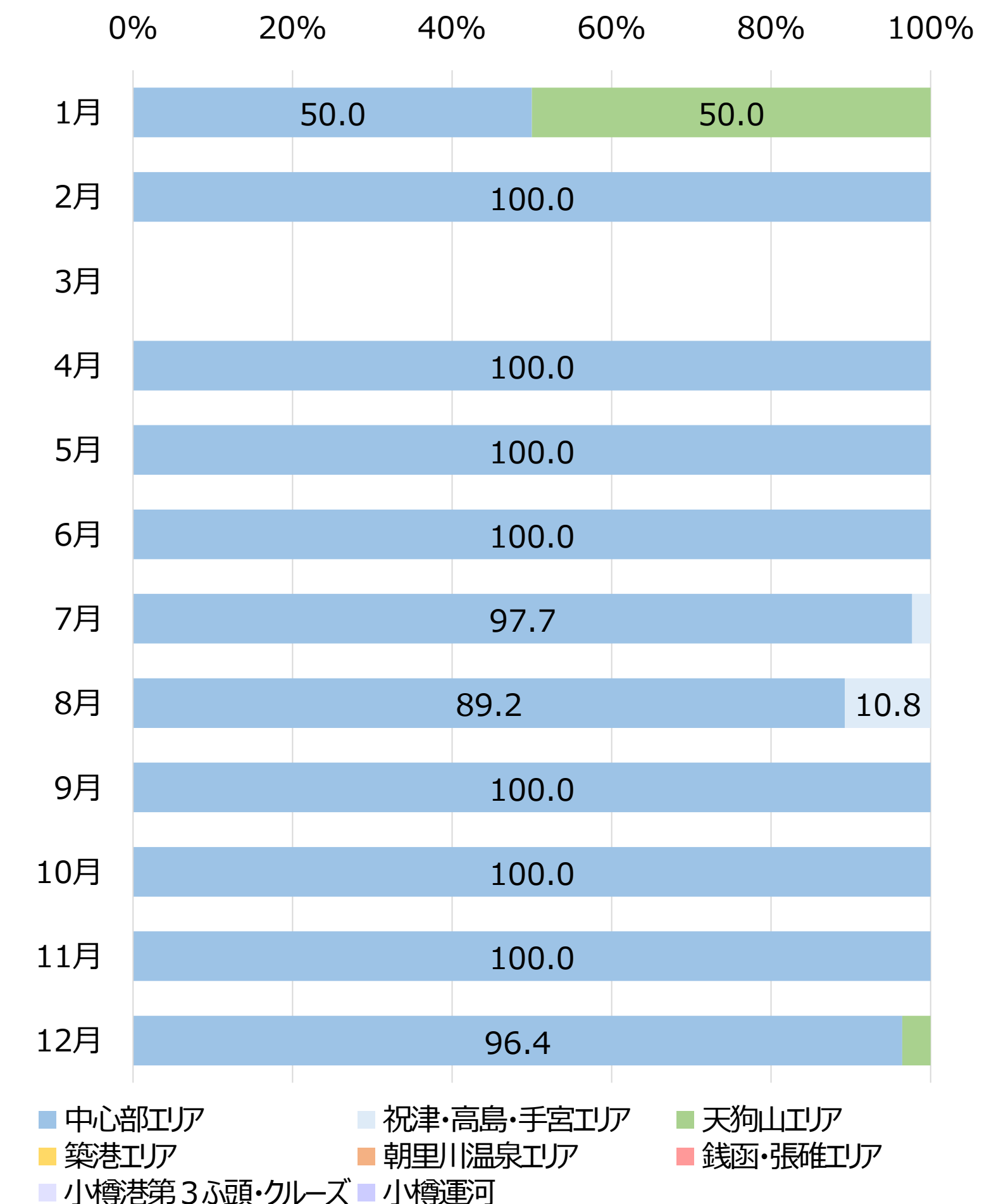
【東アジア】



【東南アジア】



【欧米豪】



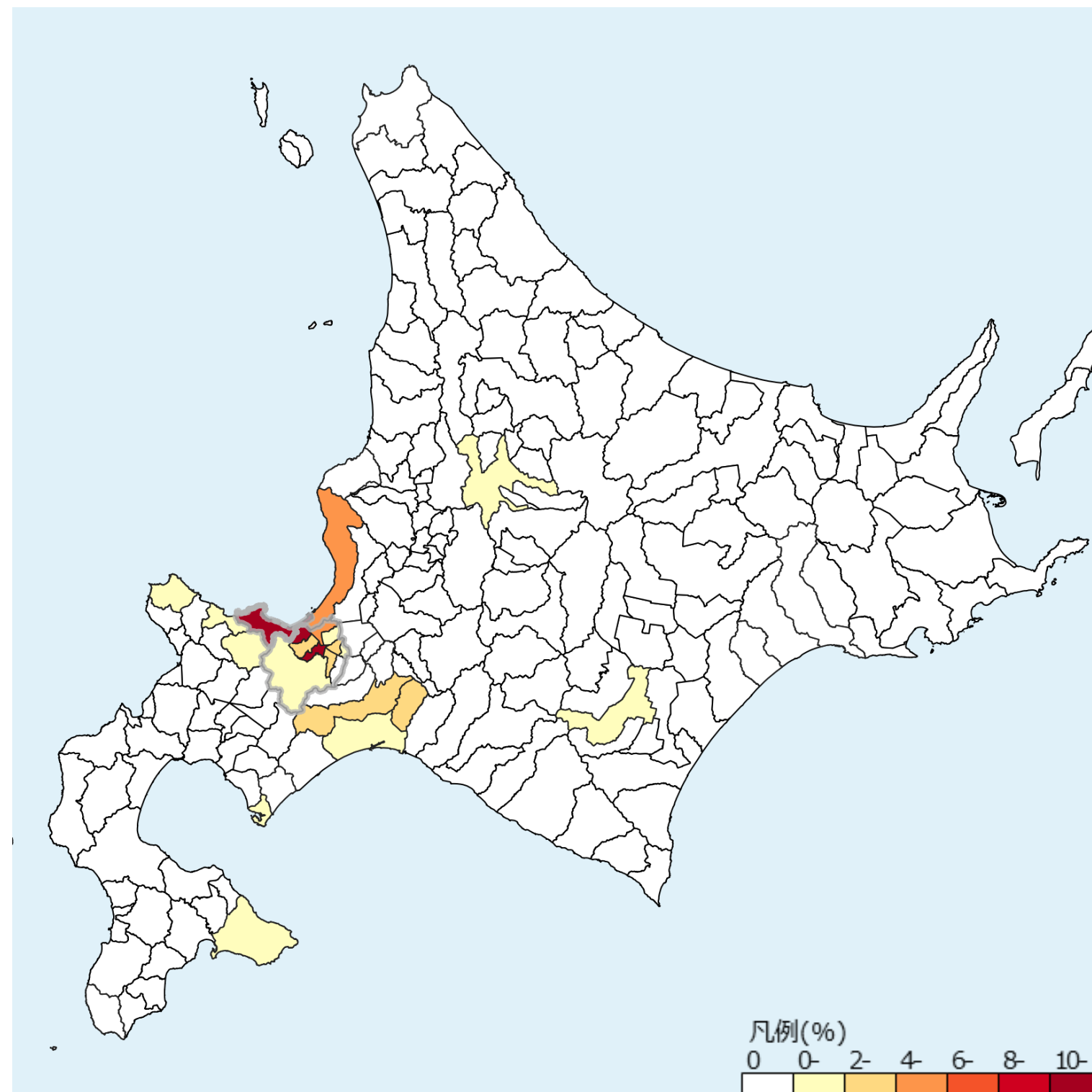
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

第3 ふ頭〈クルーズ〉来訪者の周遊先分布（2024年）

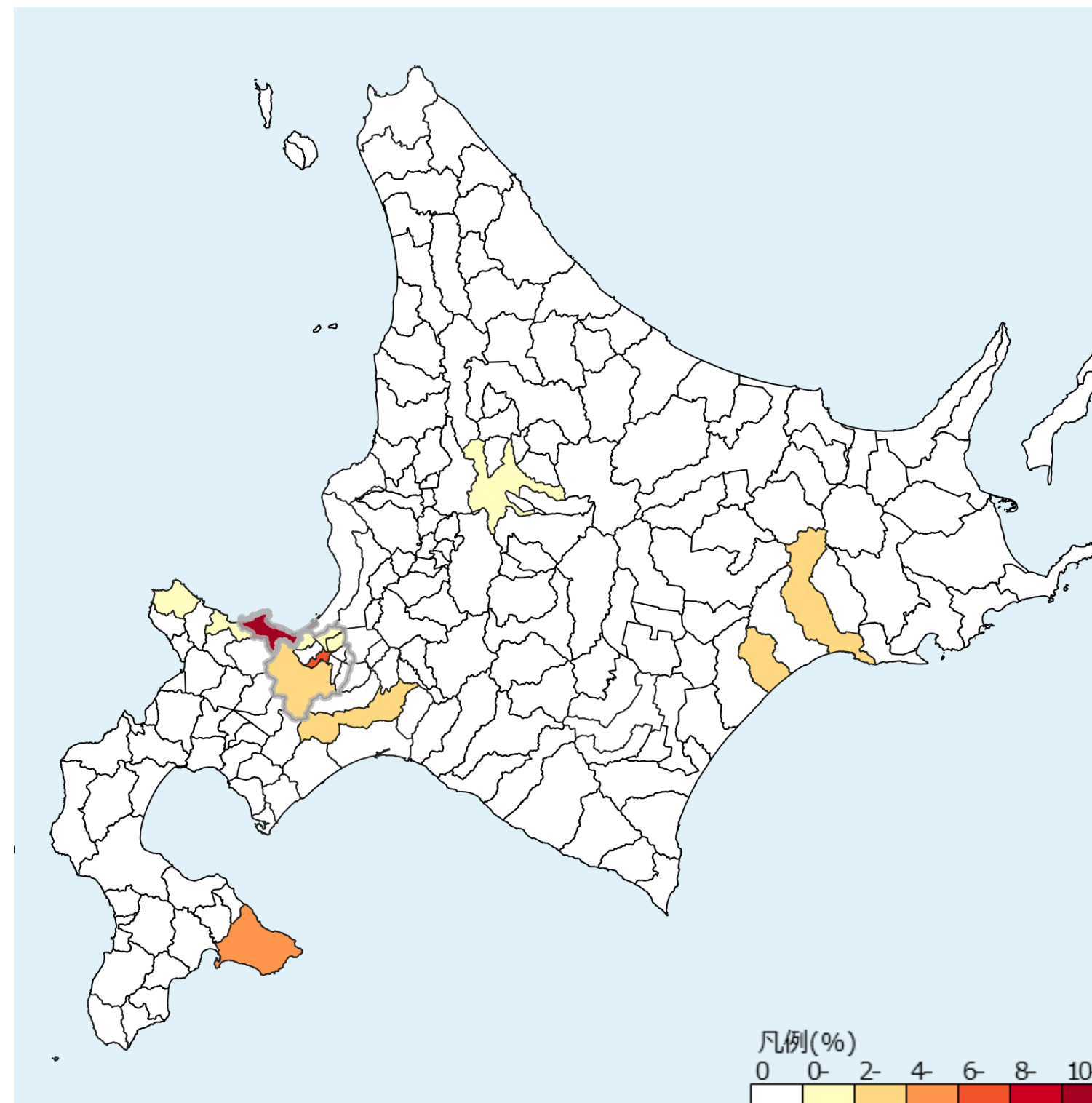
- 道内客の周遊先は、小樽市内のほか札幌市中央区・札幌市手稲区が多く、道外客は小樽市内のほか札幌市中央区・函館が多い。
- インバウンドの周遊先は、小樽市内のほか函館・札幌市南区・札幌市厚別区が多い。

● 周遊先分布 〈全道、2024年4～12月〉

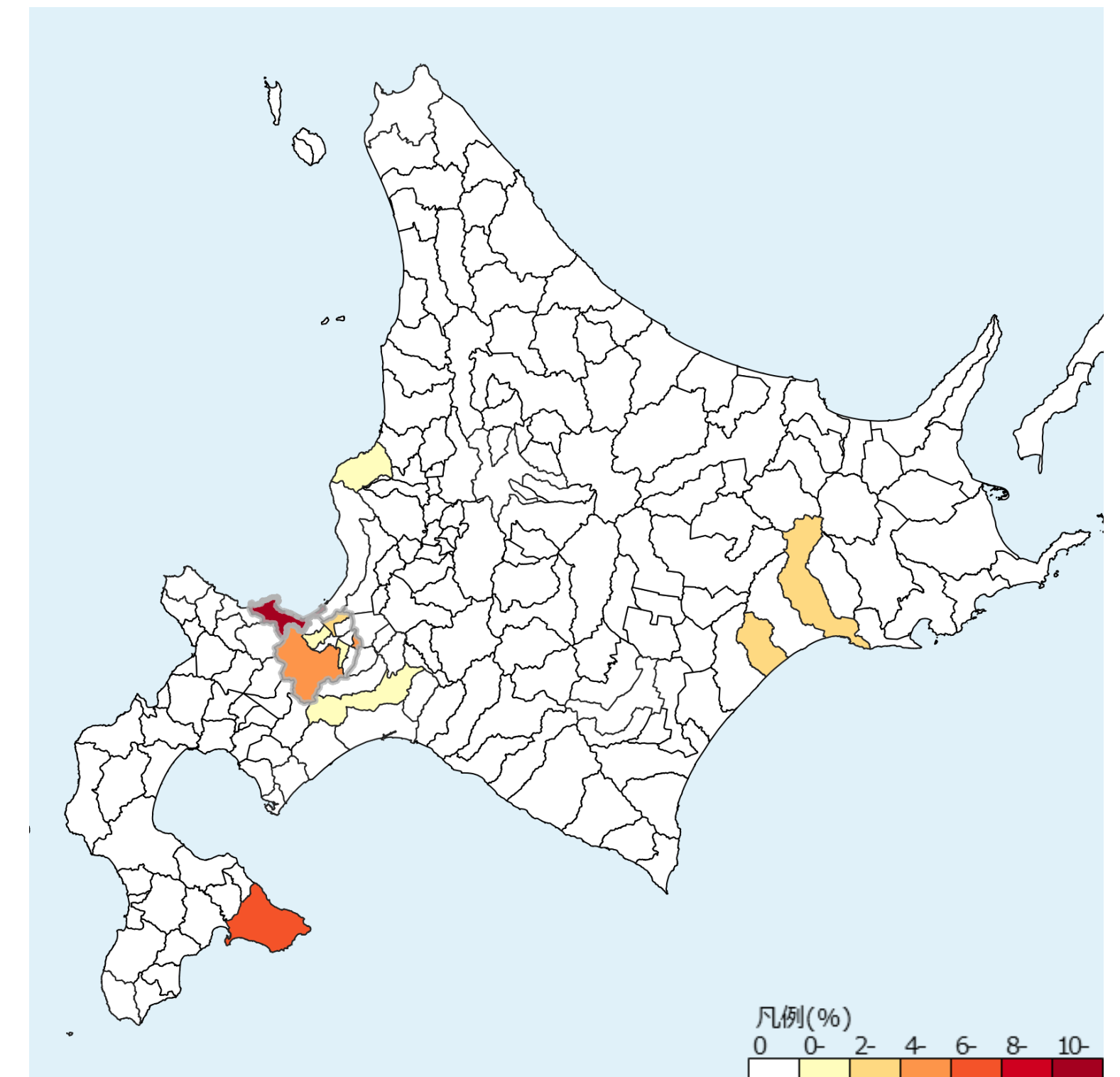
【道内客】



【道外客】



【インバウンド】

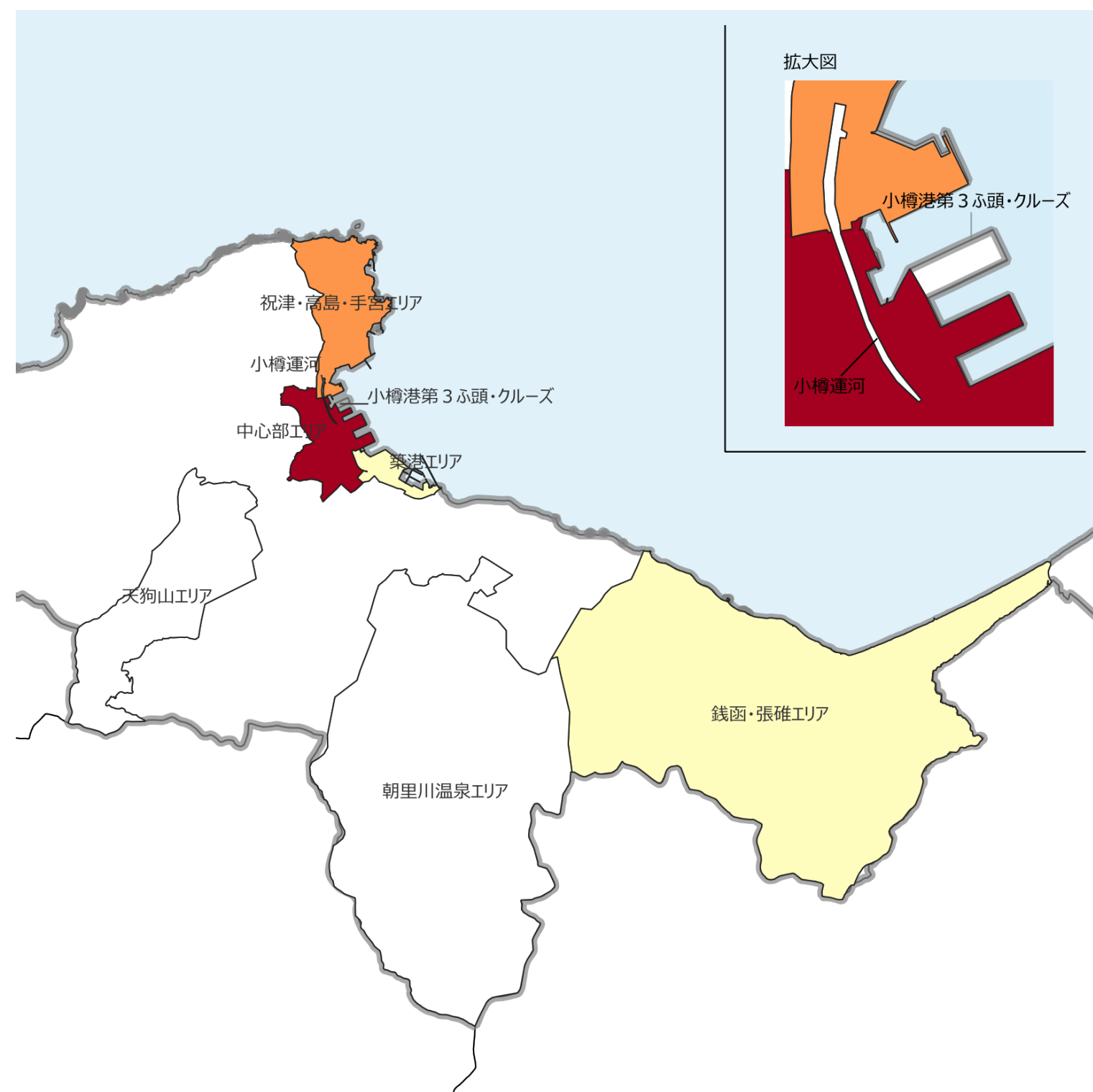


第3 ふ頭〈クルーズ〉来訪者の周遊先分布（2024年）

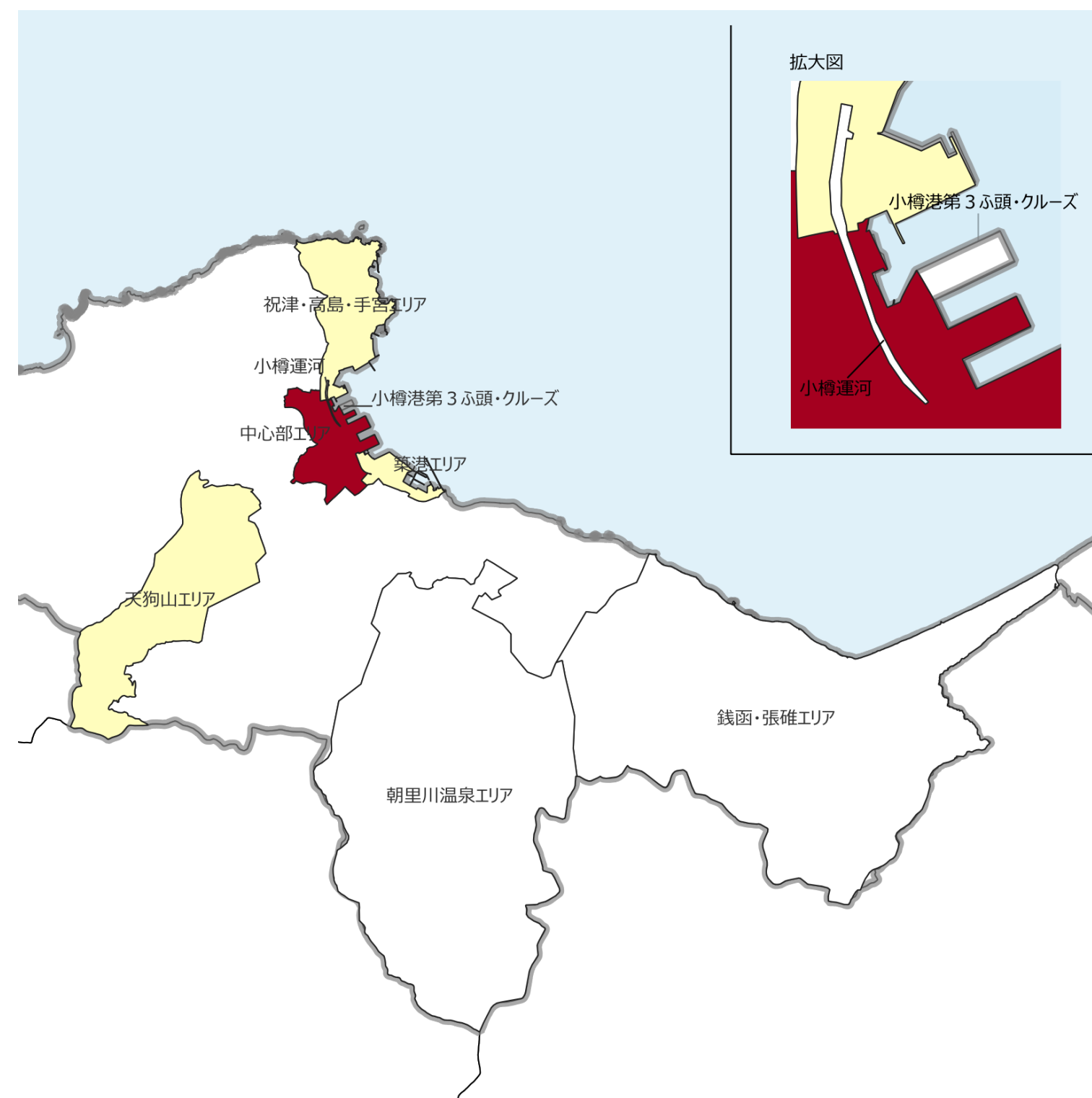
- 小樽市内における周遊先は、道内客・道外客・インバウンドともに中心部エリアが特に多く、道内客・インバウンドにおいては次いで祝津・高島・手宮エリアが多い。道内客は銭函・張碓エリアへの周遊も見受けられる。

● 周遊先分布 〈小樽市内エリア別、2024年4～12月〉

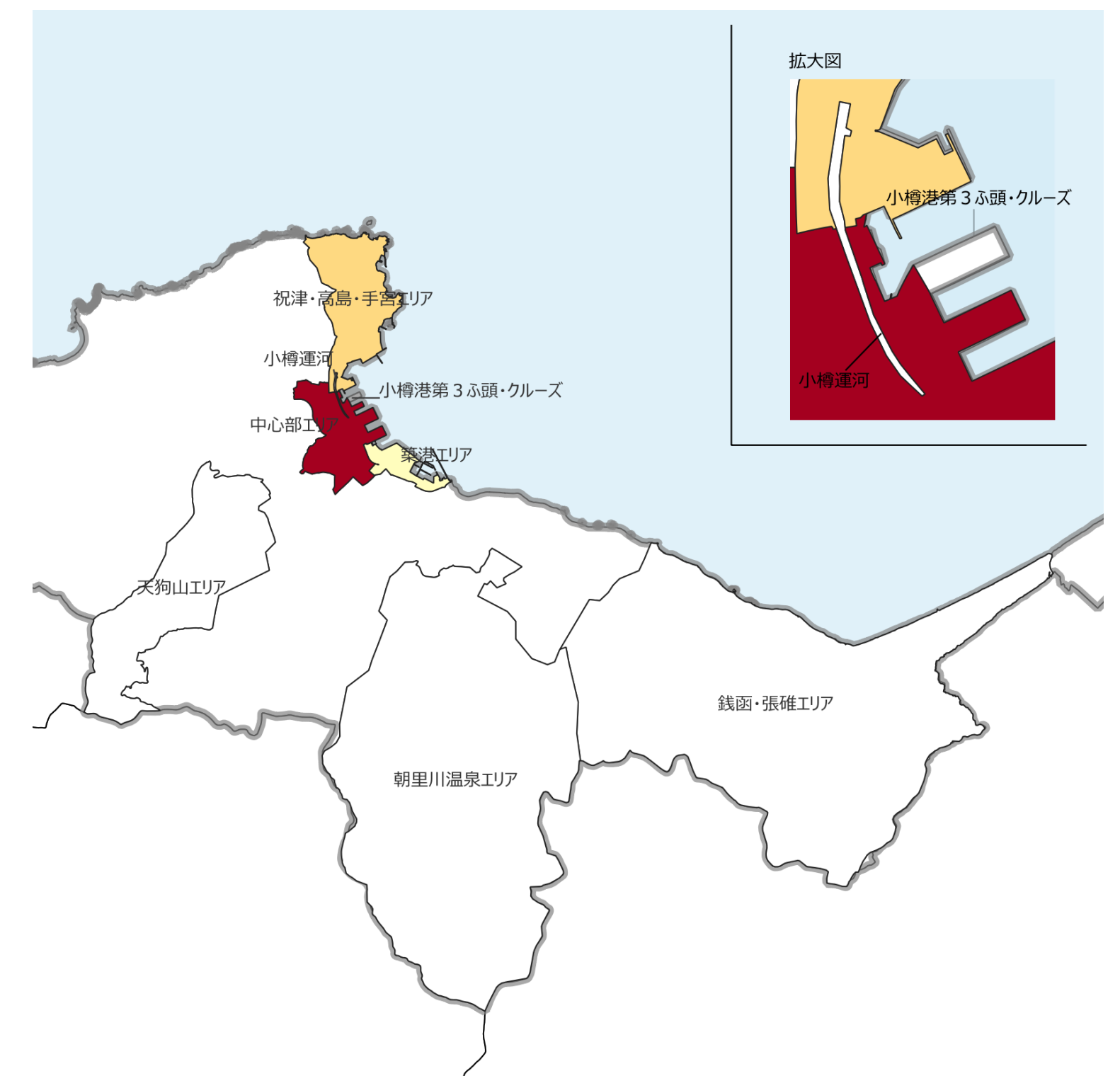
【道内客】



【道外客】



【インバウンド】



まとめ：小樽市インバウンド観光の概況（2024年）

観点	全域	エリア別
入込客数・居住国	➤ 総数では、12月・8月の来訪が多く、6月・5月は落ち込む ➤ 国別では、1月～6月は台湾が最多、7月～12月は韓国が最多	➤ 祝津・高島・手宮、築港エリアでは香港・タイが目立つ ➤ 天狗山エリアでは、総数で8月・10月・12月の来訪が多く、割合では他のエリアに比べ台湾・香港が多い ➤ 朝里川温泉エリアでは、総数で2月・12月の来訪が多く、割合では他のエリアに比べ韓国が多い ➤ 銭函・張碓エリアでは、総数で10月の来訪が多い ➤ クルーズでは、韓国が最多、次いでフィリピン・台湾が多い
来訪時間帯	➤ 日本人に比べて、9～14時台に来訪が集中 ➤ 東アジア居住者は、5月・7月・10月・12月が9～11時台、それ以外の月は12～14時台がピーク	➤ 中心部エリアでは、12～14時台にピーク ➤ 小樽運河でも、6月を除き12～14時台にピーク ➤ 天狗山エリアでは、12月を除き15～20時台にピーク ➤ 4月・6月は、来訪時間帯が比較的分散
滞在時間・宿泊数	➤ 東アジア居住者は、道外客に比べて滞在時間・市内宿泊数ともに少なく、短期滞在傾向 ➤ 東南アジア・欧米豪居住者は、滞在時間が東アジア居住者よりも長い傾向にあるが、3月・6月・9～11月は落ち込む	➤ 宿泊地である朝里川温泉エリアのほか、銭函・張碓エリアでも滞在時間が長い傾向にあり、特殊需要がうかがえる
周遊先	➤ 東アジア居住者は、札幌のほか千歳との周遊が特に多く、次いで洞爺湖・登別が多い ➤ 東南アジア居住者は、札幌のほか、2月・12月は赤井川、7月は余市、10月は千歳との周遊が特に多い ➤ 欧米豪居住者は、札幌のほか、2月・11月は登別、5月は函館、7月は江別、10月は上川との周遊が特に多い	➤ 中心部エリアの東アジア居住者では、築港エリアや小樽運河との周遊が多い ➤ クルーズでは、市外は函館・札幌との周遊、市内は中心部エリアとの周遊が多い

まとめ：本業務の成果、次年度に向けて

観点（業務目的）	本業務の成果（達成状況）	次年度に向けて（課題や展望）
(1) 小樽市では、昭和35年度から観光入込客数調査を実施しているが、外国人の日帰り客数や観光客の移動等については把握していない。また、適時性・迅速性に欠け、調査協力施設等（観光地点）の確保が難しいといった課題がある。	➤ GPS人流データの活用により、外国人を含む居住地別の分析、滞在時間や宿泊数の分析、周遊先の分析を実現した。 ➤ 既存統計調査に比べ、迅速なデータ提供を実現した。 ➤ 人流データの調査対象エリアとして設定することで、各観光地等の協力を得ずとも、また従来調査が困難であった屋外エリアであっても各種調査を可能とした。	➤ 2025年になり、オーバーツーリズムが俄かに小樽市の社会問題となったことから、本業務で定義したような「エリア別」のほか、細かい「メッシュ別」での分析も行うことが有効である（→参考③）。 ➤ エリアやメッシュが細くなり個別の観光地とほぼ同義になる場合、当該観光地において収集しているデータを提供いただくことで、人流データ分析の精度を向上させることができる。
(2) 外国人観光客が増加するなど小樽観光を取り巻く状況は変化しており、データ分析に基づく「打ち手」を検討する必要があることから、本業務においては、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準（令和5年改訂版）」の調査要領に準じ、GPS人流データを活用し多サンプルに基づく来訪者（国内・外国人）の把握を目的とする。	➤ GPS人流データの活用により、多サンプルに基づく来訪者（国内・外国人）の把握を実現した。 ➤ 観光動態に係る多様な情報を、エリア別に可視化・提供することにより、オーバーツーリズムの実態（繁閑傾向）など、観光関連事業者等による「打ち手」実行に資する情報を提供した。	➤ 本業務で使用した人流データでは中国人が捕捉対象外であったことから、自己申告であっても中国人を捕捉可能なデータを併用することも検討しうる。 ➤ 観光関連事業者等のニーズに応じたエリア設定の見直しを図ることが、より有益な情報提供に繋がると考えられる。 ➤ 分析結果をふまえた、観光関連事業者等に対する具体の「打ち手」の実行支援や成功体験の獲得とその周知が、データドリブンマーケティングやEBPMの全市的波及に繋がると考えられる。
(3) また、小樽市がこれまで実施してきた観光入込客数調査をGPS人流データを使用した調査に切り替える場合の両者の結果の違いの傾向を把握するとともに、GPS人流データを用いる際の観光入込客の定義や、観光入込客の移動元・移動先分布に係るデータ取得のあり方、観光消費額算定上の観光入込客数（実人数）把握のあり方についての検討も併せて行うことを目的とする。	➤ 既存統計調査と人流データ調査による結果の違いの傾向を把握した（→参考①）。 ➤ 観光入込客の定義をはじめ、人流データの活用に伴い検討が必要な事項について整理のうえ、集計を進めた（→参考②）。	➤ 観光地の特性（小樽運河、クルーズ、商店街等）に応じた観光客の捕捉や定義の方法については、継続した検討を要する。 ➤ 観光消費額算定にあたっては、居住地別に消費単価が異なると想定されることから、人流データ分析で得られた居住地別の入込客数を有効に活用できると期待される。なお、消費単価についても、決済データ等で居住地別に把握することが望ましい。

● 人流データによる入込客数・宿泊客数（再掲）

エリア	項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
小樽市全域	観光入込客数	542,500	614,100	495,900	379,500	468,300	579,700	685,200	738,300	584,300	636,200	458,000	735,000	6,917,100
小樽市全域	うち道内	416,700	497,800	380,700	293,200	367,600	480,100	533,200	566,500	456,700	472,700	343,900	544,000	5,353,200
小樽市全域	うち道外(外国人含む)	125,800	116,300	115,100	86,300	100,700	99,700	151,900	171,800	127,600	163,500	114,200	191,000	1,563,900
小樽市全域	うち外国人	56,900	53,900	53,600	30,900	30,200	19,800	73,000	85,900	54,100	74,900	60,400	112,700	706,200

エリア	項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
小樽市全域	宿泊客数	73,200	80,300	67,700	52,200	59,600	84,200	102,300	111,600	85,800	86,200	71,200	87,000	961,100
小樽市全域	うち道内	32,500	34,900	33,000	25,200	31,200	44,100	42,600	46,800	36,500	35,700	30,300	33,700	426,500
小樽市全域	うち道外	22,500	19,600	23,400	18,200	20,800	27,100	30,400	35,900	27,600	25,200	19,900	22,100	292,700
小樽市全域	うち外国人	18,200	25,800	11,400	8,800	7,500	13,000	29,200	28,900	21,700	25,300	21,000	31,200	241,900

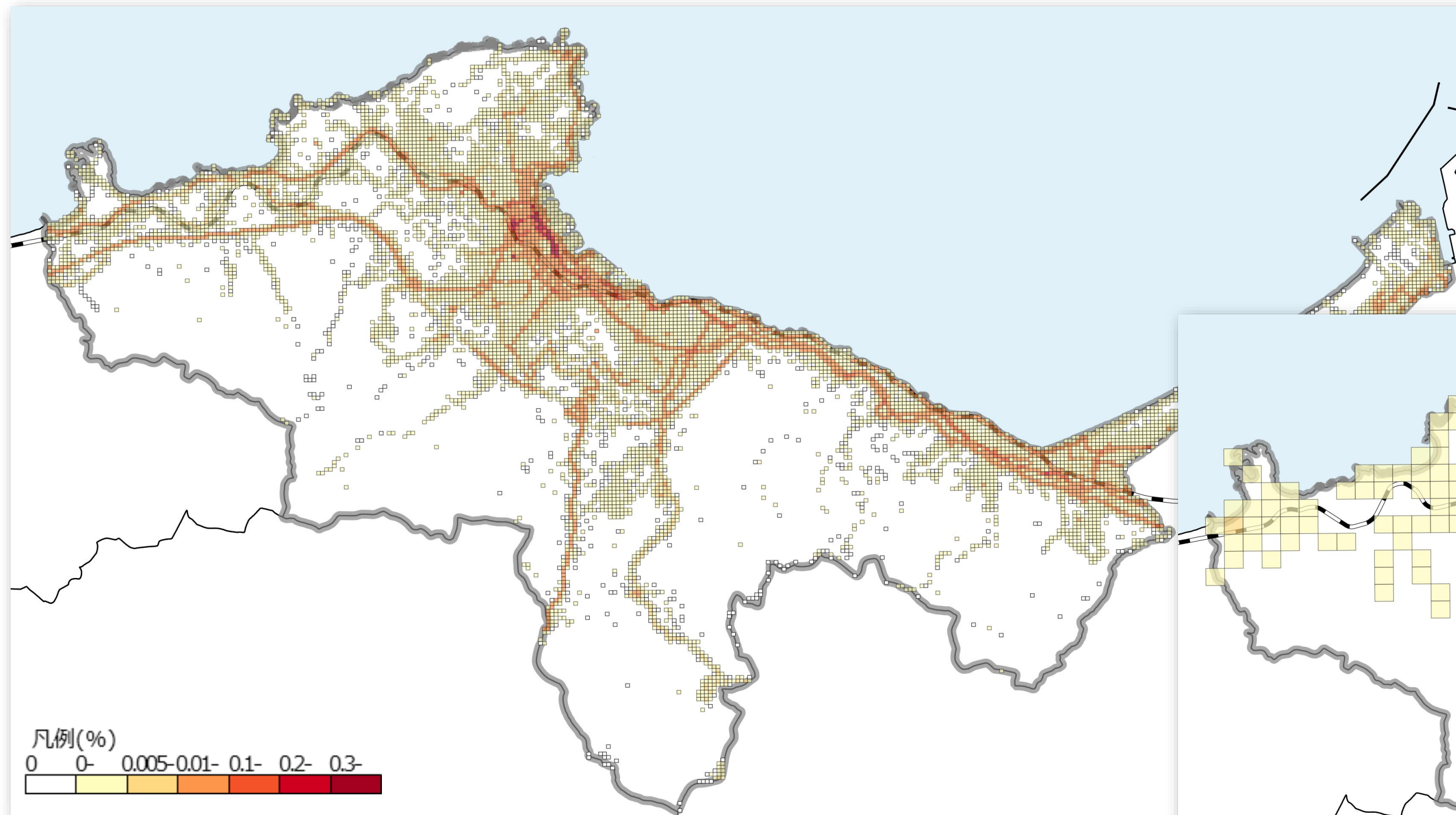
● 人流データと既存統計調査との比較

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
人流データによる観光入込客数	542,500	614,100	495,900	379,500	468,300	579,700	685,200	738,300	584,300	636,200	458,000	735,000	6,917,100
既存調査による観光入込客数	665,500	799,100	661,600	431,500	515,700	680,900	795,900	858,500	680,600	634,700	479,000	754,500	7,957,500
乖離率（ 人流データ/既存調査-1 ）	18.5%	23.1%	25.1%	12.1%	9.2%	14.9%	13.9%	14.0%	14.1%	0.2%	4.4%	2.6%	13.1%
人流データによる宿泊客数	73,200	80,300	67,700	52,200	59,600	84,200	102,300	111,600	85,800	86,200	71,200	87,000	961,100
既存調査による宿泊客数	71,000	76,600	63,100	48,700	63,800	81,100	99,400	107,900	89,400	85,400	66,600	86,400	939,400
乖離率（ 人流データ/既存調査-1 ）	3.0%	4.8%	7.3%	7.3%	6.6%	3.8%	2.9%	3.4%	4.1%	1.0%	6.8%	0.7%	2.3%

項 目	内 容
「（日本人）観光客」の定義について	日本人全体から、小樽市民のほか、小樽市に月6回以上来訪している人※および小樽市内が通勤/通学先と判定されている人を除いたもの。 ※「観光入込客統計に関する共通基準（令和5年改訂版）」（以下「共通基準」という）の定義に基づく。
インバウンドの捕捉について	国家体制上、中国人の位置情報は捕捉することができないため、以下の方法で人数の補完を行っている。 ①新千歳空港の出入国管理統計から、「中国人」と「台湾人＋香港人＋韓国人」の比率を算出。 ②人流データにおける「台湾人＋香港人＋韓国人」の合算値に上記比率を掛け合わせ、「中国人」の人数を補完。 ※中国人のほかロシア人の位置情報も捕捉することができないが、統計上無視できる状況にある（新千歳空港の入管統計で約2.5人/日）。
拡大推計について	主に、国別のサンプル率（日本人・インバウンド）、人口統計（日本人）、出入国管理統計（インバウンド）により、国別の拡大推計を実施している（いずれも詳細は非公開）。 なお、拡大推計も含め本頁記載の各種ロジックは、同一業務内で変更されるものではなく、安定性を確保している。
滞在判定について	エリア内に一定の時間以上滞在することにより、入込客としてカウントしている。 滞在判定の閾値は原則として「15分」としているが、エリアの面積や性質をふまえ、②小樽運河エリアは「0分」、⑥朝里川温泉エリア/⑦銭函・張碓エリアは「30分」に設定している。
宿泊地/居住地判定について	午前2-3時台に最も多く滞在していた地点を宿泊地、数か月間に最も多く滞在していた宿泊地を居住地と判定している。 ※共通基準では「午前4時に滞在していた地点を宿泊地とみなす」としているが、午前4時ちょうどに位置情報を捕捉できるとは限らないため。
交通手段判定について	位置情報の「移動ルート」と「移動速度」により判定を行っており、JR/クルーズ/自動車/徒歩 の4つに分類される。 なお、自転車については走行速度に幅があることから、10km/hを閾値として自動車または徒歩に振り分けている。
個人情報保護について	位置情報から個人が特定されないよう、緯度経度がずらされて記録されることがある。 また、同様の観点から一定の閾値を下回ったデータは秘匿されるが、その可能性は分析項目により異なる。 インバウンドの一例として、「居住地」は国のみで細分化されており秘匿可能性が比較的低いが、「来訪時間帯×周遊先分布」は、国・時間帯・周遊先の掛け合わせとなるため秘匿可能性が高くなる。

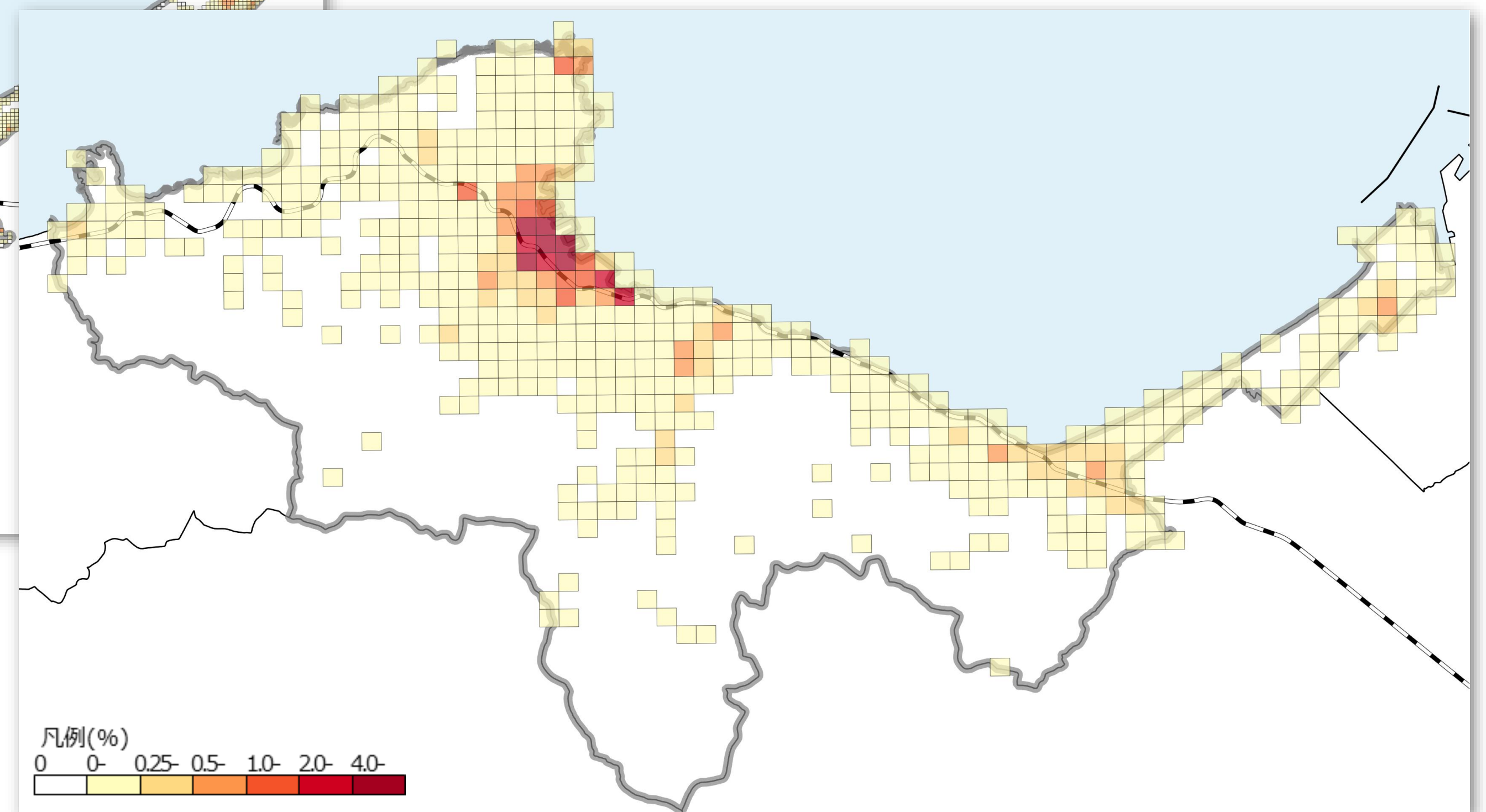
参考③：メッシュ別分析のイメージ

- メッシュ単位での分析を月別・日別・時間帯別・居住地別などの観点で行うことにより、オーバーツーリズムの実態を細密に把握することが可能となる。



↑ 100mメッシュ単位のヒートマップ

500mメッシュ単位のヒートマップ →



➤ 2024年1～12月の1か月毎およびゴールデンウィークの計13回の報告や本資料による総括のほか、以下の会議対応を行った。

会議名	開催日・場所	対応事項
① DMO形成連絡会議	2024年7月22日 @いなきたコミュニティセンター	本業務の実施概要の報告
② 小樽商工会議所 国際・観光委員会	2025年2月 7日 @小樽経済センター	本業務の成果概要（中間版）の報告
③ オーバーツーリズム対策連絡協議会	2025年2月10日 @小樽市役所	2024年春節連休期間における 日別インバウンド入込データの提供
④ DMOマーケティング部会・地域部会	2025年3月19日 @小樽文学館	本業務の成果概要の報告

